

統合型会計情報システム

FX4 クラウド

TKC 経理業務 効率化セミナーテキスト

セミナー内容

第1部 仕訳読込テンプレートのインボイス制度対応

第2部 お済みですか？電子取引データの保存対応

第3部 デジタルインボイスへの対応

目 次

はじめに.....	1
-----------	---

第1部 仕訳読込テンプレートのインボイス制度対応.....	5
-------------------------------	---

第1章 FX4クラウドのインボイス制度対応スケジュール	6
-----------------------------------	---

第2章 課税区分の追加	7
-------------------	---

第3章 読込項目「事業者登録番号」の追加	11
----------------------------	----

第4章 読込ファイル（仕入・経費）の修正対応.....	13
-----------------------------	----

第5章 読込ファイル（仕入・経費）の修正対応【連携方法別】	14
-------------------------------------	----

第6章 （その他）読込ファイルの修正対応.....	17
---------------------------	----

第2部 お済みですか？電子取引データの保存対応	19
-------------------------------	----

第1章 「証憑保存機能」で電子取引データを簡単・安心・便利に保存.....	21
---------------------------------------	----

第2章 ペポルインボイスの受信・保存にも対応！	24
-------------------------------	----

第3部 デジタルインボイスへの対応	25
-------------------------	----

第1章 デジタルインボイス.....	26
--------------------	----

第2章 インボイス・マネジャー2022(FX4クラウド)	31
------------------------------------	----

F X 4クラウドシステム解説書・操作説明書

セミナーでご紹介した機能にかかる「F X 4クラウドシステム解説書(第 38 版)」と「F X 4クラウド操作説明書(第 38 版)」の抜粋を掲載します。

(注)項目名、章及び項番はそのままとしています。

なお、「F X 4クラウドシステム解説書(第 38 版)」および「F X 4クラウド操作説明書(第 38 版)」は、F X 4クラウドの「ヘルプ」メニューにある「システム解説書」ならびに「操作説明書」をクリックで確認いただけます。

システム解説書

第 2 章 仕訳の入力

2. 他システムとの仕訳連携

2. 1 機能概要	38
2. 2 仕訳連携処理の流れ.....	43
2. 3 自動仕訳ファイルの形式	45
2. 4 仕訳読込テンプレートの設計機能.....	48
2. 5 コード変換表機能.....	51
2. 6 データ作成上の注意.....	57

操作説明書

第 5 章 「仕訳連携」 タブ

1. 業務システムからの自動仕訳読込

1. 1 「1 TKC システム自動仕訳の読込」	59
1. 2 「2 他社システム自動仕訳の読込」	60

2. 業務システム別仕訳合計表

2. 1 「11 業務システム別仕訳合計表」	64
------------------------------	----

3. 仕訳読込履歴

3. 1 「21 仕訳読込履歴」	66
------------------------	----

4. 事前準備 (仕訳読込)

4. 1 「31 業務システムの登録」	69
4. 2 「32 ファイルレイアウト設定」	72
4. 3 「33 読込フォルダの設定」	88
4. 4 「34 業務システム情報の印刷」	89

システム解説書

第 2 章 仕訳の入力

7. Excel からの仕訳計上

7. 1 機能概要	90
7. 2 事前準備	91
7. 3 仕訳計上	95
7. 4 仕訳の洗い替え計上.....	96
7. 5 計上仕訳の確認.....	98
7. 6 利用上のご注意.....	98

第5章 「仕訳連携」タブ

5. 事前準備 (Excel からの仕訳計上)

5. 1 「41 Excel フォーマットの登録」	99
5. 2 Excel からの仕訳洗い替え計上機能.....	102

第2章 仕訳の入力

5. 証憑保存機能

5. 1 機能概要	103
5. 2 利用の流れ	104
5. 3 その他の機能	129

はじめに

セミナー資料

TKC経理業務 効率化セミナー (2023春)

■目次

- 第1部 仕訳読込テンプレートのインボイス制度対応
- 第2部 お済みですか？ 電子取引データの保存対応
- 第3部 ペポルインボイスへの対応

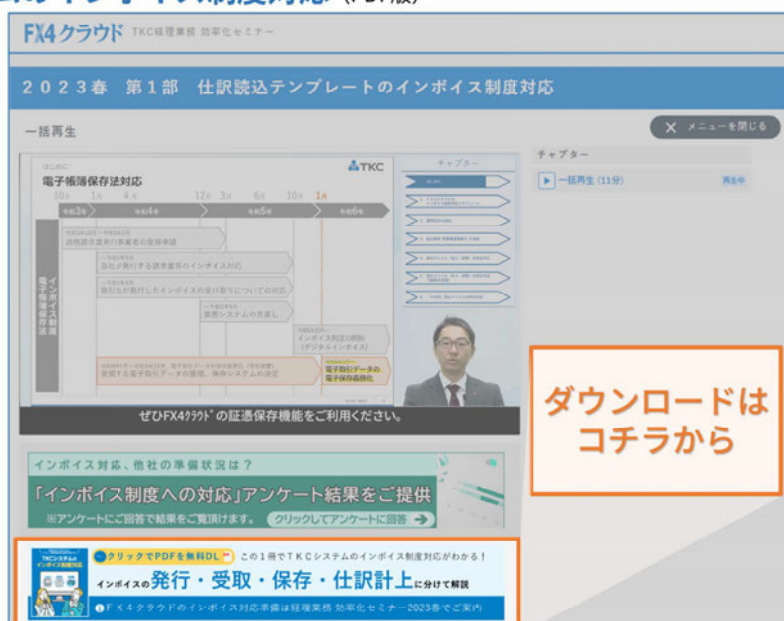
※レベルアップ機能は開発中につき、予告なく変更になる場合があります

©TKC 2023

はじめに

(ご案内) 冊子：TKCシステムのインボイス制度対応

TKCシステムのインボイス制度対応 (PDF版)



TKCシステムは、「インボイス制度」と「電子取引データ保存の義務化」に完全対応します。
また、スムーズな制度改正対応だけでなく、タイムリーな業績管理体制の構築をご支援します！
制度改正への対応によりTKCシステムがどう変わるのかを解説した冊子(PDF)をご提供します。

インボイス制度対応

10月 1月 4月 12月 3月 6月 10月 1月

令和3年 令和4年 令和5年 令和6年

電子帳簿保存法

令和3年10月～令和5年3月
適格請求書発行事業者の登録申請

～令和5年9月
自社が発行する請求書等のインボイス対応

～令和5年9月
取引先が発行したインボイスの受け取りについての対応

～令和5年9月
業務システムの見直し

令和5年10月～
インボイス制度の開始
(デジタルインボイス)

令和4年1月～令和5年12月 電子取引データの保存義務化（宥恕措置）
受領する電子取引データの整理、保存システムの決定

令和6年1月～
電子取引データの
電子保存義務化

©TKC 2023

2

読込ファイルの修正対応

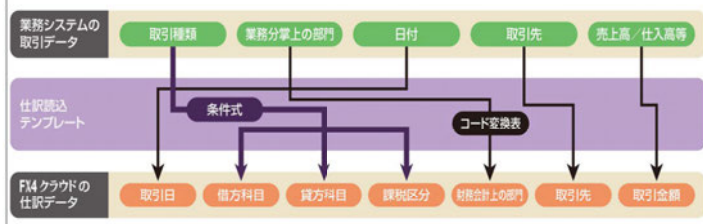
F X 4クラウドは、業務システム等から出力された読込ファイルやE x c e lから仕訳を計上する機能を搭載しています。

当機能を用いてインボイス制度に対応した仕訳を計上するため、必要に応じて読込ファイルの修正をお願いします。

仕訳読込テンプレートの設計機能

仕訳に必要な項目ごとに、読込ファイルの列参照・固定値・条件式・計算式・コード変換の設定が可能です。

そのため、業務システム(販売管理システム等)から出力された読込ファイルを加工することなく、仕訳の計上ができます。



E x c e lからの仕訳計上機能

E x c e lで作成した様々な管理ファイルからF X 4クラウドに直接、仕訳の計上ができます。計上元のE x c e lファイルは、計上した仕訳に画像保存されるため、仕訳画面からいつでも確認・取得ができます。

取引日	借方科目	借方金額	貸方科目	貸方金額	取引先	取引金額
11.4	10.00A 現金	1000	1000A 現金	1000	現金	1000
11.4	10.00A 現金	1000	1000A 現金	1000	現金	1000
11.4	10.00A 現金	1000	1000A 現金	1000	現金	1000
11.4	10.00A 現金	1000	1000A 現金	1000	現金	1000
11.4	10.00A 現金	1000	1000A 現金	1000	現金	1000
11.4	10.00A 現金	1000	1000A 現金	1000	現金	1000
11.4	10.00A 現金	1000	1000A 現金	1000	現金	1000
11.4	10.00A 現金	1000	1000A 現金	1000	現金	1000
11.4	10.00A 現金	1000	1000A 現金	1000	現金	1000
11.4	10.00A 現金	1000	1000A 現金	1000	現金	1000

©TKC 2023

3

電子帳簿保存法対応

10月 1月 4月 12月 3月 6月 10月 1月

令和3年

令和4年

令和5年

令和6年

令和3年10月～令和5年3月
適格請求書発行事業者の登録申請～令和5年9月
自社が発行する請求書等のインボイス対応～令和5年9月
取引先が発行したインボイスの受け取りについての対応～令和5年9月
業務システムの見直し令和5年10月～
インボイス制度の開始
(デジタルインボイス)令和4年1月～令和5年12月 電子取引データの保存義務化（宥恕措置）
受領する電子取引データの整理、保存システムの決定令和6年1月～
電子取引データの
電子保存義務化インボイス制度
電子帳簿保存法

©TKC 2023

4

標準機能「証憑保存機能」のご案内



電子取引データの保存に対応

メール等で受け取った請求書や領収書のPDF等を読み込み、電子取引データとして保存できます。また、「取引先名」「日付」「金額」「消費税」など証憑の内容を読み取り、仕訳の基礎データとして利用できます。



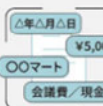
紙の証憑もかんたんデータ保存

紙で受け取った請求書や領収書等をスキャンし、電子データとして保存できます。また、「取引先名」「日付」「金額」「消費税」など証憑の内容を読み取り、仕訳の基礎データとして利用できます。



いつでもスマホからデータ保存

証憑をスマホで撮影して電子データとして保存できます。自宅・外出先・営業所など、場所を選びません。撮影した証憑は、経理担当者がリアルタイムに確認できるため、迅速な経理処理につながります。



仕訳をかんたん入力

読み取った内容を、仕訳入力時に初期表示します。不足する情報は電子データを見ながら補正入力できるので、効率的です。また、補正した内容をシステムが学習するため、使えば使うほど便利になります。



証憑と仕訳を並べて確認

証憑と仕訳を紐付けているため、1つの画面で並べて確認できます。証憑を探す手間がなくなり、チェック業務を効率化できます。



ファイリングや保存場所は不要

紙の原本は後で廃棄できるため、ペーパーレス化を図れます。面倒なファイリング作業や紙の保存場所は必要ありません。証憑の電子データは、TKCのデータセンター(TISC)で安全に保存します。

電子取引データの保存は、簡単・安心・便利な「証憑保存機能」にお任せください！

©TKC 2023

5

第1部

仕訳読込テンプレートのインボイス制度対応

セミナー資料

第1部

仕訳読込テンプレートのインボイス制度対応

■内容

1. F X 4クラウドのインボイス制度対応スケジュール
2. 課税区分の追加
3. 読込項目「事業者登録番号」の追加
4. 読込ファイル（仕入・経費）の修正対応
5. 読込ファイル（仕入・経費）の修正対応【連携方法別】
6. （その他）読込ファイルの修正対応

©TKC 2023

6

第1部 仕訳読込テンプレートのインボイス制度対応

第1部でお伝えしたいこと

F X 4クラウドは、インボイス制度に対応するため、「課税区分」と「仕訳読込テンプレートの読込項目」を追加します。また、免税事業者等からの課税仕入れ取引時に「仮払消費税等を自動計算」する機能を搭載します。

上記に伴い、

業務システム等から出力される読込ファイルについて、現状の運用を確認し、以下3点の修正対応をお願いします。

1. 課税仕入れを「免税事業者等からの課税仕入れ」と「適格請求書発行事業者からの課税仕入れ」に区分して読込ファイルに課税区分をセットしてください。
2. 「免税事業者等からの課税仕入れ」の場合、読込ファイルの「消費税等」には0円をセットしてください（F X 4クラウドで自動計算します）。
3. 新規追加する項目「事業者登録番号」（適格請求書発行事業者の登録番号）に、必要に応じて、**該当の事業者登録番号をセット**してください。
この項目には取引先コードから値を自動複写することもできます。

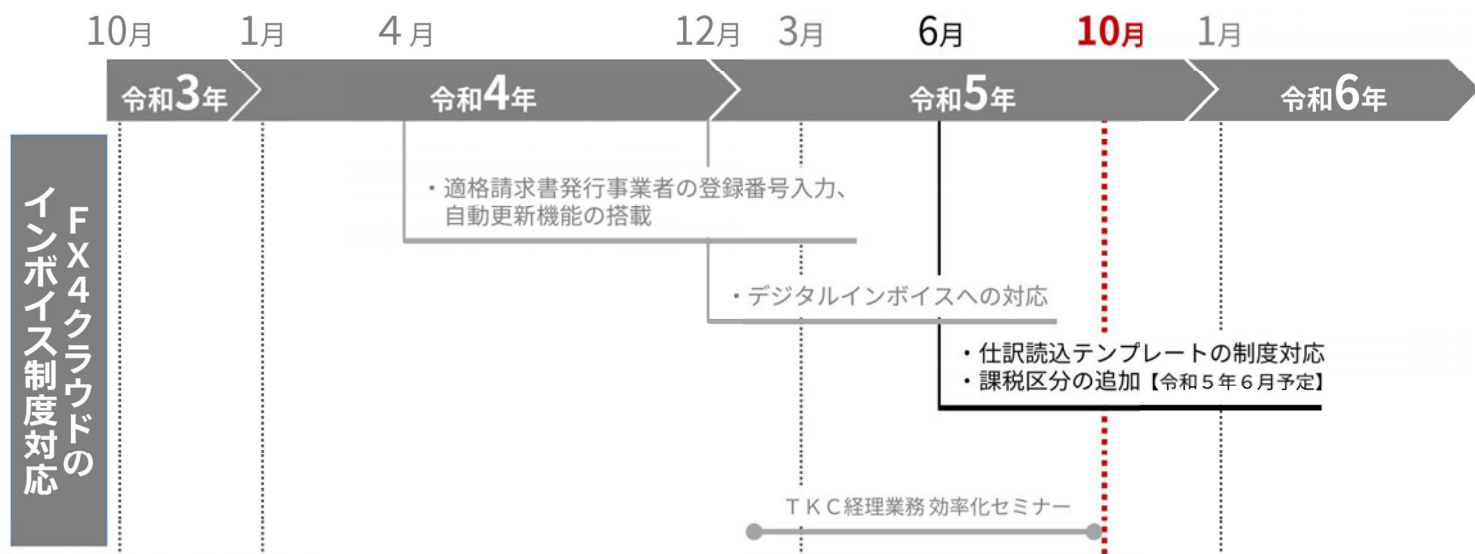
「免税事業者等からの課税仕入れ」に係る対応が中心です。
そのため、修正対象は**仕入・経費**の読込ファイルです。

※売上の読込ファイル修正については、スライド29「6.（その他）読込ファイルの修正対応」をご確認ください

©TKC 2023

7

1. F X 4 クラウドのインボイス制度対応スケジュール



- ・免税事業者等からの課税仕入れを処理する **課税区分の追加**
- ・仕訳読込テンプレートに **読込項目「事業者登録番号」**を追加
※免税事業者等からの課税仕入れに係る仕訳のチェック

業務システム等から出力される **F X 4 クラウドへの読込ファイルの修正**が必要

2. 課税区分の追加

(1) 課税区分の追加

課税仕入れを区分するため、

免税事業者等からの課税仕入れを処理する課税区分を追加します。

52	免税事業者等からの課税仕入れ(課税売上げ)
53	同課税仕入れ(免税事業者等)に係る対価の返還
62	免税事業者等からの課税仕入れ(非課税売上げ)
63	同課税仕入れ(免税事業者等)に係る対価の返還
72	免税事業者等からの課税仕入れ(売上げ共通)
73	同課税仕入れ(免税事業者等)に係る対価の返還

2. 課税区分の追加

(2) なぜ追加するの？

① インボイス制度とは

適格請求書発行事業者のみが発行可能な**適格請求書等の保存が仕入税額控除の要件**となります。

免税事業者や消費者など、**適格請求書発行事業者以外の者から行った課税仕入れは、原則として仕入税額控除の適用を受けることはできません。**

請求書			△△商事(株)
11月分 131,200円			登録番号 T 012345...
××年11月30日			
日付	品名	金額	
11/1	魚 *	5,000円	
11/1	豚肉 *	10,000円	
11/2	タオルセット	2,000円	
	...		
合計	120,000円	消費税 11,200円	
8%対象	40,000円	消費税 3,200円	
10%対象	80,000円	消費税 8,000円	

適格請求書の記載要件

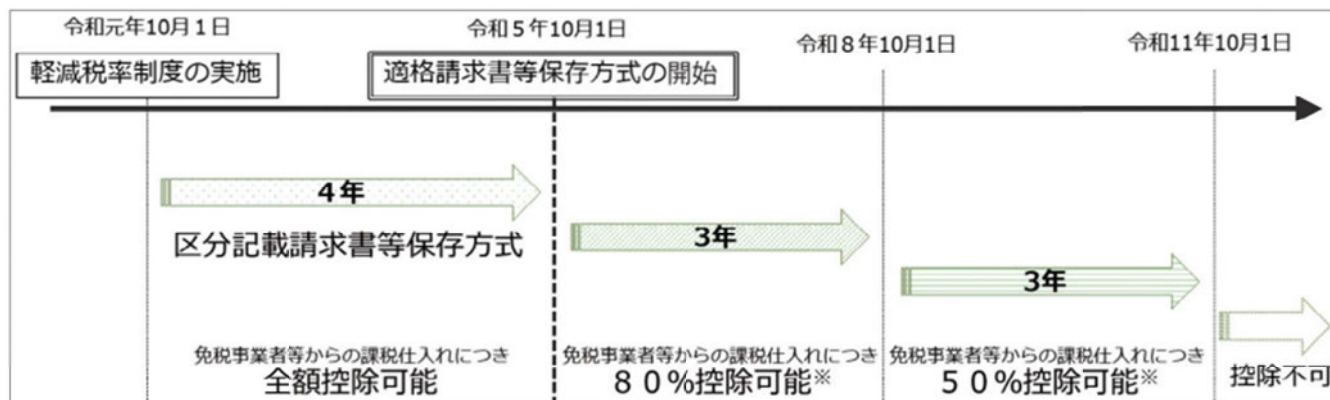
- ① 適格請求書発行事業者の氏名又は名称及び登録番号
- ② 取引年月日
- ③ 取引内容（軽減税率の対象品目である旨）
- ④ 税率ごとに区分して合計した対価の額（税抜き又は税込み）及び適用税率
- ⑤ 税率ごとに区分した消費税額等
- ⑥ 書類の交付を受ける事業者の氏名又は名称

2. 課税区分の追加

(2) なぜ追加するの？

② 「免税事業者等からの課税仕入れに係る経過措置」とは

免税事業者等からの課税仕入れについても、**仕入税額相当額の一定割合を仕入税額として控除**できる経過措置が設けられています(6年間)。



参考資料：適格請求書等保存方式の概要-インボイス制度の理解のために-（国税庁）

2. 課税区分の追加

(2) なぜ追加するの？

③経過措置期間に応じた控除割合より、仮払消費税等の計算が必要

免税事業者等からの課税仕入れも
仮払消費税等を計上

令和5年10月1日～令和8年9月30日
80%控除可能
令和8年10月1日～令和11年9月30日
50%控除可能

<例：元帳ベース>

令和5年10月3日に免税事業者等から商品(¥2,000、税率10%)を仕入れた。

行	借方			貸方		
	勘定科目	税率	取引金額	貸方	税率	取引金額
1	商品仕入高	10.0	¥1,855 (¥2,000-¥145)	買掛金		¥2,000
2	仮払消費税等	10.0	¥145 (¥2,000×10÷110×80%)			

©TKC 2023

12

2. 課税区分の追加

(3) 免税事業者等からの課税仕入れの消費税等の自動計算

免税事業者等からの課税仕入れの場合、「消費税等」は完全に自動計算します。

- ① F X 4クラウドで自動計算した金額と異なる額がセットされていた場合、仕入等の金額に影響があるため、エラーとします。
- ② 積上げ計算採用時における「課税仕入れの都度」の計算に対応するため、仮払消費税等の勘定科目を直接指定すると、エラーとします。

<例：元帳ベース>

令和5年10月3日に免税事業者等から商品(¥2,000、税率10%)を仕入れた。

行	借方			貸方		
	勘定科目	税率	取引金額	貸方	税率	取引金額
1	商品仕入高	10.0	¥1,855 (¥2,000-¥145)	買掛金		¥2,000
2	仮払消費税等	10.0	¥145 (¥2,000×10÷110×80%)			

自動計算

©TKC 2023

13

2. 課税区分の追加

(3) 免税事業者等からの課税仕入れの消費税等の自動計算

※積上げ計算を採用する場合

免税事業者等からの課税仕入れについては、その課税仕入れの都度、支払対価の額に110分の7.8(軽減税率の対象となる場合は108分の6.24)を乗じて算出した金額100分の80等を乗じて算出した金額を合計して計算します。

F X 4 クラウドでは、**1 伝票を1 課税仕入れとみなし上記の計算に対応**します。

＜ご参考（積上げ計算採用時の仕入税額等の計算式）＞

課税仕入れの種類	計算対象	行	計算式
通常の課税仕入れ (適格請求書発行事業者等からの課税仕入れ)	仮払消費税等	1	支払対価の額×10÷110
	仕入税額	2	同上※
免税事業者等からの課税仕入れ	仮払消費税等	3	支払対価の額×10÷110×80%
	仕入税額と みなす額	4	支払対価の額×7.8÷110×80%

※消費税(国税分)の按分は、課税期間全体での合計額に対して実施。帳簿積上げ計算を採用している前提。

2. 課税区分の追加

まとめ

(1) 免税事業者等からの課税仕入れを処理する課税区分を追加します。

「免税事業者等からの課税仕入れに係る経過措置（※）」が設けられていることから課税仕入れを区分する必要があるため。

※免税事業者等からの課税仕入れも、仕入税額相当額の一定割合を仕入税額として控除可能

令和5年10月1日～令和8年9月30日：80%控除可能
令和8年10月1日～令和11年9月30日：50%控除可能



経過措置期間に応じた控除割合より、仮払消費税等の計算が必要

(2) 上記(1)の課税区分を入力された場合、**仮払消費税等を自動計算**します。

「免税事業者等からの課税仕入れ」の場合は、**追加する課税区分をご入力**ください

3. 読込項目「事業者登録番号」の追加

(1) 読込項目「事業者登録番号」の追加

任意の読込項目として「事業者登録番号」を新たに設けます。

※TKC標準レイアウト（SLP形式）については、末尾(47列目)に当項目を追加します。

- ①当項目への読込を省略した場合で、事業者登録番号を登録済の取引先コードを指定された場合、当該事業者登録番号が自動でセットされます。
- ②当項目に、該当取引先コードと不整合な番号や、国税庁のサイトに存在しない番号を指定された場合は、エラーとします。

3. 読込項目「事業者登録番号」の追加

(2) なぜ追加するの？

適格請求書発行事業者登録制度とは

- ①適格請求書を交付可能な適格請求書発行事業者になるためには、**登録申請手続きを行い、登録を受ける必要**があります。
- ②新規設立法人の場合、設立後、その課税期間の末日までに、登録申請手続きを行うことで、事業開始時から登録を受けたものとみなされます。
- ③適格請求書発行事業者は、**登録の取消等が行われる可能性**があります。

(3) 仕訳の有効性チェック

事業者登録番号を基に**仕訳の有効性をチェック**します。

- ①適格請求書発行事業者等からの課税仕入れ([5]など)の場合、仕訳に事業者登録番号を保存し、当該事業者登録番号の有効性をチェックします。
- ②免税事業者等からの課税仕入れ([52]など)の場合、取引先マスターに事業者登録番号がセットされている取引先コードを指定された場合は警告を表示します。

3. 読込項目「事業者登録番号」の追加

(4) ご利用のポイント

①取引先コードを活用した事業者登録番号のセット

取引先コードを仕訳にセットすることで、**取引先コードに登録している「事業者登録番号」を自動でセット**するため、当項目の設定は不要です。そのため、取引先マスターを整備し、取引先コードを仕訳にセットすることをご検討ください。

3. 読込項目「事業者登録番号」の追加

(4) ご利用のポイント

②事業者登録番号を活用した取引先コードのセット

事業者登録番号により取引先コードの自動セットが可能です。

読込項目「事業者登録番号」に値を指定した場合で、当該事業者登録番号に紐づく取引先コードが1件存在する場合、その取引先コードが仕訳に自動でセットされます。

例えば、

Excelからの仕訳計上機能で、取引先コードではなく受領したインボイスに記載された事業者登録番号を入力することで、自動で取引先コードを仕訳にセットする活用方法があります。

3. 読込項目「事業者登録番号」の追加

まとめ

(1) 読込項目「事業者登録番号」を追加します。

課税仕入れを処理する課税区分を「免税事業者等からの課税仕入れ」と「適格請求書発行事業者からの課税仕入れ」に区分する必要があるため

- ・適格請求書を交付可能な適格請求書発行事業者になるためには、登録申請手続きを行い、登録を受ける必要があります。
- ・新規設立法人の場合、設立後、その課税期間の末日までに、登録申請手続きを行うことで、事業開始時から登録を受けたものとみなされます。
- ・適格請求書発行事業者は、登録の取消等が行われる可能性があります。

取引先の「適格請求書発行事業者⇄免税事業者等」を確認し、
利用する課税区分（課税仕入れ）の区分が必要

(2) 仕訳に仕訳に事業者登録番号を保存することで、事業者登録番号と課税区分の有効性をチェックします。

読込ファイル(仕入・経費)に、事業者登録番号(または取引先コード)をセットしてください

©TKC 2023

20

4. 読込ファイル（仕入・経費）の修正対応

(1) 課税区分による課税仕入れを区分

- ① **適格請求書発行事業者から課税仕入れ等の場合に限り、課税区分[5]や[7]等をセット**してください。
- ② **免税事業者等から課税仕入れの場合、課税区分[52]や[72]等をセット**してください。

(2) 免税事業者等からの課税仕入れの仮払消費税等の自動計算 (免税事業者等からの課税仕入れ([52]等)の場合)

- ① **取引金額には税込金額をセット**してください。
- ② **消費税等は0**としてください。

(3) 適格請求書発行事業者の有効性チェック

業務システム内の適格請求書発行事業者登録番号を「**事業者登録番号**」に**セット**してください。

※ F X 4 クラウドの取引先コードを利用している場合は、
取引先マスターに登録されている事業者登録番号を自動でセットするため、対応は不要です。

©TKC 2023

21

4. 読込ファイル（仕入・経費）の修正対応

まとめ

仕入・経費の読込ファイル（免税事業者からの課税仕入れ）

仕入先単位
+
課税区分[52][72]等
+
取引金額：税込金額
+
消費税額：0

「免税事業者からの課税仕入れ」の場合は、
仮払消費税等を自動計算させるため、上記の対応をお願いします。

免税事業者等からの課税仕入れの場合は、

仕入先単位・課税区分[52][72]等・取引金額を税込み・消費税額を0にしてください

©TKC 2023

22

5. 読込ファイル（仕入・経費）の修正対応【連携方法別】

(1) 連携方法の確認

F X 4 クラウドと業務システム等の連携は、3つの方法があります。

① TKC 標準読込レイアウトファイル（slp形式）による連携

F X 4 クラウドの読込形式に合わせて作成された読込ファイルを連携させる方法です。
勘定科目や課税区分など仕訳計上に必要な情報を網羅した読込ファイルを業務システム等で作成いただきます。

② 仕訳読込テンプレートの設計機能を利用した連携

仕訳読込テンプレートの設計機能で、業務システム等から出力された読込データの項目と F X 4 クラウドの仕訳項目を紐付けて（固定値や条件設定も可能）連携させる方法です。
上記①と異なり、業務システム側で勘定科目や課税区分等を出力する必要はありません。

③ Excelからの仕訳計上機能

Excelで作成された日報や出納帳等から直接仕訳を計上する方法です。
Excelの機能（関数やリスト選択など）を利用して、連携シート内に仕訳計上に必要な情報をセットできるため、様々な取引の仕訳を簡単に計上することができます。

連携方法によって、読込ファイルの修正対応が異なります。
まずは、現在の連携方法を確認する方法をご説明します。

©TKC 2023

23

5. 読込ファイル（仕入・経費）の修正対応【連携方法別】

(1) 連携方法の確認

- ①仕訳連携タブ～「3 2 ファイルレイアウトの設計」を押下します。
- ②対象の業務システムを選択し、「2. 仕訳読込テンプレートの設計」の押下が可能か確認します。
 - 1)可能な場合は、
「仕訳読込テンプレートの設計機能を利用した連携」です。
対応内容を**スライド26～27**でご説明します。
 - 2)不可な場合は、
「TKC標準読込レイアウトファイルによる連携」です。
対応内容を**スライド25**でご説明します。
- ③Excelから直接仕訳を計上している場合は、
「Excelからの仕訳計上機能を利用した連携」です。
対応方法を**スライド28**でご説明します。



5. 読込ファイル（仕入・経費）の修正対応【連携方法別】

(2) TKC標準読込レイアウトファイル

- ①「免税事業者等からの課税仕入れ」の場合
 - 1) 7列目の課税区分に、
免税事業者等からの課税仕入れを処理する課税区分[52][72]等をセットします。
 - 2) 16列目の消費税金額に、
0をセットします。
- ②適格請求書発行事業者からの課税仕入れの場合
47列目（新たに追加）の事業者登録番号に、
適格請求書発行事業者登録番号をセットします。
※取引先コード（19列目）に、FX4クラウドの取引先コードがセットされている場合は対応不要です。
取引先コードから自動でセットします。

TKC標準読込レイアウトでのファイル出力には、システムベンダーや貴社システム担当者が携わっていることが多いと思われます。そのため、まずはシステムベンダー（担当）に上記対応についてご相談ください。

5. 読込ファイル（仕入・経費）の修正対応【連携方法別】

(3) 仕訳読込テンプレートの設計機能

①「免税事業者等からの課税仕入れ」の場合

1) 読込項目「課税区分」に紐づいている読込ファイル内の列に、
免税事業者等からの課税仕入れを処理する課税区分[52][72]等をセットします。

2) 読込項目「消費税金額」に紐づいている読込ファイル内の列に、
0をセットします。

②適格請求書発行事業者からの課税仕入れの場合

適格請求書発行事業者登録番号を一番最後の列にセットします。

※取引先コード項目に、F X 4クラウドの取引先コードがセットされている場合は対応不要です。
取引先コードから自動でセットします。

業務システム側で、

「課税区分」の追加や「消費税金額0」に対応することが難しい場合は・・・

5. 読込ファイル（仕入・経費）の修正対応【連携方法別】

(3) 仕訳読込テンプレートの設計機能

仕訳読込テンプレートに搭載している「条件式」や「コード変換表」を利用して、課税区分と消費税金額に対応します。

例：取引先コードを基に、課税区分と消費税金額に「条件式」を設定

項目「課税区分」

取引先コードXXXXXXの場合は、52。それ以外は、5。

項目「消費税金額」

取引先コードXXXXXXの場合は、0。それ以外は、列〇〇を参照。

取引先名や取引先コード等で免税事業者等を区分してください

5. 読込ファイル（仕入・経費）の修正対応【連携方法別】

(4) Excelからの仕訳計上機能

①「免税事業者等からの課税仕入れ」の場合

1)課税区分を入力している列またはセルに、

免税事業者等からの課税仕入れを処理する課税区分[52][72]等をセットします。

2)消費税金額を入力している列またはセルに、

0をセットします。

②適格請求書発行事業者からの課税仕入れの場合

事業者登録番号

列またはセルを追加し、**受領したインボイスに記載されている**

適格請求書発行事業者登録番号をセットします。

※取引先コード項目に、FX4クラウドの取引先コードがセットされている場合は対応不要です。
取引先コードから自動でセットします。

6. （その他）読込ファイルの修正対応

積上げ計算を採用する時の注意事項

(1) 課税売上げに係る消費税等(仮受消費税等)は、
請求書等の消費税等と同額を計上してください。

①売上税額は自社が発行した請求書等の消費税額を積み上げて計算します。

②この対応にあたり、FX4クラウドでは、仕訳の消費税等の合計額を申告システムに連携し申告計算を行う予定です。

(2) 免税事業者等からの課税仕入れ(課税区分[52]等)の仕訳は、
合計額ではなく、個々の取引単位で計上してください。

①免税事業者等からの課税仕入れについて、申告計算で使用する「仕入税額とみなす金額」は、課税仕入れの都度、計算及び端数処理が必要です。

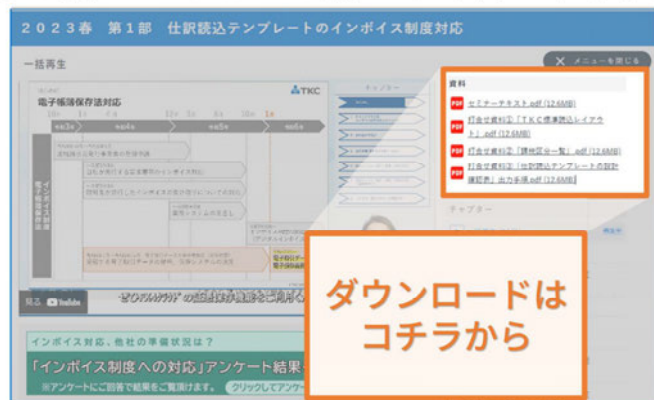
②この対応にあたり、FX4クラウドでは、1伝票を1課税仕入れとみなして計算するため、取引ごとに仕訳を計上してください。

(ご案内) 打ち合わせ資料

業務システムの改修が必要な場合

改修には一定期間を要することが想定されることから早めに読込ファイルの見直しに着手いただくことをお勧めします。

読込ファイルについて、貴社のシステム担当者またはシステムベンダーと打ち合わせをされる際は、以下の資料をご活用ください。



・TKC標準レイアウト

F X 4クラウドの読込形式に合わせた読込ファイル作成に必要な情報「項目・TYPE・有効値・項目説明・例」を記載した資料です。

・課税区分一覧

現行の課税区分と、令和5年6月に追加する免税事業者等からの課税仕入れを処理する課税区分を一覧にした資料です。

・「仕訳読込テンプレートの設計確認表」出力手順

仕訳読込テンプレートの設計確認表を出力する手順書です。課税区分と消費税金額を中心に各項目の設計をご確認ください。

次回の経理業務 効率化セミナー2023夏では、

仕訳読込テンプレートの修正方法について詳しくご説明します。

第2部

お済みですか？電子取引データの保存対応

セミナー資料

第2部

お済みですか？電子取引データの保存対応

■内容

1. 「証憑保存機能」で電子取引データを簡単・安心・便利に保存
2. ペポルインボイスの受信・保存にも対応！

第2部 お済みですか？電子取引データの保存対応

第2部でお伝えしたいこと

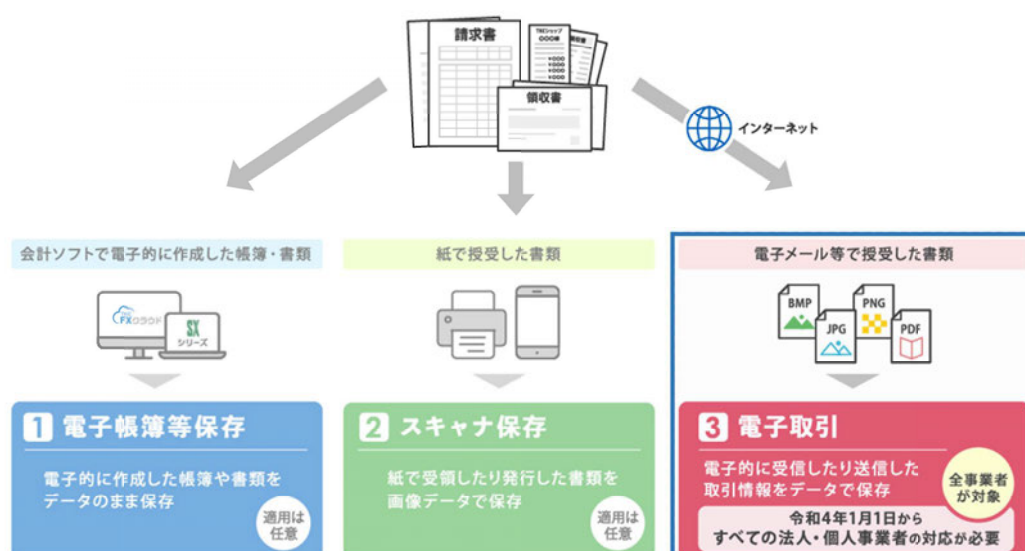
電子取引データの電子保存対応は、お済みでしょうか。

(留意規定)
令和5年
12月31日
まで

電子取引とは？

メールやWebサイト上で受け取った請求書や領収書。令和6年1月からは、これらの書類を紙で印刷して保存することは認められなくなり、電子での保存が必要になります。

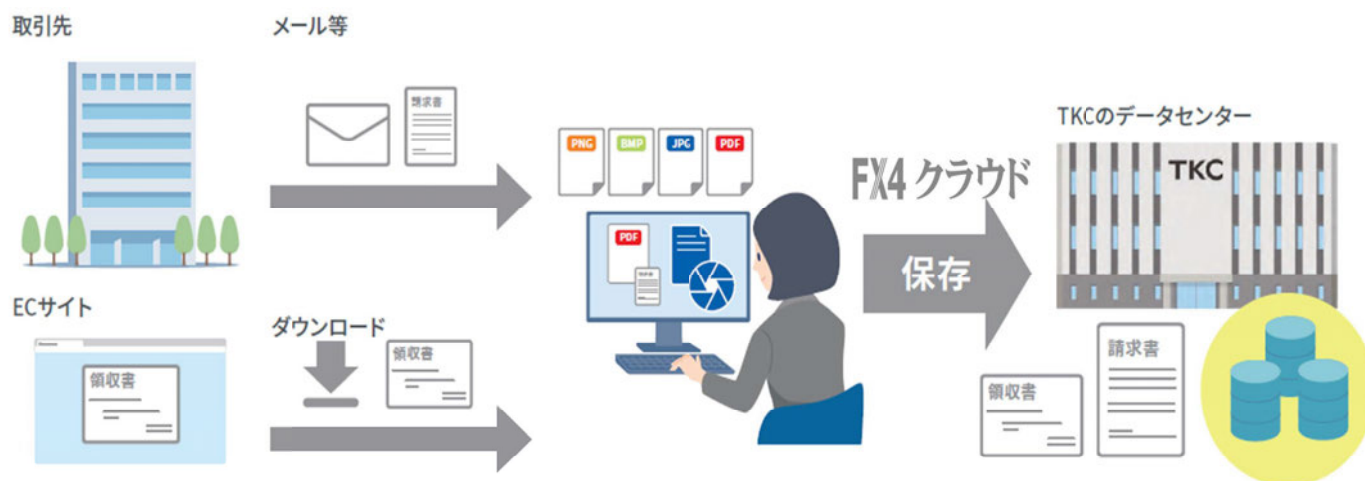
< 電子帳簿保存法上の区分（イメージ） >



参考資料：「電子帳簿保存法が改正されました」（国税庁、令和3年5月）

第2部でお伝えしたいこと

インボイス制度開始を機に、
電子取引データを受け取る機会が増えることが想定されます。
そのため、「**証憑保存機能**」を利用した**早めの対応**をお勧めします。



電子取引データの保存は、**簡単・安心・便利**な「**証憑保存機能**」にお任せください！

©TKC 2023

33

1. 「証憑保存機能」で保存対応を簡単・安心・便利に！

(1) 簡単

- ①取引先からメール等で受け取ったインボイス等（PDF）のデータを画面に「ドラッグ＆ドロップ」するだけで**“簡単”**に電子取引データとして保存できます。
- ②あらかじめ初期値が登録されているため初期設定も**“簡単”**です。



©TKC 2023

34

1. 「証憑保存機能」で保存対応を簡単・安心・便利に！

(2) 安心

- ①電子帳簿保存法に完全対応しているため、どんな形式のインボイスも法令に準拠した形で“安心”に保存できます。

もちろん、発行したインボイスの保存義務にも対応しています。

※JiIMA認証を取得

- ②専門データセンターのTKCのデータセンター（TISC）でデータを管理します。



1. 「証憑保存機能」で保存対応を簡単・安心・便利に！

(3) 便利

保存した電子取引データを入力した仕訳と紐付けることで、1つの画面で並べて確認できます。証憑を探す手間がなくなり、チェック業務を効率化できるため“便利”です。



1. 「証憑保存機能」で保存対応を簡単・安心・便利に！

(3) 便利

読み取った内容を、仕訳入力時に初期表示します。
不足する情報は電子データを見ながら補正入力できるので、効率的です。
また、補正した内容をシステムが学習するため、使えば使うほど“便利”になります。

候補を表示！

取引年月日
2022年8月18日

電話番号
028-XXX-XXX

取引先名
(株) P.J. サプライ

取引金額
2,160円

消費税等
160

実際の仕入れ日

取引先名

取引金額

消費税等

1. 「証憑保存機能」で保存対応を簡単・安心・便利に！

電子帳簿・インボイス

最新のセミナー情報

紹介動画

メール等で受け取った請求書や領収書のPDF、画面ハードコピーなどの画像ファイルを読み込み、電子帳簿の保存要件を満たした電子取引データとして保存できます。

保存したデータはTKCの会計ソフトに連携して、仕訳入力時に初期表示されます。

操作動画

初期設定はユーザー登録だけ

電子取引データを保存する

解説動画

配信開始 TKC経理業務 効率化セミナー2022春

電子取引データの電子保存、準備は万全ですか？

FX4クラウドの証憑保存機能にお任せください。詳細は動画で [ここをクリック](#)

2022春：「電子取引データ」の保存対応

電子帳簿保存法が改正された2022年4月1日以後は電子取引について印刷した書面での保存が認められなくなりました。FX4クラウドでは令和4年1月に搭載した「証憑保存機能」のご利用で電子取引の保存要件に完全対応できます。

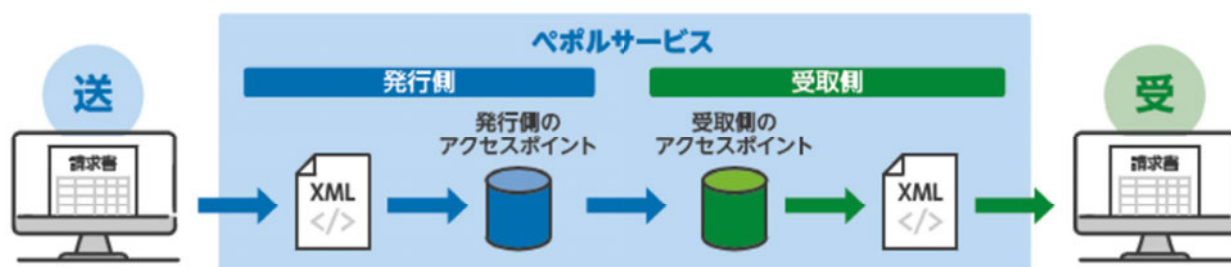
こちらのセミナーでは「証憑保存機能」について解説します。

証憑保存機能を利用開始する際は、顧問のTKC会員事務所にご連絡ください！

2. ペポルインボイスの受信・保存にも対応！

証憑保存機能は、**ペポルインボイスの受信・保存**にも対応します。

ペポルインボイスとは、
請求データをそのまま送信・受信できる仕組みです。
受け取ったデータから自動で仕訳を生成し、計上できます。発行側と受取側が、異なる会計・販売管理のソフトを使っていたとしてもお互いのインボイスの送受信が可能です。



ペポルインボイスについては、第3部（後日公開）で
ペポルインボイスの発行（インボイス・マネジャー）とともに詳しくご説明します。

END

第3部

デジタルインボイスへの対応

セミナー資料

インボイス・マネジャー 2022

ー デジタルインボイスに対応 ー

▶ Agenda

- I デジタルインボイス
- II インボイス・マネジャー 2022

株式会社 **TKC**
システム開発研究所
部長 土井 了

2023.03

※当資料に記載の開発予定は、今後変更となる場合がございます。

©TKC 2023



▼ Agenda

I デジタルインボイス

1. 電子インボイスとデジタルインボイス
2. デジタルインボイスとは
3. Peppolでのデータやり取りの仕組み
4. 仕入税額控除の要件等に関する整合性チェック
5. デジタルインボイスのメリット
6. PDF等の電子インボイスとの比較
7. 効果

©TKC 2023

1

I デジタルインボイス

1. 電子インボイスとデジタルインボイス



電子取引

(電子帳簿保存法7)

取引情報の授受を電磁的方式により行う取引
＜例＞

- ・ EDI取引
- ・ インターネット等による取引
- ・ Eメールにより取引情報を授受する取引
- ・ Webサイトを通じて取引情報を授受する取引

インボイス

(新消費税法30、新消費税法57の4)

- － 売手が買手に正確な適用税率や消費税等を伝える手段
- － 現行の「区分記載請求書」に以下の記載が追加された書類やデータ
 - ・ 登録番号
 - ・ 適用税率
 - ・ 消費税額等

電子取引

請求書等以外の
国税関係書類データ

電子インボイス

- ・ PDF
- ・ デジタルインボイス
- その他

インボイス

紙による授受・保存

©TKC 2023 2

I デジタルインボイス

2. デジタルインボイスとは



標準化され、構造化された電子インボイス (デジタルインボイス)

標準化

標準化とは、「もの」や「事柄」の単純化、秩序化、試験・評価方法の統一により、製品やサービスの互換性・品質・性能・安全性の確保、利便性を向上するもの。

抜粋：経済産業省『標準化ビジネス戦略検討スキル学習用資料』<https://www.meti.go.jp/policy/economy/hyogun-kijun/katsuyo/business-senryaku/pdf/001.pdf>

構造化データ

項目の形式や順序など、明確に定義された構造に従って記述、配置されたデータ集合のこと。プログラムによって自動処理するために用いられることが多い。

抜粋：IT用語辞典 e-Words「構造化データ」<https://e-words.jp/w/構造化データ.html>

©TKC 2023 3

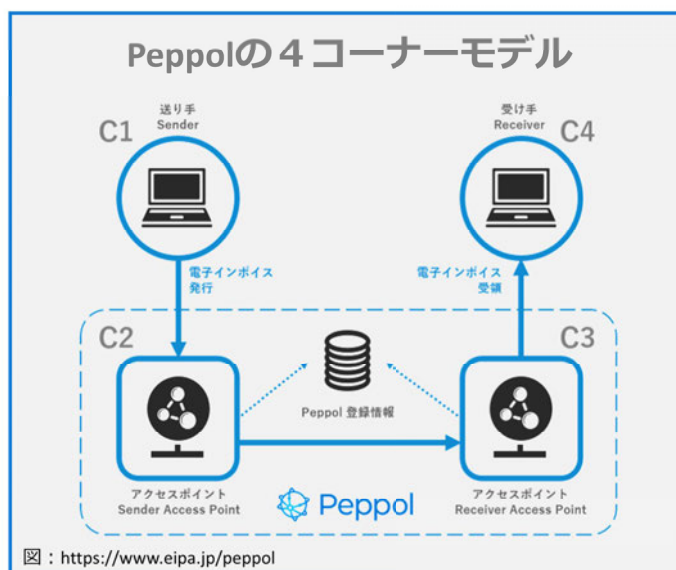
3. Peppolでのデータやり取りの仕組み

デジタルインボイスは、Peppolネットワークでやり取りされる。

Peppolネットワークは、4 コーナーモデルが採用されており、事業者が自社のシステムで電子インボイスの発行処理を実行すると、お互いのアクセスポイントを経由して、相手先のシステムに当該電子インボイスが届く。

この仕組みは、お互いのインターネットサービスプロバイダーを経由して、相手先に届く電子メールの仕組みと似ている。

なお、Peppolネットワークでは、各事業者は法人番号などの公的な番号で識別される。



4. 仕入税額控除の要件等に関する整合性チェック

デジタルインボイスは、その送信時に次のような整合性チェックが実施される。これらの要件を充足したデータしか送信できない。

【整合性チェック内容（一部）】

- ・「売り手の名称」がセットされていること([ibr-006](#))
- ・「買い手の名称」がセットされていること([ibr-007](#))
- ・「売り手の事業者登録番号」がセットされていること([aligned-ibr-jp-04](#))
- ・「課税資産の譲渡等を行った年月日」がセットされていること([aligned-ibrp-052](#)、[ibr-co-19](#)、[ibr-co-20](#))
- ・「税抜金額計」、「税込金額計」、「請求金額」がセットされていること([ibr-013](#)、[ibr-014](#)、[ibr-015](#))
- ・「取引明細」に、「数量」がセットされていること([ibr-022](#))
- ・「取引明細」に、「取引金額」がセットされていること([ibr-024](#))
- ・「取引明細」に、「品名」がセットされていること([ibr-025](#))
- ・「単価」が正の値であること([ibr-027](#))
- ・「税率内訳」に、「消費税額等」がセットされていること([aligned-ibrp-046](#))
- ・「税率内訳」に、「税率」がセットされていること(非課税・不課税の場合を除く) ([aligned-ibrp-048](#))
- ・「課税資産の譲渡等を行った年月日」が2023/10/1以降の場合、「売り手の事業者登録番号」にはTから始まる14桁の文字がセットされていること。([aligned-ibr-jp-01](#))
- ・「税率内訳の消費税額等」は、「税率内訳の課税金額」×「税率内訳の税率」を整数に端数処理した金額であること。端数処理結果は、切捨て又は切上げの範囲内であること。([aligned-ibrp-051-jp](#))

デジタルインボイス

標準化・構造化

4 コーナーモデル

整合性チェック

後工程の自動化

正確・詳細なデータ連携が可能

広く送信

異なるシステムのユーザへも送信可能

安心して受信

受信するデータは一定の品質が保証

「デジタルインボイス」のメリット

－ いずれもPDF等の電子インボイスには無いメリット －

Digitalization : デジタル化

インボイス 電子インボイス <メリット>

- ① インボイスの発行コスト(郵送代等)の削減
- ② 発行したインボイス(控え)の保管コストの削減
- ③ 受領したインボイスの保管コストの削減
- ④ インボイスの確認時における探して取り出す手間の削減

デジタルインボイス

<メリット(電子インボイスのメリットに加えて)>

- ① 後工程の自動化
 - 1) 仕訳処理
 - 2) 支払処理
- ② 広く送信
 - 1) アドレスは法人番号、適格請求書発行事業者の登録番号等
 - 2) 異なるシステムのユーザへも送信可能
- ③ 安心して受信
 - 1) 受け取るインボイスは常に整合性チェック済
 - 2) 受信と共に保存

6. PDF等の電子インボイスとの比較

PDF等の電子インボイス

担当者のアドレス管理が必要
(得意先の担当者変更時に、対応が必要)

本社での集中管理が困難
(担当者に直接メールされる 等)

記載事項の網羅性確認が必要
(端数処理の準拠や登録番号の記載)

保存漏れのリスク
(ファイル共有ソフト等への保存が別途必要)

非構造化データ
(目検で確認し、後工程は手作業)

保存容量の圧迫
(保存対象は画像。視認性確保のトレードオフ。)

vs

デジタルインボイス&TKCシステム

アドレス管理は最低限
(法人番号等で送受信)

常に会社宛
(担当者にはTKCシステムが通知)

インボイスの記載事項は確実に網羅
(送信時に整合性チェックが実施される仕組み)

自動で保存
(受信と保存が一体)

構造化データ
(システムが読み込み、後工程は自動)

少ない保存容量
(保存対象は文字列)

7. 効果

(1) 仕訳入力に係る作業負担の軽減

経理担当者は、より付加価値の高い業務に時間を投下できるようになります。

(2) 仕訳入力ミスの削減

確認作業の負担が軽減される共に、信頼性の高い会計数値を確認できるようになります。

(3) リアルタイムな業績把握

インボイスを起点として、取引が科目残高に即座に反映されるようになります。

(4) 詳細な業績管理

詳細な仕訳入力が可能になり、部門別・取引先別・商品別など詳細な業績管理が可能になります。

▼ Agenda

Ⅱ インボイス・マネジャー 2022

1. はじめに
2. インボイス・マネジャーの開発ロードマップ
3. システム全体像
4. 売上インボイスの送信
5. 仕入インボイスの受信

Ⅱ インボイス・マネジャー 2022

1. はじめに

- 多くの企業が抱える課題 -

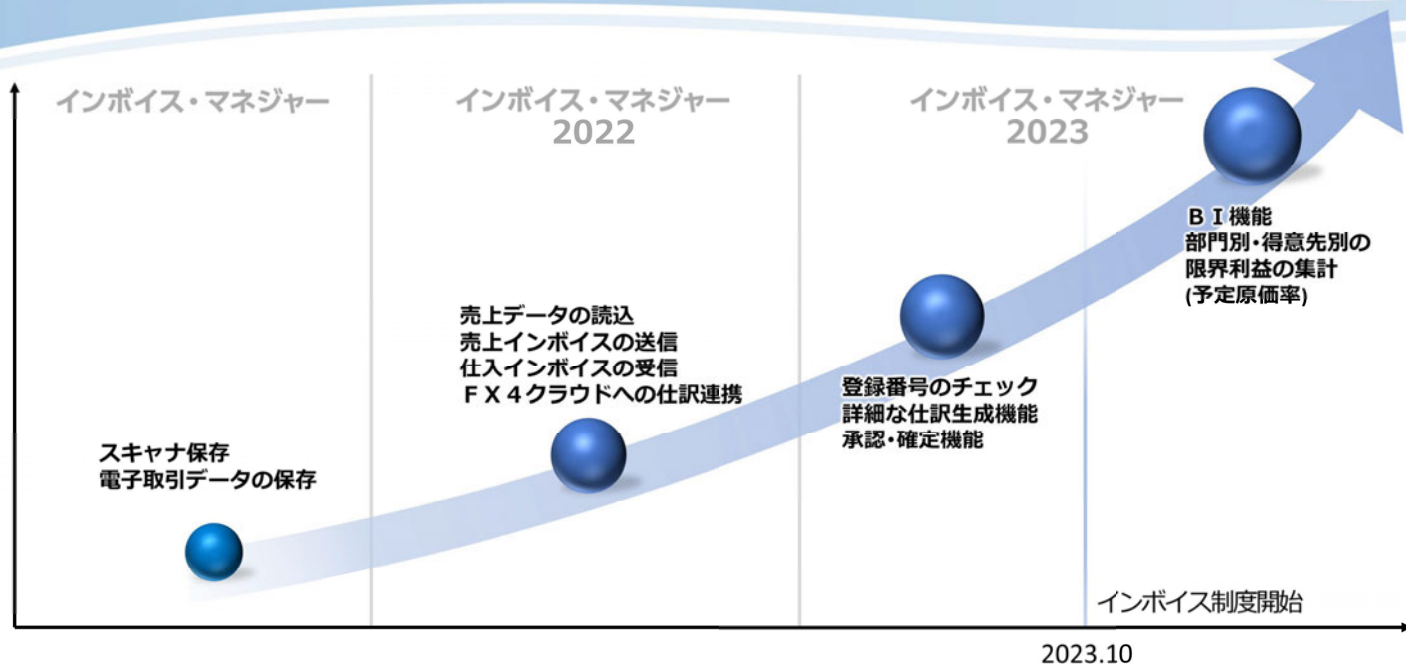
- (1) デジタルインボイスに対応するためには、販売管理システム改訂が必要
①ペポルへの接続 ②デジタルインボイスの出力 ③デジタルインボイスの受信システムの導入
- (2) さまざまな業務システムが点在
①部門によって異なる販売管理システム ②現場に届く請求メールと保存先の部門共有サーバ
- (3) 一方で、経理のDX化は待ったなし
①得意先等からのデジタルインボイス対応要請の可能性 ②経理処理を見直すチャンス

インボイス・マネジャー 2022

- (1) デジタルインボイスの送受信
- (2) さまざまな販売管理システムとのデータ連携

Ⅱ インボイス・マネジャー2022

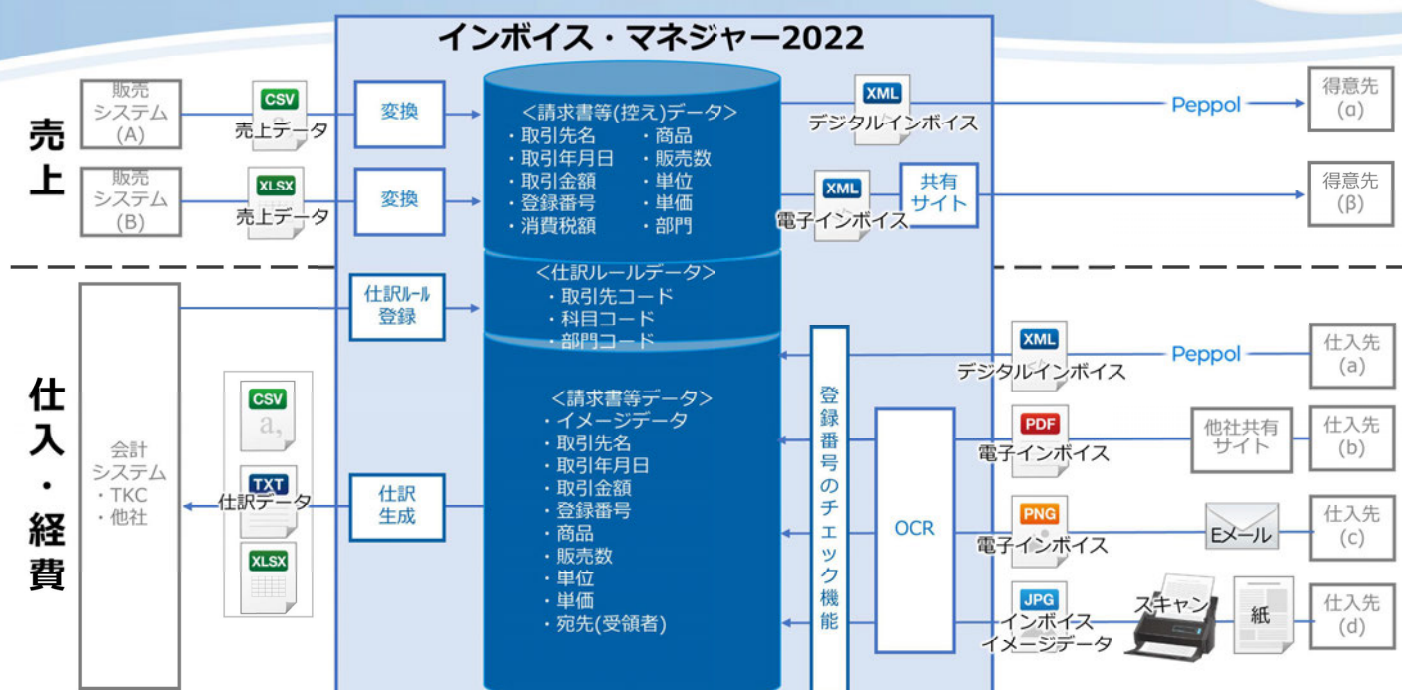
2. インボイス・マネジャーの開発ロードマップ



©TKC 2023 12

Ⅱ インボイス・マネジャー2022

3. システム全体像



※登録番号のチェック機能はインボイス・マネジャー2023で搭載予定です。

©TKC 2023 13

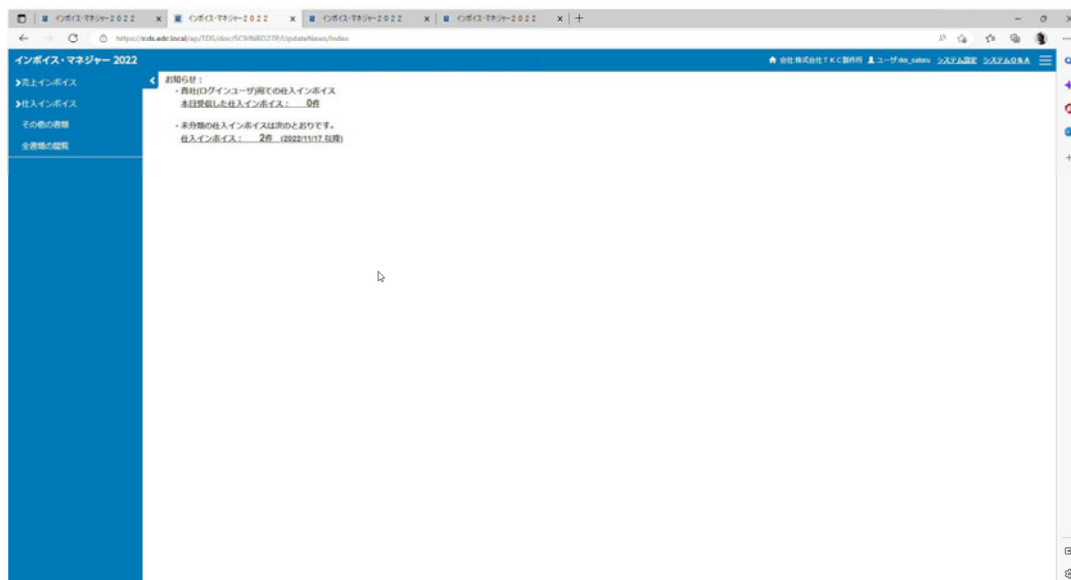
Ⅱ インボイス・マネジャー2022

4. 売上インボイスの送信

4. 1 売上データの読込



販売管理システムから出力した売上データをデジタルインボイスにデータ変換



©TKC 2023 14

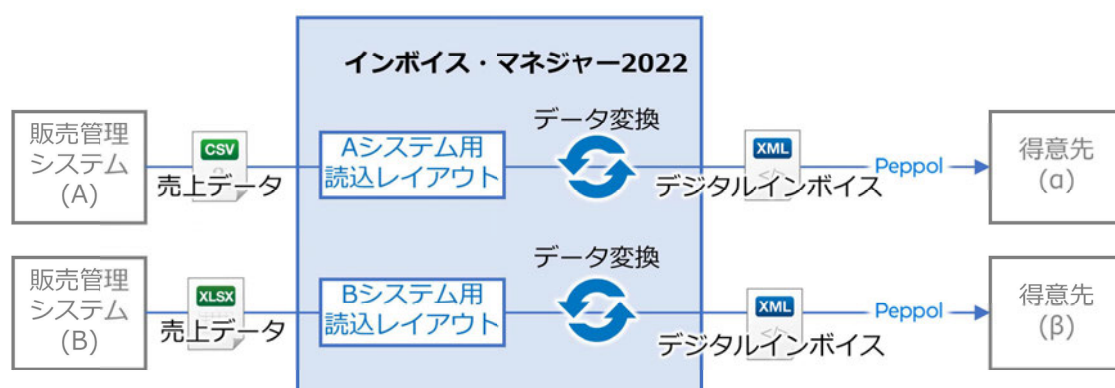
Ⅱ インボイス・マネジャー2022

4. 売上インボイスの送信

4. 2 複数の読込レイアウトを設計可能



連携対象の販売管理システムを複数登録できるようにし、販売管理システムごとに読込レイアウトを設計



©TKC 2023 15

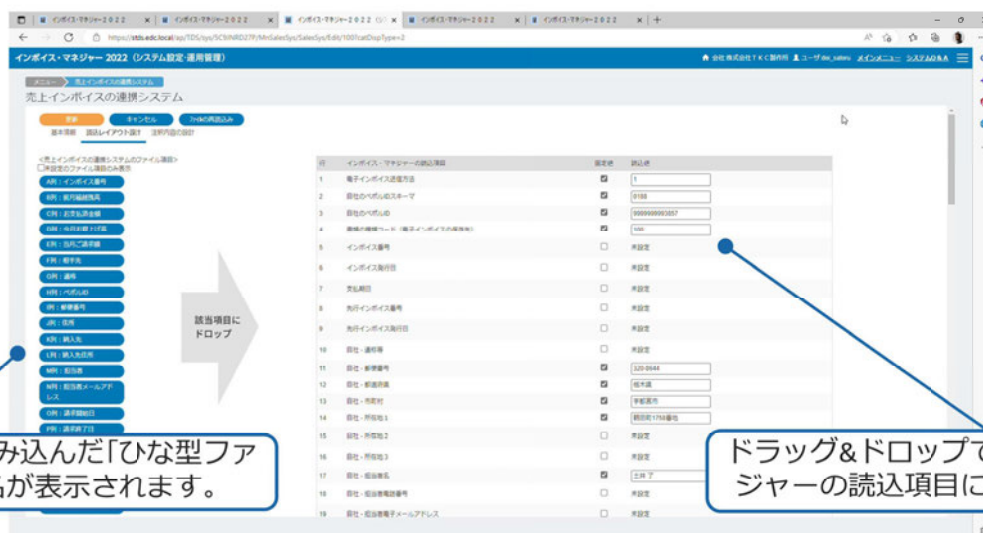
Ⅱ インボイス・マネジャー2022

4. 売上インボイスの送信

4. 3 簡単なレイアウト設計作業



ドラッグ&ドロップで読込レイアウトを設計



©TKC 2023 16

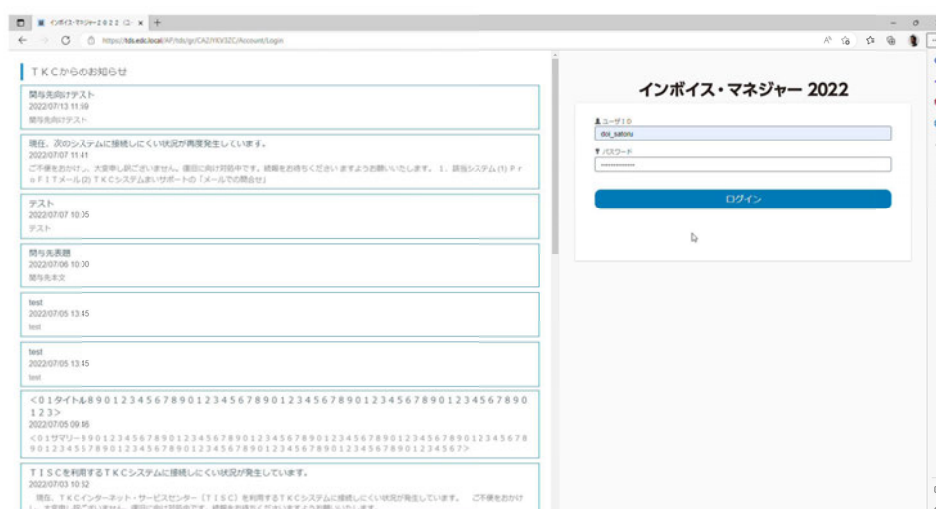
Ⅱ インボイス・マネジャー2022

5. 仕入インボイスの受信

5. 1 本日受信した仕入インボイスの件数等の確認



トップページに、本日受信した仕入インボイス(デジタルインボイス)の件数を表示
デジタルインボイスの詳細は、TKC独自のViewerで確認



©TKC 2023 17

Ⅱ インボイス・マネジャー2022

5. 仕入インボイスの受信

5. 2 メールアドレスをキーにして担当者に通知



各仕入担当者が担当の仕入インボイスの受信事実及びその内容を確認できるよう、仕入インボイス内の「担当者のメールアドレス」をキーにして、各担当者に仕入インボイスを割り振り

The screenshot shows two browser windows. The left window displays the invoice details for '株式会社TKC様' (TKC Co., Ltd.) with the email address 'MAIL: doi_satoru@tkc.co.jp'. The right window shows the 'インボイス・マネジャー 2022' (Invoicing Manager 2022) interface. A blue box highlights the '仕入インボイス' (Purchase Invoice) section, which shows '未日受領した仕入インボイス: 2件' (Purchase invoices not yet received: 2 items). A blue line connects the email address in the left window to the '仕入インボイス' section in the right window, indicating that the email address is used as a key for assigning invoices to the responsible person.

©TKC 2023 18

最後に



(TKCが考える) デジタルインボイスの制限事項

分類	背景	行	制限事項	TKCの対応
送受信	個人を識別する番号が無い	1	免税事業者かつ個人事業者は利用不可	・デジタルインボイスの送信の際に、相手先がペポル未登録の場合は自動的に共有サイト経由で提供する仕組みを用意
	ペポルIDが法人単位(又は個人事業者単位)に付与される	2	法人(又は個人事業者)より細かい単位(部門ごとなど)での受信が不可	・インボイス内にセットされる「担当者のメールアドレス」をインボイス・マネジャーのユーザに紐づけ ・この紐づけ情報により、法人よりも細かい単位での受信に対応 ・ただし、仕入先に対し、デジタルインボイスへのメールアドレスの指定の依頼が必要
文書	XMLベース 国際的な標準仕様がベース	3	Viewerが必要で、かつ送受信者間で各項目の表示位置が同じとは限らない	・TKCシステムユーザー同士であれば、同じViewerを通して確認可能(他システムのユーザーの場合、表示位置等が異なる可能性あり)
		4	取引明細に税込金額はセット不可	(対応不可)
		5	部署単位等の小計額のセットが原則不可(納品は各部署だが、支払は本社といった親子請求時など)	・明細の摘要に、部署の情報をセットし、文書全体の注釈に部署ごとの小計額をセットすることで対応可能 ・ただし、注釈は文書全体に係る項目で、明細部内の小計としては表示されない
		6	前月繰越高、当月末残高、入金高、源泉所得税等が無い	・文書全体の注釈に、タイトル及び値をセットいただくことで対応可能

©TKC 2023 19

インボイス・マネジャー 2022

ー デジタルインボイスに対応 ー

是非導入をご検討ください。

株式会社 **TKC**
システム開発研究所
部長 土井 了



2023.03

※当資料に記載の開発予定は、今後変更となる場合がございます。

©TKC 2023 20

F X 4 クラウドシステム解説書・操作説明書

セミナーでご紹介した機能にかかる「F X 4 クラウドシステム解説書(第38版)」と「F X 4 クラウド操作説明書(第38版)」の抜粋を掲載します。
(注)項目名、章及び項番はそのままとしています。

なお、「F X 4 クラウドシステム解説書(第38版)」および「F X 4 クラウド操作説明書(第38版)」は、F X 4 クラウドの「ヘルプ」メニューにある「システム解説書」ならびに「操作説明書」をクリックで確認いただけます。

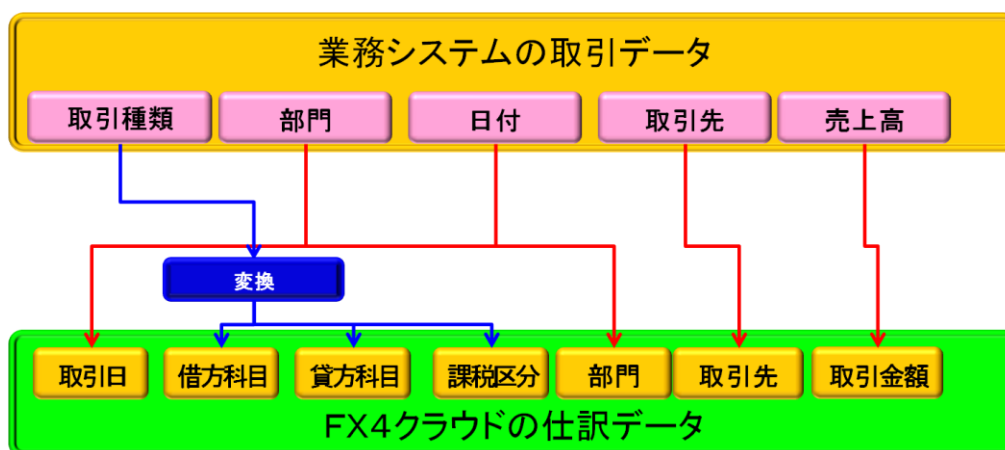


2. 他システムとの仕訳連携

2. 1 機能概要

2. 1. 1 特長

- (1) FX4クラウドでは、販売管理システム等の業務システムから出力されたファイルを仕訳として読み込むことができます。このため、業務システム上のデータを参考にした仕訳の手入力は不要となり、経理業務の省力化に貢献します。
- (2) 業務システムから出力したデータをそのまま読み込めるように仕訳読込テンプレートの設計機能が設けられています。当機能を利用することで、勘定科目や課税区分など、業務システムにおいて把握できない情報を仕訳データに動的にセットできます。このため、仕訳連携機能を利用開始する際に発生する業務システム側のカスタマイズ等が不要です。



- (3) 仕訳読込に係るモレ・ダブリを防止するために、仕訳連携時に以下の整合性チェックを行うことができます。整合性チェックに該当し警告メッセージが表示された場合、続行の理由等のメモを入力し、そのまま連携処理を続行できます。仕訳連携時の整合性チェック結果は読込の有無に関係なく「仕訳読込履歴」機能で確認することができます。

①自動仕訳番号の連続性チェック

選択により、仕訳読込時に仕訳ごとにセットされている自動仕訳番号が連続しているかをチェックするように設定できます。1つのファイル内での連続性だけでなく、前回読み込んだファイルの自動仕訳番号との連続性も確保されますので、モレ・ダブリを防止することができます。

②ファイルのタイムスタンプのチェック

選択により、仕訳読込時において以下の条件に該当した場合に警告メッセージを表示することができます。

- 1) 「更新日時」が「作成日時」の後の場合に警告を表示できます。ファイル作成後に何らかの修正が行われた場合、「更新日時」が「作成日時」よりも後の日時となります。このような場合に警告メッセージを表示でき、ファイルの改竄を防止できます。
- 2) 仕訳読込処理を行おうとした日時と「作成日時」とを比較し、ある程度の期間(当期間も設定可能)が経過している場合に警告メッセージを表示できます。業務システムから出力したファイルのある程度の期間放置し、その後に読み込むような運用を防止できます。

③同一仕訳のチェック

選択により、入力されている仕訳の中で、読み込む仕訳と以下の項目が同一である仕訳がすでに存在する場合に警告メッセージを表示できます。

- ・取引年月日、勘定科目、取引先、取引金額

④消費税率のチェック

選択により、税率テーブルの「標準税率」または「軽減税率」に登録された税率と異なる税率の仕訳データを読み込もうとした場合に警告メッセージを表示できます。誤った税率の仕訳データ読込を防止できます。

- (4) 仕訳連携機能を利用して読み込んだ仕訳の金額を、業務システムごと、勘定科目ごと、取引年月日ごとに集計した結果を確認できます。FX4クラウド上のこの集計結果と、業務システム上のデータとを突合することにより、連携モレ等を発見することができます。
- (5) 仕訳連携処理の履歴を業務システムごとに確認できます。この連携した日と連携していない日をカレンダー形式で表示し、「読むべき日に読んだか？」と「本来読まない日に読んでいないか？」の両方を確認できます。

月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5 ✓	6	7	8 ✓	9	10	11
12 !	13	14	15 !	16	17	18
19 ✓	20	21	22 ✓	23	24	25
26 ✓	27	28	29 !	30	31	

読むべき日

本来読まない日

2. 1. 2 機能の概要

(1) データレイアウト

①FX4クラウド標準のレイアウトは2種類あります。業務システムから切り出されるデータに合ったレイアウトを選択してください。

1) レイアウト1（単純仕訳形式）

「伝票（1伝票型）」の入力項目を前提としています。課税区分、取引金額、部門等は行単位でセットします。

取引年月日	伝番	税区	借方科目	貸方科目	取引金額	内、消費税等	消費税率	取引先	元帳摘要	部門
20150301	1	1	1122	4111	210000	10000	500	100001	本日掛売上高	200
20150301	1	1	1122	4112	105000	5000	500	100002	本日掛売上高	200
20150301	2	11	4115	1122	21000	1000	500	100001	掛売上高返品	200

2) レイアウト2（複合仕訳形式）

「複合仕訳」の入力項目を前提としています。課税区分、取引金額、部門等は貸借それぞれにセットします。

取引年月日	伝番	借方						貸方						元帳摘要
		部門	税	科目	金額	税額	税率	部門	税	科目	金額	税額	税率	
20150301	1	000	0	1122	315000	0		200	1	4111	210000	10000	500	本日掛売上高
20150301	1								1	4112	105000	5000	500	本日掛売上高
20150301	2	000	11	4115	21000	1000	500	200	0	1122	21000	0		掛売上高返品

なお、レイアウト2を使用して読み込んだ場合、仕訳データの読込時に、諸口勘定を使用して単純仕訳へ自動分解されます。このため、「会社情報」タブのメニュー「2 経理情報」で、諸口勘定が登録されている必要があります。資金管理を行っている場合（システム情報の「5. 資金管理」にチェックをしている場合）は、資金諸口、資金外諸口の両方に、資金管理していない場合は、資金諸口、資金外諸口どちらか一方に科目を登録する必要があります。

②読込対象のデータが、上記①の「FX4クラウド標準のレイアウト」通りか否かを選択します。なお、FX4クラウドの標準レイアウトについては、巻末資料「2. 自動仕訳データレイアウト<レイアウト1：単純仕訳形式>」及び「3. 自動仕訳データレイアウト<レイアウト2：複合仕訳形式>」をご参照ください。FX4クラウド標準のレイアウト以外の場合は、仕訳読込テンプレートの設計機能を使い、連携対象システムの切り出しデータを上記①のいずれかの標準レイアウトへ組み替えて読み込めます。

仕訳読込テンプレートの設計機能の詳細については下記2. 4をご参照ください。

③また自動仕訳データ1行につき1仕訳を生成することを原則としますが、「レイアウト1（単純仕訳形式）」を選択した場合、下図のファイルのように、1行から複数の仕訳を生成するケースも読み込めます（「レイアウト2（複合仕訳形式）」は対応していません）。

A	B	C	D	E
年月日	現金売上	カード売上	商品券売上	他店商品券売上
26/10/1	120,059	189,778	0	13,000
26/10/2	135,860	160,379	45,000	25,000
26/10/3	230,015	178,335	0	0
26/10/30	136,480	120,333	23,200	0
26/10/31	189,116	145,250	11,000	58,220

（1行につき、現金売上、カード売上、商品券売上、他店商品券売上の4仕訳を計上）

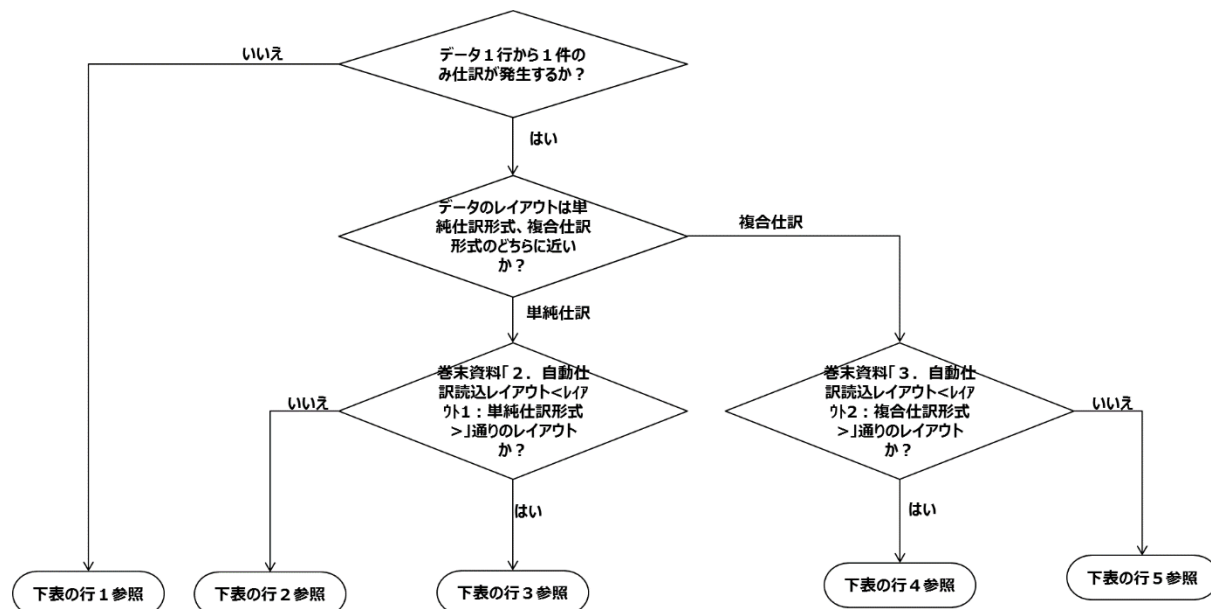
④さらに、読込処理実行時に、特定条件に合致する行については読み飛ばすということも可能です。「取引金額が0円の行は読み飛ばしたい」等の場合にご利用いただけます。

⑤以上を考慮し、どのようなレイアウトのファイルを読み込むかを最初に決定する必要があります。設定は「仕訳連携」タブのメニュー「32 ファイルレイアウト設定」の「1. 基本情報」画面、及び当該画面から起動される「受入レイアウト」画面で行います。

<画面1:「基本情報」画面>

<画面2:「受入レイアウト」画面>

読込対象データのレイアウトごとに上記画面で設定すべき内容は変わります。概ね次の通りとなります。



行	上記画面での設定値		
	仕訳読込テンプレートの利用 (上記画面1)	ファイル受入レイアウトの選択 (上記画面2)	データ1行から生成する仕訳数 (上記画面2)
1	利用する	レイアウト1	件数を入力
2	利用する	レイアウト1	「1」と入力
3	利用しない	レイアウト1	「1」と入力
4	利用しない	レイアウト2	－ (入力不可)
5	利用する	レイアウト2	－ (入力不可)

(2) 業務システムの登録

連携を行うシステムは、システムコード、システム名等の情報をあらかじめFX4クラウドに登録しておきます。登録はメニュー「業務システムの登録」で行います。

業務システムとして登録できるシステムコードは101～998の数字3桁のコードです。また、頭文字については以下の頭文字は使用できません。

(使用できない頭文字) ①A1、②CR、③DX、④EX、⑤FM、⑥HT、⑦IB、⑧MT、⑨PM、⑩PP、⑪PX、⑫RZ、⑬SO、⑭S1、⑮SX、⑯TK、⑰TP、⑱TX、⑲TY

(3) 読込ファイルレイアウトの設定

予め連携を行うシステムごとに、ファイルの種類、形式を指定しておきます。また、仕訳読込テンプレートの設計機能を利用する場合は、テンプレートの設計を行います。連携を行うシステムのコード（勘定科目、口座、部門、取引先）とFX4クラウドで利用するコードが異なる場合は、コードの変換表も登録しておきます。これらの作業はメニュー「ファイルレイアウト設定」で行います。

(4) 読込フォルダの設定

連携対象システムが作成した自動仕訳ファイルは予め任意のフォルダに格納されているものとします。メニュー「読込フォルダの設定」でこのフォルダを事前に設定しておきます。

(5) データの取り込み方法

仕訳データはユーザの取り込み指示により取り込みを行います。正しく取り込まれたファイルは再計上を防止するためファイルの拡張子をシステムが自動的に変更します。

なお、仕訳データはFX4クラウドにて読み込んでからデータの補正等の必要がないように作成されているものとします。

(6) 自動仕訳ファイルの保存場所について

上記(5)の通り、読込終了後にファイルの拡張子の変更処理を行うため、書込権限のあるフォルダに保存されている必要があります。CD-Rに作成した場合、または、FDを書込禁止としている場合は読み込むことはできません。

書込権限のあるフォルダであれば、FX4クラウドがインストールされているパソコンに保管する必要はありません。サーバや他のPCに保管されているファイルでも読込可能です。

(7) データの取り込みエラーについて

仕訳データにセットされているデータとFX4クラウドの項目データとが一致していない等、データ不整合の問題が発生した場合は、画面上その旨を表示し、そのファイル全体を取り込み不可能とします。

(8) 読み込んだデータの確認方法について

FX4クラウドで入力した仕訳と同じように確認することができます。また、条件検索機能を利用することにより、業務システムから取り込んだ仕訳のみを抽出することも可能です。

なお、「レイアウト2（複合仕訳形式）」を選択した場合は、仕訳データの読込時に、諸口勘定を使用して単純仕訳へ自動分解されます。また、読込後に問合せ画面から伝票画面までドリルダウンした場合は、複合仕訳入力画面が表示されます（FX4クラウドの複合仕訳入力機能を利用して入力した取引と同様の扱いとなります）。

(9) データ連携後の訂正・削除

業務システムから取り込んだ仕訳データを訂正・削除する必要がある場合は、業務システム側で訂正・削除等の処理を行った後、再度データを作成し、訂正・削除後の仕訳データをFX4クラウドで取り込むことを前提とします。

システム間の整合性が失われる可能性があるため、業務システムからFX4クラウドに取り込んだ仕訳を訂正・削除することは望ましくありません。このため、業務システムからFX4クラウドに取り込んだ仕訳を訂正・削除しようとする場合には、システム間の整合性が失われる旨を警告し、その後に訂正・削除処理を行うことを可能としています。

訂正の場合は訂正する仕訳及び部門の金額に－1を乗じた自動仕訳を作成しその上で追加仕訳を作成する、もしくは訂正の差額分のみの自動仕訳を作成します。

なお、読み込んだ仕訳は、「21 仕訳読込履歴」メニューより一括削除できます。

(10) FX4クラウドで入力した仕訳との相違点について

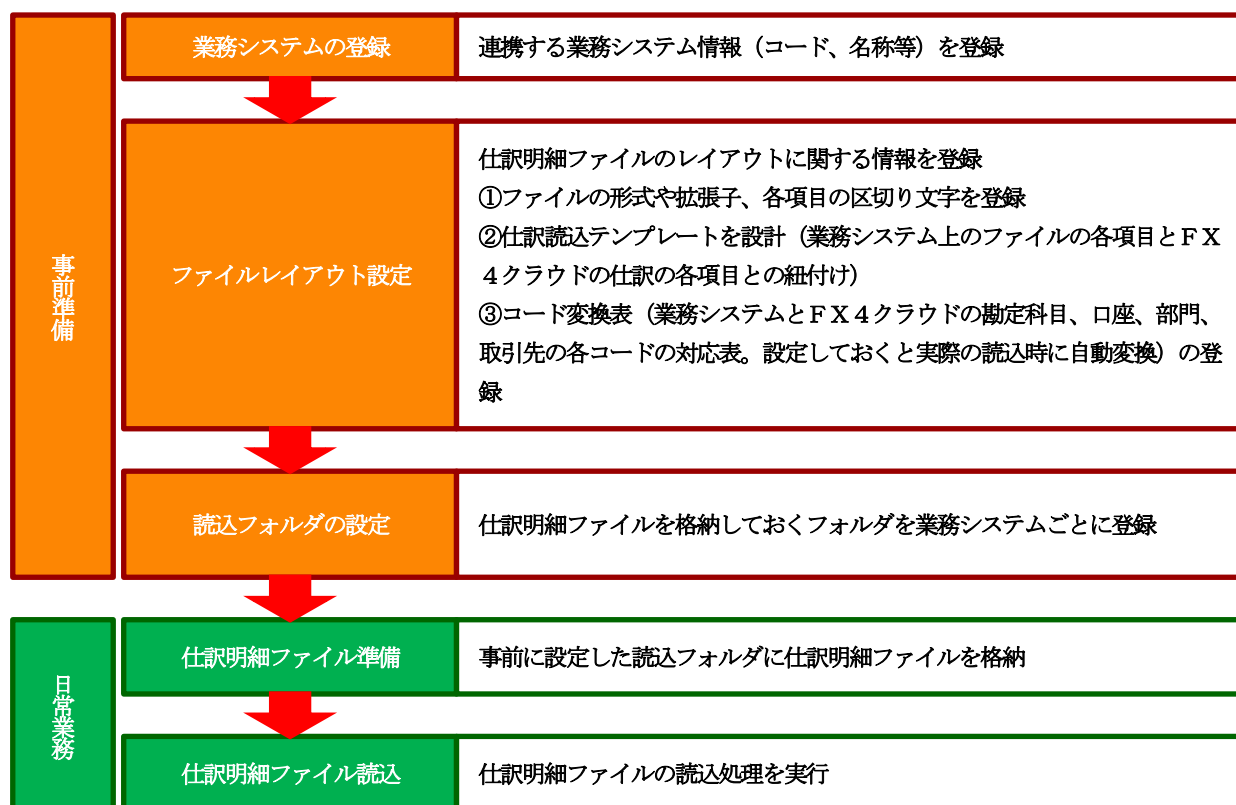
業務システムから取り込んだ仕訳とFX4クラウドで入力した仕訳の間に大きな違いはありません。主な違いは以下の通りです。

①訂正・削除の際に警告メッセージが表示される。

②仕訳確認時に、画面上に連携システム名が表示される。

2. 2 仕訳連携処理の流れ

(1) 概要



(2) （事前準備）業務システムの登録

連携対象となる業務システムを登録します。

また、仕訳読込時に行う整合性チェックの内容の設定等を行います。

(3) （事前準備）ファイルレイアウトの設定

- ①業務システムごとにファイルレイアウトに関する各種情報を登録します。

- ②「基本情報の登録」画面では業務システムごとにファイルの形式や拡張子等の情報を登録します。また、仕訳読込テンプレートの利用有無、受入レイアウトの選択、データ1行から生成する仕訳数等も併せて設定します。詳細については、上記2. 1. 2の(1)をご参照ください。

- ③当画面は、上記②の画面で「仕訳読込テンプレートを利用する」と設定した場合に利用します。「仕訳読込テンプレートの設計」画面では業務システム上のファイルの各項目とFX4クラウドの仕訳の各項目との紐付けや、条件によってセットする値を設定します。

- ④「コード変換表の登録」画面では、業務システムとFX4クラウドでコード体系が異なる場合は、「勘定科目コード、補助科目コード変換表」、「部門コード変換表」、「取引先コード変換表」、「課税区分変換表」を登録しておきます。

(4) (事前準備) 読込フォルダの設定

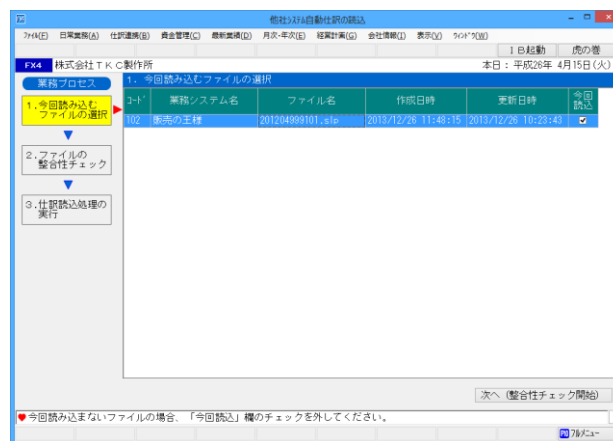
仕訳読込処理を行うPCごとに、読み込むファイルの格納先のフォルダの指定を行います。この設定を行うことによって、はじめて仕訳読込処理を利用できるようになります。

なお、PCを入れ替えたり、日々処理しているPCとは別のPCで処理する場合は、再度設定する必要があります。

(5) (日常業務) 他社システム仕訳の読込

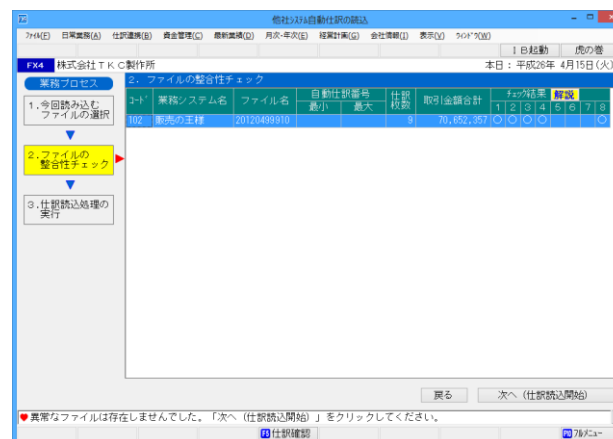
①今回読み込むファイルの選択

事前設定した読込フォルダに格納されたファイルが表示されます。今回読み込むファイルを選択した上、[次へ (整合性チェック開始)] ボタンをクリックします。



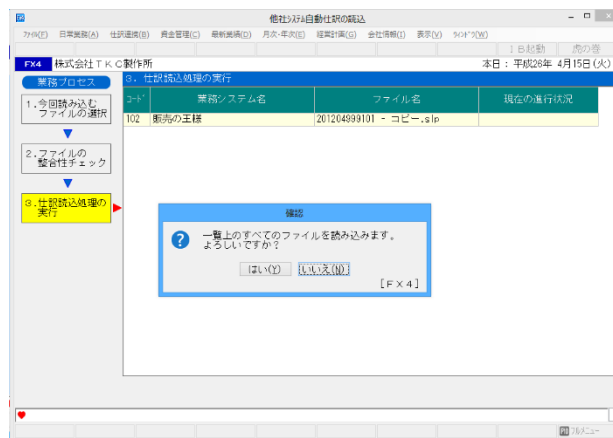
②ファイルの整合性チェック

整合性チェックを行います。チェックの結果、エラーとなった場合は、詳細を表示します。
エラーがない場合は[次へ (仕訳読込開始)] ボタンで読込を実行します。



③仕訳読込処理の実行

「現在の進行状況」列で各ファイルの読込状況を確認できます。仕訳読込処理が終了したファイルについては「読込完了」の文字が表示されます。



2. 3 自動仕訳ファイルの形式

(1) ファイルの形式

タブ、カンマのいずれかにより区切られたテキストファイルとします。仕訳データのレコードの区切りには改行コードを使用します。

(2) ファイルの構成

① 1 仕訳は 1 つの仕訳レコードと 0 または 1 以上の部門レコードから構成されます。

1) 仕訳部の貸借科目のどちらかが営業損益もしくは経常損益の科目である場合で、その取引が複数の部門にかかる取引である場合は 2 つ以上の部門レコードが必要です。この場合、仕訳レコードを格納した「仕訳明細ファイル」と部門レコードを格納した「部門明細ファイル」の 2 つが必要となります。ただし、選択したデータレイアウト（上記 2. 1. 2 (i) ご参照）によっては、「部門明細ファイル」を利用したデータ連携はできません。「受入レイアウト」画面での設定内容ごとの「部門明細ファイル」使用可否は次の通りです。行 2, 3 で読み込む場合は、1 仕訳レコードに対して 1 部門以下の部門レコードとなるようファイルを作成してください。

行	ファイル受入レイアウトの選択	データ1行から生成する仕訳数	部門明細ファイル利用可否
1	レイアウト1（単純仕訳形式）	1件	可
2	レイアウト1	2件以上	不可
3	レイアウト2（複合仕訳形式）	－（入力不可）	不可

2) 上記科目以外の取引仕訳の場合、部門レコードは不要です。

②なお、仕訳部にいくつの部門レコードが後続するかは仕訳部の「部門明細数」の項目で設定します。

1) 1仕訳に対して0部門の場合

仕訳の貸借科目のどちらにも営業損益もしくは経常損益の科目がない場合（後述の「会計伝票イメージ①」）は、仕訳明細ファイルのみの作成となります。

2) 1仕訳に対して1部門の場合

仕訳の貸借科目のどちらかが営業損益もしくは経常損益の科目である場合で、かつ、その取引が1部門にかかる取引の場合（後述の「会計伝票イメージ②」）は、仕訳明細ファイルのみの作成となります（部門明細ファイルがあっても可）。

3) 1仕訳に対して複数部門の場合

仕訳の貸借科目のどちらかが営業損益もしくは経常損益の科目である場合で、かつ、その取引が複数部門にかかる取引の場合（後述の「会計伝票イメージ③」）は、仕訳明細ファイルに加えて部門明細ファイルの作成が必要となります。

会計伝票から入力

FX4 ABCオートサプライ 株式会社

本日：平成24年 3月31日 (土)

伝(貸)番 証券番号 課税区分 事業区分 小切手番号 年 月 日

95 0 不課税取引 # 24 3 31

借方科目・口座名 貸方科目・口座名 取引金額

1113 A 普通預金 1122 売掛金 500,000

取引先名 (仕入先の氏名又は名称) 取引 01 経常収入 (内: 消費税等)

株式会社岩手電気 100003 売 02 売掛金入金

振替の仕入れ年月日 元帳摘要 (仕入れ資産等の名称) 税率 税抜き金額

24年 3月31日 支払 109,524 (5.0%) 109,524

100 本社

R-No. 11091/230608

ファンクション・キーで選択してください。

前仕訳 次仕訳 確認終了 訂正 削除 予定確認 印刷

会計伝票イメージ①

1仕訳に対して0部門の場合で、かつ仕訳の貸借科目のどちらにも営業損益もしくは経常損益の科目がない場合

会計伝票から入力

FX4 ABCオートサプライ 株式会社

本日：平成24年 3月31日 (土)

伝(貸)番 証券番号 課税区分 事業区分 小切手番号 年 月 日

1 5 課税仕入(課税) # 24 3 31

借方科目・口座名 貸方科目・口座名 取引金額

6115 売掛金 2112 買掛金 115,000

取引先名 (仕入先の氏名又は名称) 取引 01 経常収入 (内: 消費税等)

北海道商事株式会社 100001 売

振替の仕入れ年月日 元帳摘要 (仕入れ資産等の名称) 税率 税抜き金額

24年 3月31日 支払 109,524 (5.0%) 109,524

100 本社

R-No. 11092/230608

ファンクション・キーで選択してください。

前仕訳 次仕訳 確認終了 訂正 削除 予定確認 印刷

会計伝票イメージ②

1仕訳に対して1部門の場合で、かつ仕訳の貸借科目のどちらかが営業損益もしくは経常損益の科目である場合

会社名: ABCオートサプライ 株式会社
 本日: 平成24年 3月31日 (土)
 月次決算完了
 入力担当者: tsutsumi_takashi
 仕入(買)番: 1 | 証憑番号: | 課税区分: | 事業区分: | 小切手番号: | 年 月 日: 24 3 31
 借方科目・口座名: 1111 Z 現金 | 貸方科目・口座名: 4111 半導体製造装置関連売上高 | 取引金額: 500,000
 取引先名(仕入先の氏名又は名称): 北海道商事株式会社 | 元帳 勘 部 (仕入れ資産等の総称): 100001 売 01 経常収入 (内: 消費税等) 23,810
 売上の仕入れ年月日: | 元帳 勘 部 (仕入れ資産等の総称): | 税率: | 税 括 ぎ 金 額: |
 売上: (5.0%) 478,190
 部門名: 100 本社 | 内訳(税込み)金額: | (内: 消費税等): | 内 訳 金 額: 10,000
 200 東京営業部 | | | 300,000
 204 サービス科(東京) | | | 160,000
 210 東京支店 | | | 6,190
 免 額: | | | |
 R-No. 11093/230608
 ファンクション・キーで選択してください。
 前仕訳 次仕訳 確認終了 訂正 削除 767can

会計伝票イメージ③

1 仕訳に対して複数部門の場合で、かつ仕訳の貸借科目のどちらかが営業損益もしくは経常損益の科目である場合

仕訳レコードと部門レコードの関係は以下の通りです。

【例1】売掛金 10,000 を当座預金で回収した。

(借方) 当座預金 (貸方) 売掛金 10,000

貸借科目のどちらも営業損益、経常損益の科目ではないので、仕訳明細ファイルのみが必要です。

①仕訳明細ファイルの内容

レコード番号	借方科目	貸方科目	取引金額	部門明細数	部門コード
1	当座預金	売掛金	10,000	0	

【例2】掛けにて、部門(001)で15,000、部門(003)で15,000販売した。

(借方) 売掛金 (貸方) 売上高 30,000

[内訳] 部門(001) 15,000

[内訳] 部門(003) 15,000

貸方が営業損益科目で、部門明細が2つあるので、仕訳明細ファイルの他に部門明細ファイルが必要となります。

①仕訳明細ファイルの内容

レコード番号	借方科目	貸方科目	取引金額	部門明細数	部門コード
2	売掛金	売上高	30,000	2	

②部門明細ファイルの内容

レコード番号	明細部レコード番号	部門コード	内訳金額
2	1	001	15,000
2	2	003	15,000

【例3】リース料 20,000 を、当座預金より支払った。

(借方) リース料 (貸方) 当座預金 20,000

[内訳] 部門(002) 20,000

借方が営業損益科目で、部門明細が1つなので、仕訳明細ファイルのみが必要になります。部門明細ファイルは作成しなくても問題ありません。

①仕訳明細ファイルの内容

レコード	借方科目	貸方科目	取引金額	部門明	部門コード
------	------	------	------	-----	-------

番号				細数	
3	リース料	当座預金	20,000	1	002

②部門明細ファイルの内容

レコード 番号	明細部 レコード番号	部門コード	内訳金額
3	1	002	20,000

[例4] 普通預金より現金 10,000 を引き出した。

(借方) 現金 (貸方) 普通預金 10,000

貸借科目のどちらも営業損益、経常損益の科目ではないので、仕訳明細ファイルのみが必要になります。

①仕訳明細ファイルの内容

レコード 番号	借方科目	貸方科目	取引金額	部門明 細数	部門コード
4	現金	普通預金	10,000	0	

以上の[例1]～[例4]をまとめると、次のようになります。

①仕訳明細ファイルの内容

レコード 番号	借方科目	貸方科目	取引金額	部門明 細数	部門コード
1	当座預金	売掛金	10,000	0	
2	売掛金	売上高	30,000	2	
3	リース料	当座預金	20,000	1	002
4	現金	普通預金	10,000	0	

②部門明細ファイルの内容

レコード 番号	明細部レコード 番号	部門コード	内訳金額
2	1	001	15,000
2	2	003	15,000
3	1	002	20,000

仕訳明細ファイルの部門数が1の場合、上記部門明細ファイル（この例の場合、レコード番号3）は作成しないことも可能です。

(3) ファイル名

「FX4クラウド標準のレイアウト」とした場合（仕訳読込テンプレートを利用しない場合）、仕訳明細ファイルは拡張子(.slp)、部門明細ファイルは拡張子(.cls)として特定の同一フォルダに格納します。その他のレイアウトとした場合（仕訳読込テンプレートを利用する場合）は、画面上で設定した拡張子と同一にします。

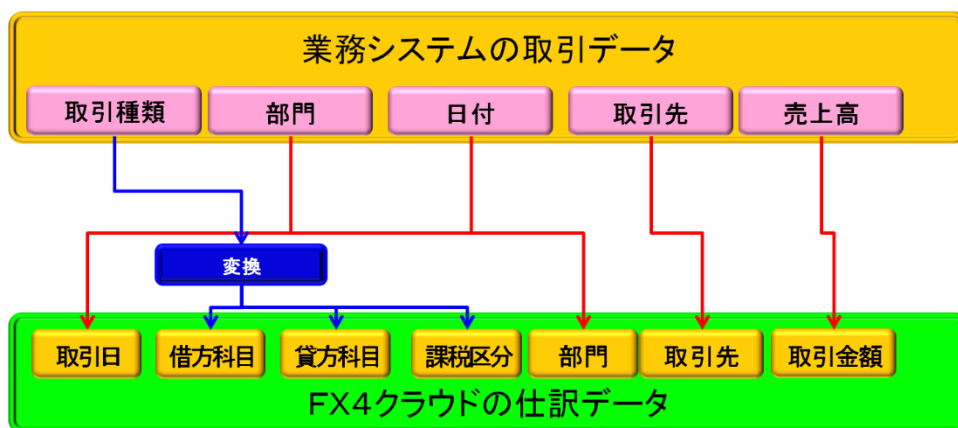
ファイル名は拡張子が指定通りであれば自由に設定可能ですが、ただし、仕訳明細ファイル名と部門明細ファイル名は拡張子以外を同一にします。

例、仕訳明細ファイル名を「20110701shiwake.slp」とした場合、部門明細ファイル名は「20110701shiwake.cls」と設定。

2. 4 仕訳読込テンプレートの設計機能

(1) 機能概要

勘定科目や課税区分など、業務システムにおいて把握できない情報を仕訳データに動的にセットできます。当機能を利用することにより、FX4クラウド標準のレイアウトで作成されていないデータであっても、FX4クラウドで読込可能なレイアウトへ自動的に組み替えて読み込むことが可能となります。



(2) 仕訳読込テンプレートの設計画面について

仕訳データの読込時にレイアウトの自動組み替えをするためには、事前に「仕訳読込テンプレートの設計」画面で設定作業を行う必要があります。

FX4クラウドの仕訳データとして必要な項目（標準レイアウト）

どの値をセットするか

上記画面の通り、FX4クラウドの仕訳データとして必要な項目ごとに、セットする値を設定します。当画面の詳細な操作方法については、「操作説明書」の第6章「4. 2 「32 ファイルレイアウト設定」」をご参照ください。

①当画面では、項目ごとに次の値をセットできます。

1) 読込元の列の値

読込対象の仕訳データから読込元の列を選択することにより、当該列の値をそのままセットします。列の選択が可能であるため、FX4クラウド標準のレイアウト通りに仕訳データが作成されていなくても読込が可能となります。例えば、FX4クラウド標準のレイアウトでは「取引年月日」が4列目で、読込対象の仕訳データでは10列目に該当する項目「売上日付」があるという場合であっても、「取引年月日」にセットする値として「列10 売上日付」を選択すれば読込が可能です。

2) 固定値

読込対象の仕訳データの値に関係なく、固定の値を読み込むことができます。例えば、次のような場合にご利用

できます。

- a. 仕訳データに「会社コード」はセットされていないが、固定で自社の会社コード「999」をセットしたい。
- b. 仕訳データに「消費税率」はセットされていないが、固定で10%をセットしたい。

3) 文字列の編集値

読込対象の仕訳データの値をそのまま読み込むのではなく、複数の列の文字列を結合して読み込んだり、逆に列の文字列のうち一部のみを読み込むことが可能です。例えば、次のような場合にご利用できます。

- a. 販管システムから別々のセルへ切り出された単価、数量、商品名を結合し、元帳摘要としてセットしたい。
- b. 例えば20桁の取引コードのうち最初の3桁が部門コードを示す場合に、コードの先頭3桁を部門コードとしてセットしたい。

4) 計算した値

読込対象の仕訳データの値を加減乗除した演算結果を読み込むことができます。例えば、次のような場合にご利用できます。

- a. 仕訳データには「税込み金額」はあるが、内、消費税等に該当する金額がない場合に、「税込み金額」に8/108を乗じた値を「内、消費税」としてセットしたい。

5) 条件に応じた値

読込対象の仕訳データの値をそのまま読み込むのではなく、ある条件に合致した場合のみ読み込むことができます。条件は複数設定できるため、例えば条件Aに合致した場合には値aをセットし、条件Bに合致した場合には値bをセットするということに、条件に応じてセットする値を変更することも可能です。また、条件に合致した場合にセットする値についても、「読込元の列の値」だけではなく、「固定値」や「文字列の編集値」とすることもできますので、様々なケースにご利用できます。例としては次の通りです。

- a. 売上日付が2019年10月1日以降の場合、消費税率に「10%」をセットし、それ以外の場合は「8%」をセットする。
- b. 仕訳データの帰属部門が本社だったら課税区分に「7」をセットし、それ以外の場合は「5」をセットする。

6) 省略

選択項目への読込を省略します。ただし、必須項目の場合は読込時にエラーとなります。

- ②作成した仕訳読込テンプレートのファイル切り出し、及び読込も可能です。作成したテンプレートを共有できます。
- ③上記①の設計情報に基づき仕訳データの読込処理が行われますが、当画面の[無効行設定]ボタンで設定することにより、読込処理実行時に、特定条件に合致する行については読み飛ばすということも可能です。「取引金額が0円の行は読み飛ばしたい」という場合にご利用ください。
- ④作成した仕訳読込テンプレートを利用して仕訳を読み込めることを確認できる機能として、読込テスト機能を搭載します。当画面の[読込テスト]ボタンをクリックし、読み込む予定の仕訳ファイルを選択することで、当該ファイルの読込可否や読込内容を確認できます。

2. 5 コード変換表機能

FX4 コード変換表の登録

ファイル(F) 日常業務(A) 仕訳連携(B) 資金管理(C) 最新業績(D) 月次・年次(E) 経営計画(G) 会社情報(I) 表示(V) ウィンドウ(W)

登録 修正 削除 ファイル読込 ファイル切出 全削除 虎の巻

FX4 株式会社 T K C 製作所 本日：令和 2年 1月31日(金)

102 販売の王様

勘定科目 補助科目 部門 取引先 課税区分

業務システムのコード		対応するFX4のコード			
勘定科目コード	補助科目コード	勘定科目コード	補助科目コード	勘定科目名	補助科目名
111		111		現金	
112	A	112	Z	当座預金	
112	B	1113	A	普通預金	常陽銀行 宇都宮支店
112	C	1113	B	普通預金	三菱UFJ銀行 神楽坂支店

♥ 処理を選択してください。

前頁 次頁 タブ切替 戻る

業務システムのコード 対応するFX4クラウドのコード

(1) 機能概要

- ①例えば、読込対象データ内に「得意先コード」という項目があるとします。ただし、この「得意先コード」と、FX4クラウドで同得意先を管理している「取引先コード」が異なるとします。

読込対象データ内の「得意先コード」	FX4クラウドの「取引先コード」
100	100012
200	100250
300	100330
400	100456

このような場合、「得意先コード」を「取引先コード」へ組み替えて読み込む必要があります。このための方法として、次のように仕訳読込テンプレートの「条件に応じた値」（上記参照）を利用する方法があります。

[第1条件] 「列11 得意先コード」が「100」だったら「取引先コード」へ「100012」をセット

[第2条件] 「列11 得意先コード」が「200」だったら「取引先コード」へ「100250」をセット

[第3条件] 「列11 得意先コード」が「300」だったら「取引先コード」へ「100330」をセット

[第4条件] 「列11 得意先コード」が「400」だったら「取引先コード」へ「100456」をセット

...

ただし、この方法の場合、得意先コードが多いと設定が煩雑となります。また、新たな得意先追加の都度、仕訳読込テンプレートを見直す必要が生じることとなります。

②このため、FX4クラウドでは、「コード変換表」機能を搭載しています。業務システムとFX4クラウドとでコード体系が異なる場合に、業務システム上のコードとそれに対応するFX4クラウドのコードを定義しておくことにより、仕訳読込時には定義したコード変換表に基づいて自動的にコードが変換されて読み込まれます。

これにより、新たな得意先追加があった場合も、仕訳読込テンプレートの設計は見直さずに「コード変換表」をメンテナンスするだけで対応できます。

売上日付	得意先コード	得意先名1	部門コード	部門名	摘要	商品コード	商品名	売上金額	税込区分コード	税込区分	消費税
2012/2/20	250	株式会社宇都宮工業	4	京都支店	売掛金計上 当月売上高	101	AA商品	210000	2	税込	10000
2012/2/20	100	千葉機械産業株式会社	1	横浜支店	売掛金計上 当月売上高	1	A商品	300000	1	税抜	0
2012/2/20	100	千葉機械産業株式会社	1	横浜支店	売掛金計上 消費税分	ZE12	消費税	0			15000

業務システム	FX4クラウド
1	220
4	320

業務システム	FX4クラウド
100	100012
250	100250

業務システムとFX4クラウドのコードの対応関係を定義したコード変換表を作成しておくことにより、読込時に自動でコードが変換されます。

③コード変換表を利用できるマスターは次の4種類です。

- 1) 勘定科目、補助科目
- 2) 部門
- 3) 取引先
- 4) 課税区分

(2) コード変換表に関するご注意

①仕訳読込テンプレートと併用する場合

仕訳データの読込は、1)仕訳読込テンプレートの設計に基づくレイアウトの自動組替処理、2)コード変換表によるコードの変換、の順に行われます。このため、仕訳読込テンプレートの「条件に応じた値」の条件判断として読込元の列の値を使用したい場合は、コード変換表で変換される前の値をご利用ください。

[例]

- ・業務システムから切り出された仕訳データ内にセットされた科目コードは500と600。
FX4クラウドでは、それぞれ4111、5211として読み込みたい（コード変換表を作成）。
- ・科目コードは500の場合は課税区分に[1]を、600の場合は課税区分に[5]をセットして読み込みたい（仕訳読込テンプレートの「条件に応じた値」を利用）。

1)仕訳読込テンプレートの設計画面での「課税区分」は「条件に応じた値」を選択します。この場合、条件内で使用する勘定科目コードは変換前のもの（500または600）とします。

【第1条件】「列X 勘定科目コード」が「500」だったら[1]をセットする。

【第2条件】「列X 勘定科目コード」が「600」だったら[5]をセットする。

2) また、「勘定科目、補助科目コード変換表」として次の内容を登録します。

業務システムのコード		FX4クラウドのコード	
勘定科目コード	補助科目コード	勘定科目コード	補助科目コード
500		4111	
400		5211	

- 3) 上記 1) 2) の設定をした上で、次のファイルの読込処理を行った場合、まず「仕訳読込テンプレートの設計画面」の設計内容に基づき、レイアウトの自動組替が行われます。行 1 はファイル内の「勘定科目コード」である「500」を使用して条件判断され、課税区分に「1」がセットされます。また、行 2 も同様に「5」がセットされます。
- ＜業務システムのデータ＞

行	日付	勘定科目コード	税込み金額	
1	20140501	500	10,000	・・・
2	20140501	600	20,000	・・・



＜レイアウト自動組替後の仕訳データ（イメージ）＞

取引年月日	伝票番号	課税区分	借方科目	貸方科目	取引金額
20140501		1	XXXX	500	10,000
20140501		5	600	XXXX	20,000

(※) この時点では、まだ勘定科目は 500、600 のままです。

- 4) 次にコード変換表に基づく変換処理が行われます。

＜コード変換後の仕訳データ＞

取引年月日	伝票番号	課税区分	借方科目	貸方科目	取引金額
20140501		1	XXXX	4111	10,000
20140501		5	5211	XXXX	20,000

②貸借対照表科目を部門別管理している場合のコード変換表の利用

「貸借対照表科目を部門別管理しているが、口座別管理はしていない」という場合、「補助科目コード」欄に部門コードをセットする必要があります（詳細なレイアウトについては巻末資料をご参照ください）。このケースで、コード変換表を利用して部門コードを読み込む際には、「補助科目コード」欄に「部門コード」をセットするものの、「勘定科目、補助科目コード変換表」を利用せず「部門コード変換表」を利用することとなります。

なお、部門コードのみのコード変換で済む場合と、併せて勘定科目コードの変換も行う場合でコード変換表の作成方法に違いがありますので、事例でご説明いたします。

- 勘定科目コードのコード変換は不要。部門コードのコード変換のみ必要という場合
「部門コード変換表」を登録します。下記の「例 1」をご参照ください。
- 勘定科目コードのコード変換のみ必要。部門コードのコード変換は不要という場合
「勘定科目、補助科目コード変換表」を登録します。下記の「例 2」をご参照ください。
- 勘定科目コードのコード変換、部門コードのコード変換ともに必要という場合
「勘定科目、補助科目コード変換表」及び「部門コード変換表」を登録します。下記の「例 3」をご参照ください。

【例 1：勘定科目は同一。部門コードの変換のみ実施したい場合】

- ・業務システムから切り出された仕訳データ内の 3 列目に「科目コード」があり、1211 がセットされている。これを F X 4 クラウドではそのまま 1211（建物）として読み込みたい。なお、1211 は部門別管理しているが、口座別管理はしていない。
- ・また、同じ仕訳データ内には 10 列目に「部門コード」があり、300 がセットされている。F X 4 クラウドではこれを 400 に変換して読み込みたい。

- 仕訳読込テンプレートの設計画面では次の通り設定します。
 - 「勘定科目コード」は「読込元の列の値」を選択し、「列 3 科目コード」を選択します。
 - 「補助科目コード」は「読込元の列の値」を選択し、「列 10 部門コード」を選択します。
- 部門コード変換表を次のように登録します(※)。

業務システムのコード	F X 4 クラウドのコード
300	400

(※) 「部門コード」を「補助科目コード」欄へセットすると設定した場合でも、次のようには登録せずに、部門コード変換表を利用してください。

【誤った例】

a. 勘定科目、補助科目コード変換表

業務システムのコード		F X 4クラウドのコード	
勘定科目コード	補助科目コード	勘定科目コード	補助科目コード
1211	300	1211	400

- 3) 上記 1) 2) の設定をした上で、次のファイルの読込処理を行った場合、まず「仕訳読込テンプレートの設計画面」の設計内容に基づき、レイアウトの自動組替が行われます。ファイル内の「勘定科目コード」である「1211」がそのまま「勘定科目コード」へセットされます。また、部門コード「300」がそのまま「補助科目コード」へセットされます。

<業務システムのデータ>

行	日付	科目コード	税込み金額	部門コード
1	20140501	1211	10,000	300



<レイアウト自動組替後の仕訳データ（イメージ）>

取引年月日	伝票番号	課税区分	借方科目コード	借方補助科目コード	取引金額
20140501		1	1211	300	10,000

(※) この時点では、まだ補助科目コードは 300 のままです。

- 4) 次に「部門コード変換表」に基づく変換処理が行われます。

<コード変換後の仕訳データ>

取引年月日	伝票番号	課税区分	借方科目コード	借方補助科目コード	取引金額
20140501		1	1211	400	10,000

(※) 「借方補助科目」欄は使用しているものの、実体は部門コードであるため、「部門コード変換表」に基づきコード変換処理が行われます。

■ワンポイント■ 仕訳読込テンプレートと併用する場合のコード変換処理について

上記①の通り、仕訳読込テンプレートと併用する場合、仕訳データの読込は 1) 仕訳読込テンプレートの設計に基づくレイアウトの自動組替処理、2) コード変換表によるコードの変換、の順に行われるため、1) の自動組替処理が行われた結果に対して、コード変換処理がされます。

[例 2：部門コードは同一。勘定科目の変換のみ実施したい場合]

- ・業務システムから切り出された仕訳データ内の 3 列目に「科目コード」があり、100 がセットされている。これを F X 4クラウドでは 1211（建物）として読み込みたい。なお、1211 は部門別管理しているが、口座別管理はしていない。
- ・また、同じ仕訳データ内には 10 列目に「部門コード」があり、400 がセットされている。F X 4クラウドではこれをそのまま 400 として読み込みたい。

- 1) 仕訳読込テンプレートの設計画面では次の通り設定します。

- 「勘定科目コード」は「読込元の列の値」を選択し、「列 3 科目コード」を選択します。
- 「補助科目コード」は「読込元の列の値」を選択し、「列 10 部門コード」を選択します。

2) 勘定科目、補助科目コード変換表を次のように登録します(※)。

業務システムのコード		F X 4クラウドのコード	
勘定科目コード	補助科目コード	勘定科目コード	補助科目コード
100	400	1211	

(※) 「部門コード」を「補助科目コード」欄へセットすると設定した場合でも、次のようには登録しないでください。

【誤った例】

業務システムのコード		F X 4クラウドのコード	
勘定科目コード	補助科目コード	勘定科目コード	補助科目コード
100	400	1211	400

3) 上記 1) 2) の設定をした上で、次のファイルの読込処理を行った場合、まず「仕訳読込テンプレートの設計画面」の設計内容に基づき、レイアウトの自動組替が行われます。ファイル内の「勘定科目コード」である「1211」がそのまま「勘定科目コード」へセットされます。また、部門コード「400」がそのまま「補助科目コード」へセットされます。

<業務システムのデータ>

行	日付	科目コード	税込み金額	部門コード
1	20140501	100	10,000	400



<レイアウト自動組替後の仕訳データ (イメージ) >

取引年月日	伝票番号	課税区分	借方科目コード	借方補助科目コード	取引金額
20140501		1	100	400	10,000

(※) この時点では、まだ借方科目コードは100のままです。

4) 次に「勘定科目、補助科目コード変換表」に基づく変換処理が行われます。

<コード変換後の仕訳データ>

取引年月日	伝票番号	課税区分	借方科目コード	借方補助科目コード	取引金額
20140501		1	1211	400	10,000

(※) 「勘定科目、補助科目コード変換表」に基づき、業務システムの科目コード「100」と補助科目コード「400」が「1211」へ変換されます。

[例3：勘定科目、部門コードとも異なるため両方変換したい場合]

- ・業務システムから切り出された仕訳データ内の3列目に「科目コード」があり、100がセットされている。これをF X 4クラウドでは1211（建物）に変換して読み込みたい。なお、1211は部門別管理しているが、口座別管理はしていない。
- ・また、同じ仕訳データ内には10列目に「部門コード」があり、300がセットされている。F X 4クラウドではこれを400に変換して読み込みたい。

1) 仕訳読込テンプレートの設計画面では次の通り設定します。

- 「勘定科目コード」は「読込元の列の値」を選択し、「列3 科目コード」を選択します。
- 「補助科目コード」は「読込元の列の値」を選択し、「列10 部門コード」を選択します。

2) この場合、コード変換表として次の2種類を登録します (※)。

a. 勘定科目、補助科目コード変換表

業務システムのコード		F X 4クラウドのコード	
勘定科目コード	補助科目コード	勘定科目コード	補助科目コード
100	300	1211	

b. 部門コード変換表

業務システムのコード	FX4クラウドのコード
300	400

(※) 上記①のように、まず「仕訳読込テンプレートの設計画面」の設計内容に基づき、レイアウトの自動組替が行われます。その結果、業務システムのコードとして、一時的に「勘定科目コード」が「100」、「補助科目コード」が「300」という状態が生じます。この状態でコード変換処理が実施されます。このため、変換元となる「業務システムのコード」には「勘定科目コード」が「100」、「補助科目コード」が「300」というコードを登録する必要があります。

一方、FX4クラウドの科目コード1211は口座別管理していないため、補助科目コードとして「400」というコードは存在していません。最終的には「補助科目コード」欄にセットされた「300」という部門コードを「400」へ変換し、「補助科目コード」欄にセットした上で読み込みますが、「補助科目コード」欄は使用しているものの、「400」というコードの実体は部門コードです。このため、「勘定科目、補助科目コード変換表」の「FX4クラウドのコード」の「補助科目コード」欄は空欄とし、別途「部門コード変換表」を作成します。

<誤った例>

a. 勘定科目、補助科目コード変換表

業務システムのコード		FX4クラウドのコード	
勘定科目コード	補助科目コード	勘定科目コード	補助科目コード
100	300	1211	400

3) 上記1)2)の設定をした上で、次のファイルの読込処理を行った場合、まず「仕訳読込テンプレートの設計画面」の設計内容に基づき、レイアウトの自動組替が行われます。ファイル内の「勘定科目コード」である「100」がそのまま「勘定科目コード」へセットされます。また、部門コード「300」がそのまま「補助科目コード」へセットされます。

<業務システムのデータ>

行	日付	科目コード	税込み金額	部門コード
1	20140501	100	10,000	300



<レイアウト自動組替後の仕訳データ (イメージ) >

取引年月日	伝票番号	課税区分	借方科目コード	借方補助科目コード	取引金額
20140501		1	100	300	10,000

(※) この時点では、まだ勘定科目は100、借方補助コードは300のままです。

4) 次に「勘定科目、補助科目コード変換表」及び「部門コード変換表」に基づく変換処理が行われます。

<コード変換後の仕訳データ>

取引年月日	伝票番号	課税区分	借方科目コード	借方補助科目コード	取引金額
20140501		1	1211①	400②	10,000

(※) ①「勘定科目、補助科目コード変換表」に基づき、業務システムの科目コード「100」と補助科目コード「300」が「1211」へ変換されます。

②「部門コード変換表」に基づき、「借方補助科目コード」にセットされていた「300」が「400」に変換されます。

2. 6 データ作成上の注意

(1) 消費税法の適用に関わる項目

①課税区分

課税区分は、その取引が消費税法上どのような取引であることを明らかにするためにFX4クラウドが定める課税区分を設定します。

②消費税額

課税区分が「1、11、12、5、51、55、6、61、65、7、71、75」に該当する取引の場合は、税込みの取引金額に含まれる消費税額をデータとして作成します。

「55、65、75」に該当しない場合は、次の計算式で求め税額入力区分は自動計算を示す「1」とします。
(計算式) 消費税金額 = 税込み取引金額 × 消費税率 ÷ (消費税率 + 100)

※計算は小数点第一位を四捨五入します。

ただし、消費税法施行規則第22条の適用を受ける場合には、実際の取引によって生じた消費税金額をデータとして作成し、その際の税額経理区分は「0」とします。

「55、65、75」に該当する取引の場合は、必ず実際に生じた消費税額をデータとして作成しなければなりません。

③実際の仕入れ年月日

課税区分「5、51、55、57、58、6、61、65、67、68、7、71、75、77、78、8」に該当する取引（課税仕入れに関わる取引）の場合、消費税の仕入税額控除を受けるために、その課税仕入れが実際に行われた日を仕訳に記帳する必要があります。そのための項目として実際の仕入れ日の項目を用意しています。

実際の仕入れ年月日の表示方式は以下の通りです。

入力パターン	開始日	終了日	FX4クラウド上の表現
0	0	0	表示なし（入力省略）
1	YYYYMMDD	0	Z9年Z9月Z9日
2	YYYYMMDD	YYYYMMDD	Z9年Z9月Z9日～Z9年Z9月Z9日
3	YYYYMM00	0	Z9年Z9月分
4	YYYYMM00	YYYYMM00	Z9年Z9月～Z9年Z9月分

(2) システム番号の設定

①1つのファイル内には1つのシステム番号のみをセットしてください。複数のシステム番号が1ファイル内に混在する場合、当該ファイルは読み込めませんのでご注意ください。

②システム番号には、通常は「連携システム情報」で登録したコードを入力しますが、1000を入力すると、当該データを決算整理仕訳として処理します。この場合、画面上部のタイトルには「他社システム（決算整理）」と表示されます。

(3) 貸借対照表科目を部門別管理している場合のご注意

①貸借対照表科目を口座別管理かつ部門別管理している場合、「補助科目コード」欄に補助コードをセットしてください。この場合、「部門コード」欄へのセットは不要です。

②「貸借対照表科目を部門別管理しているが、口座別管理はしていない」という場合、「補助科目コード」欄に部門コードをセットしてください。

(4) 自動仕訳データ読込時のチェック

仕訳読込時、システムでは以下のようなチェックを行っています。

No.	タイトル	チェック内容	チェックに該当した場合
1	ファイルの形式	①ファイルの形式(列数など)が、事前にメニュー「32 ファイルレイアウト設定」で設定したものと同一か ②レイアウト2（複合仕訳形式）で読み込む場合、「経理情報」メニューで諸口勘定が設定されているか ③レイアウト2（複合仕訳形式）で読み込む場合、単純仕訳に分解後の仕訳数が、1複合伝票あたり1,000件を超えていないか	エラー

2	会社コード、業務システムコード	正しい会社コード及び業務システムコードは正しいか	エラー
3	未登録のマスター項目	勘定科目コード、補助科目コード、部門コード、取引先コードには、マスターに存在するコードをセットしているか	エラー
4	不完全仕訳	必須項目に正しい値をセットしているか	エラー
5	自動仕訳番号の連続性	【任意チェック項目】今回読み込むファイルの自動仕訳番号(最小)と前回の自動仕訳番号(最大)とが連続しているか、また今回読み込むファイル内で自動仕訳番号が連続しているか	警告
6	ファイルのタイムスパン	【任意チェック項目】ファイルの「更新日時」が「作成日時」の60秒以内か、また、期間内(「作成日時」から起算)にファイルを読み込んでいるか	警告
7	同一仕訳	【任意チェック項目】FX4クラウドに存在する仕訳データと次の項目がすべて同一の仕訳を読み込もうとしていないか ・取引年月日、勘定科目、取引先、取引金額	警告
8	消費税率	【任意チェック項目】標準税率または軽減税率以外の税率の仕訳データを読み込もうとしていないか	警告

(画面イメージ)

会社情報 日次業務 仕訳連携 資金管理 最新業績 月次・年次 経費計画 会社情報 表示 クラウド

FX4 株式会社TKC製作所 本日: 令和2年1月31日(金)

販売の王様 読み込み済 .slp 令和2年1月1日～令和2年1月1日

月日	伝番	税	税率	借方科目	コード	貸方科目	コード	取引先名	元帳摘要	取引金額
1. 1	1	10.0%	現金	1111	製品売上高	4111	東京食品	原則 (課税商品・サ	11,000	

全データ: 1件 取引金額合計 11,000

計上予定の仕訳を確認してください。

みなし処理 前頁 次頁 確認終了 証憑番号 事業区分 仕入れ日 消費税等

(5) その他注意事項

① 「仕訳明細ファイル」「部門明細ファイル」をExcelで編集する場合のご注意

一度作成したファイルをExcelで編集して上書き保存すると、0で始まる項目については、0が外れた状態で保存されてしまいます。このため、項目によっては読み込時にエラーとなります。また、エラーとならない場合でも、意図しない値(0が外れた値)でファイルが読み込まれてしまう可能性があります。以下の項目については、Excelで当該項目を文字列として認識させてから保存するようにしてください。

1) 証憑書番号

2) (借方・貸方) 補助コード

3) 小切手番号

② 「レイアウト2 (複合仕訳形式)」で読み込む場合のご注意

複合仕訳形式で作成されたデータは、諸口勘定を利用した単純仕訳に自動分解した上で読み込みます

(例: 5211/2112 という仕訳の場合は、「5211/9992」「9992/2112」という2仕訳に分解されます)。

分解後の仕訳数が、1複合仕訳伝票あたり1,000件を超える場合は読み込めません。1,000件以内になるよう作成してください。

第5章 「仕訳連携」タブ

1. 業務システムからの自動仕訳読込

1. 1 「1 TKCシステム自動仕訳の読込」

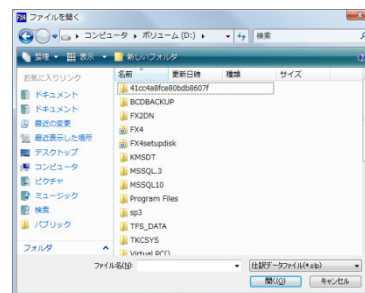
1. 1. 1 概要

P X、S X、固定資産管理システム、F M Sで作成した自動仕訳データを読み込みます。

1. 1. 2 「TKC 自動仕訳の読込」画面

(1) 操作方法

- ① [ファイル読込] ボタンをクリックします。右の画面が表示されます。対象のファイル(slp)を選択して、[開く] ボタンをクリックします。



- ②仕訳データの読込が開始され、完了すると読み込まれた仕訳が画面に表示されます。内容を確認し、[F4 一括更新] ボタンをクリックします。更新処理を開始します。

(2) 注意点

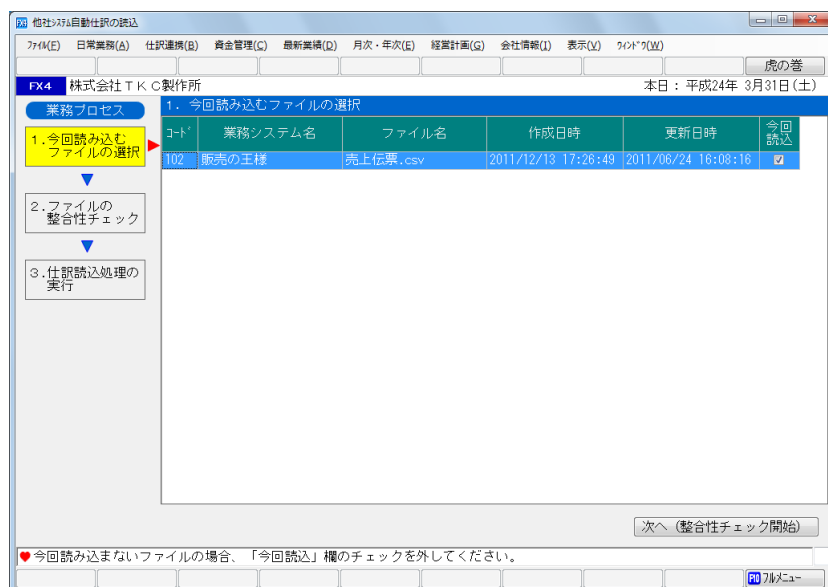
- ① F X 2等からF X 4クラウドに移行した場合、P XやS Xにて仕訳データのファイル形式や連動システムを「F X 4」に変更する必要があります。
- ② P X、S Xおよび固定資産管理システムのファイルを読み込んだ後、ファイルの拡張子の末尾に年月日が表示されます。なお、F M Sの場合は、ファイル自体が削除されます。

1. 2 「2 他社システム自動仕訳の読込」

1. 2. 1 概要

予め指定したフォルダ内に格納した、販売管理システム等の業務システムで作成した自動仕訳データを読み込みます。

1. 2. 2 「今回読み込むファイルの選択」画面



(1) 入力項目

項目名	内 容
①今回読込	チェックの付いたファイルが今回の読込対象となるファイルです。今回ファイルを読み込まない場合は、チェックを外します。

(2) 操作方法

①当画面に表示されるファイルは、次のすべての条件を満たすファイルです。

- 1) メニュー「33 読込フォルダの設定」画面で業務システムごとに設定したフォルダ内のファイル
- 2) メニュー「32 ファイルレイアウト設定」の「基本情報」画面の「ファイルレイアウト」欄の設定内容に基づく拡張子のファイル
 - a. 「FX4標準のファイルレイアウト(slp、cls)」の場合
「*.slp」のファイルが対象となります。なお、「*.cls」のファイルについては、拡張子を除くファイル名が同じである「*.slp」のファイルとセットで読み込まれます。
 - b. 「その他のファイルレイアウト」の場合
「ファイル拡張子」欄に入力した拡張子と一致する拡張子のファイルが対象となります。
なお、部門明細ファイルと証憑情報ファイルは、仕訳明細ファイルのファイル名と同一のファイル名のファイル(拡張子を除く)とセットで読み込まれます。

②ファイルのタイムスタンプの「更新日時」が「作成日時」から60秒以上経過後の日時のファイルの場合、「更新日時」が赤文字で表示されます。通常、ファイルを新規作成しただけでは、「更新日時」は「作成日時」とほぼ同一の時刻になります。しかし、ファイルを修正・保存すると「作成日時」は変更されませんが、「更新日時」が書き換わります。このため、「更新日時」が「作成日時」から60秒以上経過している場合は「更新日時」が赤文字で表示されます。

③ [次へ (整合性チェック開始)] ボタンにより選択したファイルの整合性チェックを行います。

1. 2. 3 「ファイル整合性チェック」画面

他社システム自動仕訳の読み込み

ファイル(E) 日常業務(A) 仕訳連携(B) 資金管理(C) 最新業務(D) 月次・年次(E) 経営計画(G) 会社情報(H) 表示(V) ヘルプ(M)

FX4 株式会社TKO製作所 本日：平成27年 3月 5日(木)

業務プロセス

1. 今回読み込むファイルの選択

2. ファイルの整合性チェック

3. 仕訳読み込みの実行

コード	業務システム名	ファイル名	自動仕訳番号 最小 最大	仕訳 枚数	取引金額合計	チェック結果	解説
102	購買王	20140399910		200	24,535,849	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	!

戻る 次へ (仕訳読み込み開始)

異常なファイル (!) が存在します。行を選択し、チェック結果の詳細を確認してください。

仕訳確認 ヘルプメニュー

(1) 操作方法

①当画面では以下の内容についてチェックされます。一覧上のチェック結果欄の1～8の文字は以下の「No.」列に対応しています。

No.	タイトル	チェック内容	チェックに該当した場合
1	ファイルの形式	ファイルの形式(列数やタグなど)が、メニュー「32 ファイルレイアウト設定」でに設定したものと同一かがチェックされます。	エラー
2	会社コード、業務システムコード	正しい会社コード及び業務システムコードがセットされているかがチェックされます。	エラー
3	未登録のマスター項目	勘定科目コード、補助科目コード、部門コード、取引先コードのうち、マスターに存在しないコードがセットされていないかがチェックされます。	エラー
4	不完全仕訳	必須項目に正しい値がセットされているかや、借方金額と貸方金額の金額が一致しているかがチェックされます。	エラー なお、エラーの詳細はシステム解説書の「第2章 仕訳の入力」－「2. 他システムとの仕訳連携」－「2.6 データ作成上の注意」を参照してください。
5	自動仕訳番号の連続性	当チェックはメニュー「31 業務システムの登録」の「項目「自動仕訳番号」が連続していない場合に警告を表示」欄にチェックを付けた場合にのみ行われます。今回読み込むファイルの自動仕訳番号(最小)と前回の自動仕訳番号(最大)とが連続しているか、また今回読み込むファイル内で自動仕訳番号が連続しているかがチェックされます。	警告
6	ファイルのタイムスタンプ	当チェックはメニュー「31 業務システムの登録」の「ファイルのタイムスタンプ」欄のいずれかのチェックボックスにチェックを付けた場合にのみ行われます。事前の設定に基づいて、「更新日時」が「作成日時」から60秒以上経過していないか、また、読み込む日時と「作成日時」とを比較し、上記メニューでの設定日数を経過していないかがチェックされます。	警告

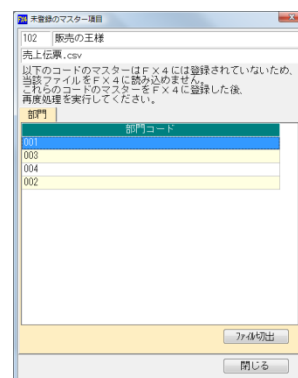
7	同一仕訳	当チェックはメニュー「31 業務システムの登録」の「以下の項目が同一である仕訳がすでに存在する場合に警告を表示」欄にチェックを付けた場合にのみ行われます。 以下の項目が同一である仕訳がすでに存在しないかがチェックされます。 ・取引金額、勘定科目、取引先、取引金額	警告
8	消費税率	税率テーブルの「標準税率」または「軽減税率」に登録された税率と異なる税率の仕訳データを読み込もうとしていないかがチェックされます。	警告

整合性チェックの結果、上記「1」～「4」のチェックでエラーとなったファイルが1つでも存在した場合は「次へ（仕訳読込開始）」ボタンはクリックできません。その場合は、「今回読み込むファイルの選択」画面でエラーとなったファイルを読込対象から除外した後、再度整合性チェックを行います。なお、後述の「受入レイアウト」において、データ1行から計上する仕訳数を2件以上と設定している場合は、「仕訳読込テンプレートの設計」画面上に表示されるすべてのタブをご確認ください。

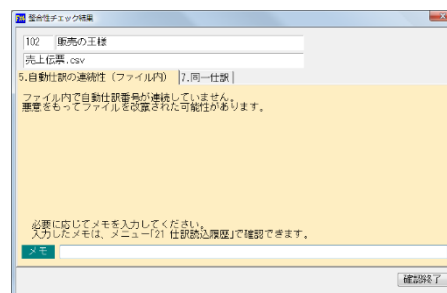
②一覧上のチェック結果欄には、チェック結果に応じて以下のいずれかの文字が表示されます。

- 1) ○：問題なし
- 2) ！：警告
- 3) ×：エラー

③チェック内容のうち、「3」の「未登録のマスター項目」のチェックでエラーとなった場合、当該行を選択することで、右の画面が表示され、FX4クラウドに登録すべきマスターの内容の確認及びファイル切出しが可能です。



④チェック内容のうち、「5」～「8」のチェックに該当した場合、チェック結果の詳細とメモを入力できます。入力したメモは、メニュー「21 仕訳読込履歴」で別途確認できます。

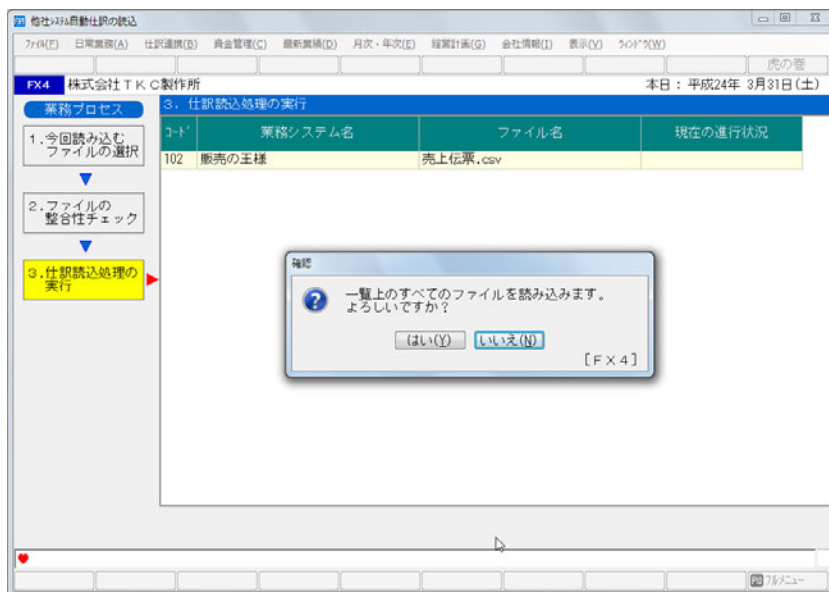


- ⑤チェック内容のうち、「4」まで完了したファイルが青反転している場合、[F5 仕訳確認] ボタンが有効となります。

- 1) 正常に読み込める場合は、今回読み込む仕訳の内容を確認できます。

- 2) エラーとなった場合は、その原因を確認できます。

1. 2. 4 「仕訳読込処理の実行」画面



(1) 操作方法

「現在の進行状況」列で各ファイルの読込状況を確認できます。仕訳読込処理が終了したファイルについては「読込完了」の文字が表示されます。

2. 業務システム別仕訳合計表

2. 1 「11 業務システム別仕訳合計表」

2. 1. 1 概要

各業務システムから連携した仕訳の金額を、勘定科目及び取引年月日で集計した金額を確認できます。この集計結果と業務システム上のデータとを突合することにより、FX4クラウドと業務システムとで連携モレ・ダブリがないことを確認できます。

2. 1. 2 「業務システム別仕訳合計表」画面

コード	勘定科目名	年月日	曜日	件数	借方発生額	貸方発生額	増減額(純額)
1122	売掛金	24.2.1	水	0	4,255,500	0	4,255,500
2164	仮受消費税等	24.2.2	木	0	0	0	0
4111	半導体製造装置関連売上高	24.2.3	金	0	0	0	0
		24.2.4	土	0	0	0	0
		24.2.5	日	8	945,000	0	945,000
		24.2.6	月	0	0	0	0
		24.2.7	火	0	0	0	0
		24.2.8	水	0	0	0	0
		24.2.9	木	0	0	0	0
		24.2.10	金	6	2,562,000	0	2,562,000
		24.2.11	土	0	0	0	0
		24.2.12	日	0	0	0	0
		24.2.13	月	0	0	0	0
		24.2.14	火	0	0	0	0
		24.2.15	水	4	493,500	0	493,500
		24.2.16	木	0	0	0	0
		24.2.17	金	0	0	0	0
		24.2.18	土	0	0	0	0
		24.2.19	日	0	0	0	0
		24.2.20	月	3	255,000	0	255,000

(1) 入力項目

項目名	内 容
①勘定科目	勘定科目を選択します。取引年月日が選択中の年月内である仕訳にセットされている勘定科目の中から勘定科目を選択します。
② 口座	上記①「勘定科目」が、口座別管理を行う勘定科目の場合に、勘定科目欄でダブルクリックまたはエンター・キーにより、口座一覧が表示されます。当口座一覧から、口座を選択します。
③ 取引先	上記①「勘定科目」が、取引先別管理を行う勘定科目の場合に、勘定科目欄でダブルクリックまたはエンター・キーにより、取引先の一覧が表示されます。当取引先の一覧から、取引先を選択します。 なお、口座別管理及び取引先別管理の両方を行っている勘定科目の場合は、口座を選択後に取引先を選択します。
④年月	合計額を表示する年月を指定します。 指定可能な年月は、「システム利用開始年月から3年前の期首月」から「最新の伝票入力日が属する年月」までです。

(2) 操作方法

- ①「科目の選択」欄には、各業務システムから連携した仕訳のうち、取引年月日が選択中の年月内である仕訳にセットされている勘定科目が表示されます。また、各勘定科目のうち口座別管理または取引先別管理を行っている勘定科目の場合、該当行をクリックすることにより、管理対象の口座または取引先ごとの仕訳の集計結果を確認できます。
- ②「業務システム別取引合計額」欄には、「科目の選択」欄で選択した勘定科目（または口座、取引先）の取引年月日ごとの仕訳件数及び合計額が表示されます。各日付を選択することにより、仕訳帳画面にドリルダウンできます。さらに仕訳帳画面から伝票画面にドリルダウンできます。
- ③なお、当画面に表示される金額は仕訳の「取引金額」の合計額が表示されます。このため、税抜経理を行っている場合で税抜金額を確認する場合は、ドリルダウン後の仕訳帳画面でファイル切り出し等を行い、別途集計する必要があります。
- ④「ファイル切出」ボタンで、「業務システム別取引合計額」の内容をCSVファイルに切り出すことができます。

3. 仕訳読込履歴

3. 1 「21 仕訳読込履歴」

3. 1. 1 概要

業務システムごとに及び日付ごとに、ファイル及びその読込結果を確認できます。当メニューを活用することで、「読み込むべき日に読んだか？」や「本来読み込まないはずの日に読んでいないか？」の両方を確認できます。

3. 1. 2 「仕訳読込履歴」画面

(1) 入力項目

項目名	内 容
①表示期間	画面上に表示する期間を、開始日及び終了日を入力することで指定します。
②読み込んだ日付のみ表示	ファイルを読み込んだ履歴のみを表示する場合は、当欄にチェックを付けます。

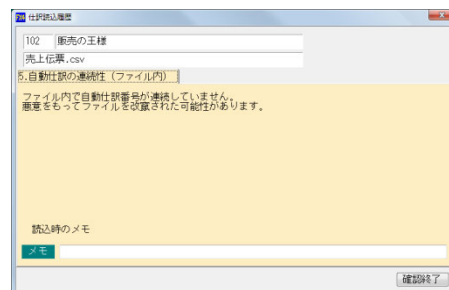
(2) 操作方法

①画面右上の「読み込んだ日付のみ表示」欄にチェックを付けることにより、ファイルを読み込んだ履歴のみを表示できます。

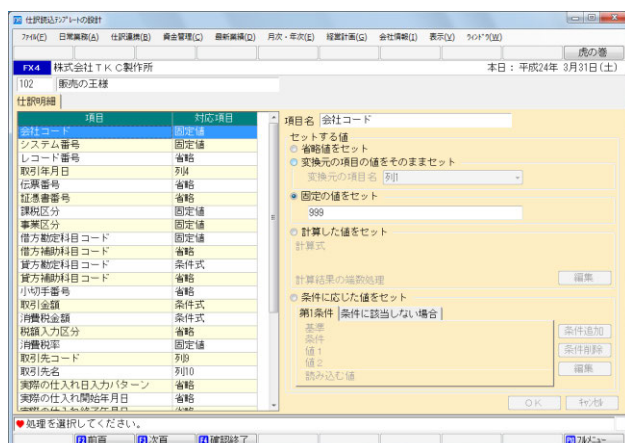
②読込処理を行った履歴(読込の有無に関係なく)の行を選択することで、「読込履歴の詳細」画面を表示できます。

当画面で、読み込んだ日時、ファイルの内容、読込時の整合性チェックの結果を確認できます。

- ③読込時に警告が表示されたファイルの場合、「読込履歴の詳細」画面の[F6 警告内容]ボタンで、「整合性チェック結果」画面が表示され、警告内容の詳細を確認できます。読込時にメモを入力していた場合は当画面からメモの入力内容を確認できます。

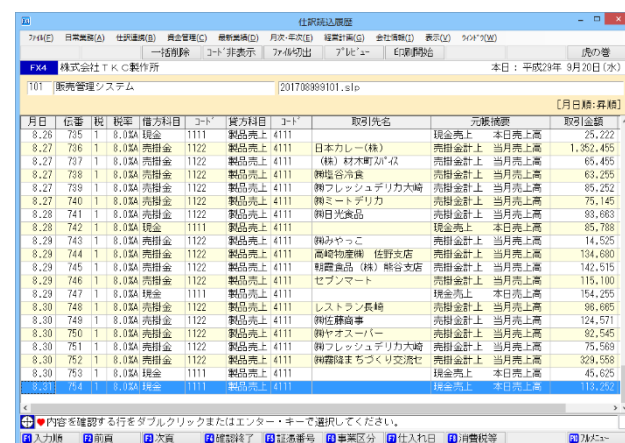


- ④仕訳読込テンプレートを利用して仕訳連携を行う業務システムの場合、「読込履歴の詳細」画面の[F7 変換内容]ボタンで、「仕訳読込テンプレートの設計」画面が表示されます。現在の仕訳読込テンプレートの設定内容を確認できます。



- ⑤また、「読込履歴の詳細」画面の[F8 仕訳確認]ボタンで仕訳帳画面が表示されます。当該ファイルから読み込んだ仕訳を確認できます。さらに仕訳帳画面から伝票画面にドリルダウンできます。

- ⑥なお、画面上部の[一括削除]ボタンをクリックすると、当画面に表示されている仕訳を削除できます。



1) 一括削除可能な条件

以下の2つの条件をともに満たす場合に一括削除することができます。

削除できない仕訳が1つでも存在する場合は、一括削除できません。

- ・すべての仕訳が月次更新未了であること。
- ・すべての仕訳が訂正・削除可能※であること。

【※訂正・削除不可なケース】

- 承認済みの仕訳（仕訳の承認権限がないユーザ）
- 月次締切業務で締め切られている仕訳（月次締切業務開始後の仕訳訂正加除を禁止されているユーザ）
- 他のユーザが仕訳を訂正中
- 他のユーザが支払・入金予定を訂正中
- 仕訳に紐づく手形・電子記録債権の区分が変更されている
- TPS1000/2000 の連携データ作成により、禁止されている月の仕訳

2) 削除される情報

- a. 当機能は通常の仕訳削除を一括で行う機能です。このため、通常の仕訳削除時に削除される付随情報は、当機能においても同様に削除されます。具体的には、仕訳に付随する以下の情報が削除されます。

- i) 支払予定データ
- ii) 回収予定データ
- iii) 手形明細データ
- iv) 電債明細データ
- v) 部門明細データ

- b. 仕訳読み込み後に訂正・削除した仕訳も削除されます。

※なお、仕訳読込時に自動発生した下記のマスターについては、仕訳入力時に追加登録した際と同様に、削除の対象となりません。

- i) 口座コード
- ii) 取引先コード（取引先一覧）
- iii) 取引先コード（元帳残高管理科目）
- iv) 内訳管理コード
- v) 専用摘要
- vi) 勘定科目、部門のフリガナ

- c. 削除した仕訳は、訂正・加除履歴が残ります。

削除した仕訳を「入力データ検索」や「入力モニター」メニューで確認したとき、「月日」欄には「削除」と表示されます。

4. 事前準備（仕訳読込）

4. 1 「31 業務システムの登録」

4. 1. 1 概要

連携対象となる業務システムを登録します。また、業務システムごとに、仕訳読込時に行う整合性チェックの内容の設定や決算整理仕訳として読み込むかどうかの設定を行います。

4. 1. 2 業務システムの登録画面

業務システムの登録

ファイル(E) 日常業務(A) 仕訳連携(B) 資金管理(C) 最新業績(D) 月次・年次(E) 経営計画(G) 会社情報(H) 表示(U) ライト?O00

FX4 株式会社TKC食品 本日：令和 1年11月30日(土)

連携システム情報

コード	頭	システム名
05	SX	戦略販売購買情報システム (S X)
04	PX	戦略給与情報システム (P X)
07	A1	固定資産管理システム
08	FM	F M S
13	PM	支払管理サブシステム
71	CR	入金管理サブシステム
17	MT	FinTechサービス経由
12	IB	他社システム (I B/F B)
18	RZ	レジからのデータ
14	TX	期末整理仕訳 (TPS1000)
1000	S0	他社システム(期末整理)
16	TY	期末整理仕訳 (TPS2000)
101		

コード: 101
頭文字: SK
システム名: 販売の王様

自動仕訳番号の連続性チェック
☐ 項目「自動仕訳番号」が連続していない場合に警告を表示
 自動仕訳番号の付番ルール
☐ 無期限に継続 ☐ 事業年度ごとに付番 ☐ 月ごとに付番

ファイルのタイムスタンプチェック
☐ 作成後に更新されたファイルの場合に警告を表示
☐ 作成後、日経過しているファイルの場合に警告を表示

同一仕訳のチェック
☐ 以下の項目が同一である仕訳がすでに存在する場合に警告を表示
 ・取引年月日、勘定科目、取引先、取引金額

消費税率のチェック
☒ 標準税率・軽減税率と異なる税率が存在する場合に警告を表示
☐ 当システムから連携する仕訳は「期末整理仕訳」とする
☐ TKC証憑ストレージサービスに保管された証憑の証憑IDを併せて読み込む

OK キャンセル

♥ 連携システムコードを入力してください。

7/16メニュー

(1) 入力項目

業務システムごとに以下の設定を行います。

項目名	入力桁数	内 容
①コード	101～998	業務システムの「コード」を入力します。当システムに読み込むファイル内の項目「システム番号」には、当欄に入力した「コード」をセットします。Excel フォーマット (Excel からの仕訳計上機能) や他の業務システムで使用しているコードは、登録できません。
②頭文字	2 桁の半角英数字のみ有効	業務システムの「頭文字」を入力します。 仕訳を読み込んだ後、仕訳帳や元帳などで読み込んだ仕訳を確認する際に、各仕訳上の項目「自動仕訳番号」には、当欄に入力した「頭文字」と読み込むファイル内の項目「自動仕訳番号」の値 (6 桁) が組み合わされて表示されます。 (例) 「頭文字」が「AB」で、「自動仕訳番号」が「1」の場合、仕訳帳上の「自動仕訳番号」には、「AB000001」と表示されます。 なお、Excel フォーマット (Excel からの仕訳計上機能) や他の業務システムで使用している頭文字や、次の頭文字は使用できません。 (使用できない頭文字) ①A1、②CR、③DX、④EX、⑤FM、⑥HT、⑦IB、⑧MT、⑨PM、⑩PP、⑪PX、⑫RZ、⑬S0、⑭S1、⑮SX、⑯TK、⑰TP、⑱TX、⑲TY
③業務システム名	全角 20 文字	業務システムの名称を入力します。
④自動仕訳番号の連続性チェック		

1) 項目「自動仕訳番号」が連続していない場合に警告を表示		ファイルを読み込む際に、仕訳上の項目「自動仕訳番号」の連続性のチェックを行うかどうかを設定します。 当欄にチェックを付けた場合、仕訳読込時に以下の「自動仕訳番号の連続性チェック」が行われます。当チェックに該当した場合は、警告メッセージが表示されます。 ①読み込むファイル内に、「自動仕訳番号」が空欄の行が存在する ②読み込むファイル内で、「自動仕訳番号」が連続していない（重複または欠落） ③前回読み込んだファイルの「自動仕訳番号」（最大値）と今回読み込む仕訳ファイルの「自動仕訳番号」（最小値）が連続していない（重複または欠落）
2) 自動仕訳番号の付番ルール		上記①の「項目「自動仕訳番号」が連続していない場合に警告を表示」欄にチェックが付けた場合に、自動仕訳番号が業務システム側でどの単位で付番されるのかを選択します。 自動仕訳番号の連続性チェックは、当欄に選択した単位で行われます。「事業年度ごとに付番」または「月ごとに付番」を選択した場合は、「仕訳ファイル」内の「取引年月日」を基に、「事業年度ごと」または「月ごと」に「自動仕訳番号の連続性チェック」が行われます。
⑤ファイルのタイムスタンプ		
1) 作成後に更新されたファイルの場合に警告を表示		ファイルの改竄に関する整合性チェックを実施する場合は当欄にチェックを付けます。当欄にチェックを付けることで、ファイルの「更新日時」が「作成日時」から 60 秒以上経過している場合に警告メッセージが表示することができます。業務システムからファイルを出力した後で、何らかの修正が行われた場合、「作成日時」はそのままですが「更新日時」が新たに書き換わります。（大容量のファイルを新規に作成する場合は作成日時と更新日時には数秒の誤差が発生します。）このため、このような場合に警告メッセージを表示することができ、ファイルの改竄を防止できます。
2) 作成後、○日経過しているファイルの場合に警告を表示 ※「○」欄は別途設定できます。		ファイルの放置に関する整合性チェックを実施する場合は当欄にチェックを付けます。当欄にチェックを付けることで、仕訳連携処理を行おうとした日時と「作成日時」とを比較し、ある程度の期間が経過している場合に警告メッセージを表示することができます。業務システムから出力したファイルのある程度の期間放置し、その後に読み込むような運用を防止できます。
3) ファイルの放置の許容期間 ※上記 2) の「○」欄に相当	1～999 の整数	上記 2) の「ファイル作成後、○日以上経過している場合に警告を表示」欄にチェックを付けた場合に、ファイル作成後から読込までの期間について許容しない期間の最小値を日単位で入力します。
⑥同一仕訳のチェック		
1) 以下の項目が同一である仕訳がすでに存在する場合に警告を表示 ・取引年月日、勘定科		読込対象の仕訳がすでに入力されているかをチェックする場合は当欄にチェックを付けます。 当欄にチェックを付けることで、入力されている仕訳の中で、読み込む仕訳と以下の項目が同一である仕訳がすでに存在する場合に警告メッセージを表示することができます。 ・取引年月日、勘定科目、取引先、取引金額

目、取引先、 取引金額		
⑦消費税率のチェック		
1) 標準税率・ 軽減税率と 異なる税率 が存在する 場合に警告 を表示		読込対象の仕訳にセットされた税率が、税率テーブルの「標準税率」または「軽減税率」と同じかどうかをチェックする場合は当欄にチェックを付けます。 チェックを付けることにより、読込対象の仕訳にセットされた消費税率が次のいずれかの条件を満たす場合に警告メッセージを表示することができます。 ①仕訳の「年月日」時点で有効な税率テーブルの「標準税率」または「軽減税率」と、仕訳データの税率が異なっている。 ②仕訳の「実際の仕入れ年月日」（至年月日）時点で有効な税率テーブルの「標準税率」または「軽減税率」と、仕訳データの税率が異なっている。
⑦当システムから連携する仕訳は「決算整理仕訳」とする		「決算整理仕訳」を出力する業務システムの場合は当欄にチェックを付けます。当欄にチェックを付けることで、該当する業務システムから連携する仕訳は決算整理仕訳として読み込まれます。
⑧TKC 証憑ストレージサービスに保管された証憑の証憑IDを併せて読み込む		仕訳読み込みの際に、仕訳とTKC証憑ストレージサービスに保管済みの証憑の証憑IDを併せて読み込むかを設定します。 当欄にチェックを付けることで、仕訳の読み込み時に、指定されたTKC証憑ストレージサービスの証憑を仕訳に関連づけます。 なお、TKCシステム（コード 001～100 までと 999）については、当項目を設定することはできません。

(2) ボタン

- ① [F5 上へ] [F6 下へ] ボタンで、業務システムの表示順を任意に設定できます。
- ② [登録] ボタンで登録した「業務システム」を削除できます。なお、TKCシステムである次の業務システムは削除できません。
 - 1) (04)戦略給与情報システム(PX)
 - 2) (05)戦略販売購買情報システム(SX)
 - 3) (07)固定資産管理システム
 - 4) (08)FMS
 - 5) (12)他社システム (IB/FB)
 - 6) (13)支払管理サブシステム
 - 7) (14)法人決算申告システム(TPS1000)
 - 8) (16)個人決算申告システム(TPS2000)
 - 9) (17)FinTech サービス経由
 - 10) (18)レジからのデータ
 - 11) (71)入金管理サブシステム
 - 12) (1000)他社システム(期末整理)
- ③ [印刷開始] ボタンで帳表「連動対象業務システム一覧表」を印刷できます。

4. 2 「32 ファイルレイアウト設定」

4. 2. 1 概要

- (1) 業務システムから出力されるファイルのレイアウトに関する情報をF X 4クラウドに登録します。
- (2) 大きく以下の3つの内容を業務システムごとに登録します。

①基本情報

業務システムから出力されるファイルの形式や各項目の区切り文字などを登録します。

②仕訳読込テンプレートの設計

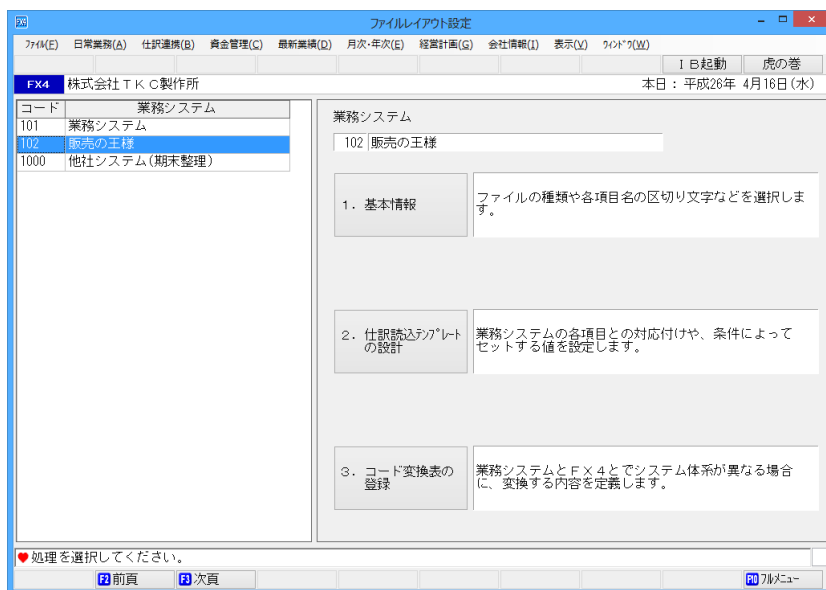
業務システムから出力されるファイルの形式が「F X 4クラウド標準のファイルレイアウト(slp, cls)」ではない場合に、業務システム上のファイルの各項目とF X 4クラウドの仕訳の各項目との対応付けや、条件によってセットする値を設定します。

これにより、業務システム上のファイルの値を元に、F X 4クラウドの仕訳上の各項目へ動的に値をセットすることも可能となります。例えば、F X 4クラウドの「課税区分」及び「税率」に該当する値が、業務システムでは1つの区分にまとめられた値になっている場合に、当該区分の値に応じて「課税区分」や「税率」に任意の値をセットできます。

③コード変換表の登録

業務システムとF X 4クラウドとで、勘定科目コード、補助科目コード、部門コード、取引先コード、課税区分の体系が異なる場合、業務システム上のコードとそれに対応するF X 4クラウドのコードを定義します。仕訳読込時には、定義したコード変換表に基づいて自動的にコードが変換されて読み込まれます。

4. 2. 2 ファイルレイアウト設定画面



(1) 操作方法

- ① 「1. 基本情報」ボタンで、「基本情報」画面を起動します。
- ② 「2. 仕訳読込テンプレートの設計」ボタンで、「仕訳読込テンプレートの設計」画面を起動します。
当ボタンは「基本情報」画面の「仕訳読込テンプレートの利用」欄を「利用する」とした場合に限り利用できます。
- ③ 「3. コード変換表の登録」ボタンで、「コード変換表の登録」画面を起動します。

4. 2. 3 「基本情報」画面

FX4 株式会社 T K C 製作所 本日: 令和 2年 1月31日(金)

102 販売の王様

仕訳読込テンプレートの利用

☒ 利用する ☐ 利用しない (F X 4クラウド標準のレイアウトで読込)

ファイル形式

区切り文字

☒ タブ ☐ カンマ データの開始行 行目 (これより上の行はタイトル行)

年月日形式 (例: 2010年4月1日、2010年12月31日)

☒ YYYYMMDD (20100401、20101231) ☐ YYYY/MM/DD (2010/04/01、2010/12/31) ☐ YYYY MM DD (2010 04 01、2010 12 31) ☐ YY MM D (10 4 1、101231)

☐ YYYY年MM月D日 (2010年4月1日、2010年12月31日) ☐ 和暦

ファイル拡張子

仕訳明細ファイルの拡張子 ☐ 部門明細ファイルを使用する (拡張子) ☐ 証憑情報ファイルを使用する (拡張子)

OK キャンセル

処理を選択してください。

確認終了

(1) 入力項目

項目名	入力桁数	内 容
①仕訳読込テンプレートの利用		業務システムから出力されるファイルのレイアウトをF X 4標準のファイルレイアウト(slp、cls)から読み込む(※1)か、または仕訳読込テンプレートを利用して読み込むかを選択します(※2)。 「利用する」の場合、「ファイル形式」欄を入力した後、「仕訳読込テンプレートの設計」画面で別途設定を行います。 (※1) F X 4標準のファイルレイアウトには「レイアウト1」「レイアウト2」の2種類があります。(システム解説書の巻末資料の2. 3. をご参照の上、いずれを利用するか選択してください。選択は当画面上部の[受入レイアウト]ボタンで行います。)なお、いずれのレイアウトの場合も、タブ区切りテキストファイル(拡張子slp、cls)から仕訳を読み込みます。 (※2) 他社システム自動仕訳読込機能は、業務システムから切り出された仕訳データ1行から1仕訳を生成することを原則としますが、選択により複数仕訳を読み込むことも可能です。この場合は、当欄を「利用する」と設定の上、当画面上部の[受入レイアウト]ボタンで、データ1行から生成する仕訳数を入力してください。
②区切り文字		当欄は「仕訳読込テンプレートの利用」欄を「利用する」と設定した場合に限り選択できます。ファイルの内の値と値を区切る文字を、「タブ」または「カンマ」から選択します。
③データの開始行	1～999の整数	当欄は「仕訳読込テンプレートの利用」欄を「利用する」と設定した場合に限り選択できます。業務システムから出力されるファイルの各行のうち、読み込むデータが格納されている行が開始する行数を入力します。当欄に入力した行数よりも少ない行数のデータはタイトル行とみなされ、読み込まれません。
④年月日形式		当欄は「仕訳読込テンプレートの利用」欄を「利用する」と設定した場合に限り選択できます。業務システムから出力されるデータのうち、日付に該当する値をセットした項目の日付の表現方法を以下の中から選択します。なお、以下の例はすべて2010年4月

		1 日及び 2010 年 12 月 31 日の場合です。 ①YYYYMMDD (例：20100401、20101231) ②YYYY/MM/DD (例：2010/04/01、2010/12/31) ③YYYY MM DD (例：2010 04 01、2010 12 31) ④YY M D (例：10 4 1、101231) ⑤YYYY 年 M 月 D 日 (例：2010 年 4 月 1 日、2010 年 12 月 31 日) ⑥和暦 (例：22 4 1、平成 22 年 12 月 31 日) ※「和暦」については、下記の形式に対応しています。 1) 区切り文字が「年」「月」「日」 平成 22 年_1 月_1 日 平成 22 年 01 月 01 日 平成 22 年 1 月 1 日 H22 年_1 月_1 日 H22 年 01 月 01 日 H22 年 1 月 1 日 22 年_1 月_1 日 22 年 01 月 01 日 22 年 1 月 1 日 2) 区切り文字が「/」 平成 22/_1/_1 平成 22/01/01 平成 22/1/1 H22/_1/_1 H22/01/01 H22/1/1 22/_1/_1 22/01/01 22/1/1 3) 区切り文字「なし」 平成 22_1_1 H220101 22_1_1 220101
⑤仕訳明細ファイルの拡張子		当欄は「仕訳読込テンプレートの利用」欄を「利用する」と設定した場合に限り選択できます。仕訳明細ファイルの拡張子を入力します。
⑥部門明細ファイルを利用する		①当欄は「仕訳読込テンプレートの利用」欄を「利用する」と設定した場合に限り選択できます。仕訳明細ファイルと併せて部門明細ファイルからの読込を行う場合にチェックを付けます。 ②ただし、次のいずれかに該当する場合、当欄は選択できません。 1) [受入レイアウト] ボタンで「レイアウト 2 (複合仕訳形式)」を選択した場合 2) [受入レイアウト] ボタンで「データ 1 行から生成する仕訳数」を 2 件以上と設定した場合 ③なお、部門明細ファイルに関する詳細は、システム解説書の「第 2 章 仕訳の入力」－「2. 他システムとの仕訳連携」－「2.3 自動仕訳ファイルの形式」をご覧ください。
⑦部門明細ファイルの拡張子		当欄は「部門明細ファイルを利用する」欄にチェックを付けた場合に限り選択できます。部門明細ファイルからの読込を行う場合、その拡張子を入力します。
⑧証憑情報ファイルを使用する		①当欄は「仕訳読込テンプレートの利用」欄を「利用する」と設定した場合に限り選択できます。仕訳明細ファイルと併せて

る		証憑情報ファイルからの読込を行う場合にチェックを付けます。 ②ただし、次のいずれかに該当する場合、当欄は選択できません。 1) [受入レイアウト] ボタンで「レイアウト2（複合仕訳形式）」を選択した場合 2) [受入レイアウト] ボタンで「データ1行から生成する仕訳数」を2件以上と設定した場合 ③なお、当ファイルを取り込むには、「31 業務システムの登録」メニューにて、「TKC証憑ストレージサービスに保管された証憑の証憑IDを併せて読み込む」にチェックを入れる必要があります。
⑨証憑情報ファイルの拡張子		当欄は「証憑情報ファイルを利用する」欄にチェックを付けた場合に限り選択できます。証憑情報ファイルからの読込を行う場合、その拡張子を入力します。

4. 2. 4 「受入レイアウト」画面

ファイル受入レイアウトの選択

☒ レイアウト1 (単純仕訳形式) ☐ レイアウト2 (複合仕訳形式)

▲ 1. それぞれのレイアウトの特徴は次の通りです。詳細はシステム解説書の巻末資料で確認できます。ご利用の業務システムに合ったレイアウトを選択してください。

(1) レイアウト1
「伝票（1伝票型）」の入力項目を前提としたレイアウトです。課税区分、取引金額、部門等は行単位でセットします。

(2) レイアウト2
「複合仕訳」の入力項目を前提としたレイアウトです。課税区分、取引金額、部門等は貸借それぞれにセットします。

2. レイアウト2を選択した場合、取引ごとの区切りは「取引年月日」と「伝票番号」に関連付いた項目で自動判定します。

データ1行から生成する仕訳数（レイアウト1選択時のみ有効）

件

▲ 日計表のようにデータ1行から複数の仕訳を計上する場合は、その件数を入力します。仕訳読込テンプレートの設計メニューで仕訳の種類ごとにテンプレートを設計できるようになります。

OK キャンセル

(1) 入力項目

項目名	入力桁数	内 容
①ファイル受入レイアウトの選択		受け入れるファイルのレイアウトを「レイアウト1（単純仕訳形式）」とするか「レイアウト2（複合仕訳形式）」とするか選択します。
②データ1行から生成する仕訳数	1～99の整数	業務システムから切り出されたデータ1行から生成される仕訳数を入力します。なお、当欄は「レイアウト1（単純仕訳形式）」を選択した場合のみ有効となります。

(2) 操作説明

- ①FX4クラウド標準のレイアウトは次の2種類あります。「ファイル受入レイアウトの選択」欄ではどちらのレイアウトを利用して読み込むか選択します。業務システムから切り出されるデータに合ったレイアウトを選択してください。

1) レイアウト1（単純仕訳形式）

「伝票（1伝票型）」の入力項目を前提としています。課税区分、取引金額、部門等は行単位でセットします。

取引年月日	伝番	税区	借方科目	貸方科目	取引金額	内、消費税等	消費税率	取引先	元帳摘要	部門
20150301	1	1	1122	4111	210000	10000	500	100001	本日掛売上高	200
20150301	1	1	1122	4112	105000	5000	500	100002	本日掛売上高	200
20150301	2	11	4115	1122	21000	1000	500	100001	掛売上高返品	200

2) レイアウト2（複合仕訳形式）

「複合仕訳」の入力項目を前提としています。課税区分、取引金額、部門等は貸借それぞれにセットします。

取引年月日	伝番	借方						貸方						元帳摘要
		部門	税	科目	金額	税額	税率	部門	税	科目	金額	税額	税率	
20150301	1	000	0	1122	315000	0		200	1	4111	210000	10000	500	本日掛売上高
20150301	1								1	4112	105000	5000	500	本日掛売上高
20150301	2	000	11	4115	21000	1000	500	200	0	1122	21000	0		掛売上高返品

a. レイアウト 2 を使用して読み込んだ場合、仕訳データの読込時に、諸口勘定を使用して単純仕訳へ自動分解されます。また、読込後に問合せ画面から伝票画面までドリルダウンした場合は、複合仕訳入力画面が表示されます（FX4クラウドの複合仕訳入力機能を利用して入力した取引と同様の扱いとなります）。

b. 上記の通り、諸口勘定を利用した単純仕訳に自動分解した上で読み込みます。このため、「会社情報」タブのメニュー「2 経理情報」で、諸口勘定に次の条件のすべてに合致する科目が登録されている必要があります。資金管理を行っている場合（システム情報の「5. 資金管理」にチェックをしている場合）は、資金諸口、資金外諸口の両方に、資金管理していない場合は、資金諸口、資金外諸口どちらか一方に科目を登録する必要があります。

i) 資金諸口

- ・ 貸借対照表科目
- ・ 消費税が「発生しない」科目（消費税属性がB）
- ・ 資金定義「する」としている科目
- ・ 口座別管理「しない」科目
- ・ 取引先別管理「しない」科目
- ・ 部門別管理「しない」科目
- ・ 経営分析属性が「現金」「流動性預金」以外の科目
- ・ 内訳管理「しない」科目

ii) 資金外諸口

- ・ 貸借対照表科目
- ・ 消費税が「発生しない」科目（消費税属性がB）
- ・ 資金定義「しない」としている科目
- ・ 口座別管理「しない」科目
- ・ 取引先別管理「しない」科目
- ・ 部門別管理「しない」科目
- ・ 内訳管理「しない」科目

c. 単純仕訳に分解する際に使用する諸口勘定は次の通りとなります。

i) 資金管理を行っている場合

貸借科目がすべて資金外科目の場合は、登録されている資金外諸口勘定を使用します。

貸借科目に資金科目が存在する場合は、登録されている資金諸口勘定を使用します。

ii) 資金管理を行っていない場合

資金外諸口科目が登録されている場合は資金外諸口科目を使用します。登録されていない場合は資金諸口科目を使用します。

d. レイアウト 2（複合仕訳形式）で読み込む場合は、単純仕訳に分解した際、仕訳が 1,000 枚以下になるようにしてください。1,000 枚を超えると仕訳読込時にエラーとなります。

②他社システム自動仕訳の読込機能は、業務システムから切り出されたデータ 1 行に対して 1 仕訳を生成することを原則としていますが、データによっては 1 行から複数仕訳を生成したいケースも存在します。例えば、下図のようなケースでは、1 日につき「現金売上」「カード売上」「商品券売上」「他店商品券売上」の 4 種類の仕訳を生成することとなります。

A	B	C	D	E
年月日	現金売上	カード売上	商品券売上	他店商品券売上
26/10/1	120,059	189,778	0	13,000
26/10/2	135,860	160,379	45,000	25,000
26/10/3	230,015	178,335	0	0
26/10/30	136,480	120,333	23,200	0
26/10/31	189,116	145,250	11,000	58,220

このようなデータを読み込む場合は、「データ 1 行から生成する仕訳数」欄にデータ 1 行につき生成する仕訳の件数を入力してください。なお、当欄は「レイアウト 1（単純仕訳形式）」にのみ対応しています。当機能をご利用の場合は「レイアウト 1（単純仕訳形式）」を選択してください。

- ③さらに、読込処理実行時に、特定条件に合致する行については読み飛ばすということも可能です。「取引金額が 0 円の行は読み飛ばしたい」等の場合にご利用いただけます。後述の「無効行設定」で行えます。

4. 2. 5 「仕訳読込テンプレートの設計」画面

(1) 入力項目

項目名	入力桁数	内 容
①セットする値 (画面右側の ラジオボタ ン群)		「読込元の列の値」「固定値」「文字列の編集値」「計算した値」「条件に応じた値」「省略」の中から選択します。 「読込元の列の値」とした場合、指定した「読込元の項目名」の値がそのまま読み込まれます。 「固定値」とした場合、入力した「固定値」が読み込まれます。 「文字列の編集値」とした場合、複数の列の値を結合した文字列や、逆に文字列の 1 部分のみを抽出した値が読み込まれます。 「計算した値」とした場合、ファイル内の値や「固定値」を元に設定した計算式の結果が読み込まれます。 「条件に応じた値をセット」とした場合は、条件を定義し、条件ごとに読み込む値を設定します。 「省略」とした場合、選択中の項目の読込を省略します。

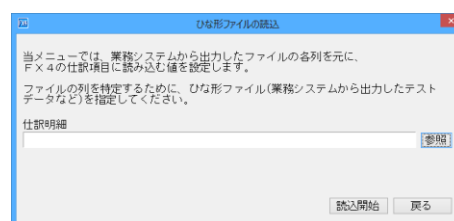
1) 読込元の項目名		当入力欄は、「読込元の列の値」の場合のみ設定できます。「ひな型ファイルまたはテスト用データ」における各列の中から、選択中の項目に該当する列を選択します。
2) 固定値	半角 40 文字	当入力欄は、「固定値」の場合のみ設定できます。選択中の項目に読み込む値を入力します。
3) 文字列の編集値		「文字列の編集値」の場合に読み込む文字列を設定します。詳細は下記「(2)③文字列編集値の設定」を参照ください。
4) 計算式		「計算した値」の場合に「計算式」を設定します。詳細は下記「(2)③④計算式の設定」を参照ください。
5) 条件		「条件に応じた値」の場合に「条件」を設定します。設定できる「条件」の数に制限はありません。詳細は下記「(2)⑤条件の設定」を参照ください。

(2) 操作方法

① ひな型ファイルの読込

当画面をはじめて表示した場合、「ひな型ファイルの読込」画面が表示されます。

当画面で仕訳として読み込むファイルと同様のレイアウトのファイル指定します。「仕訳読込テンプレート設計」画面では業務システムから出力したファイルの列を元に仕訳にセットする値が決定するため、ファイルの列数等を特定する目的からこのひな型ファイルを読み込む必要があります。



また、業務システムから出力されるファイルのレイアウトに変更があった場合など、ひな型ファイルの再読込は「ひな型再読込」ボタンで行います。

なお、レイアウトの読込と同時に仕訳ファイル1行目のデータの内容を、仕訳読込テンプレートの列のラベルとして採用します。1行目が見出し行ではなく、1行目からデータが格納されている場合、見出し行のみの仮のファイルを作成して読み込むとテンプレート設計の際に便利です。

② データ1行から複数件の仕訳を生成する場合の操作について

1) 上記「4. 2. 4 「受入レイアウト」画面」で「データ1行から生成する仕訳数」を2件以上と設定した場合、それぞれの仕訳種類ごとに仕訳読込テンプレートの設計をする必要があります。

A	B	C	D	E
年月日	現金売上	カード売上	商品券売上	他店商品券売上
26/10/1	120,059	189,778	0	13,000
26/10/2	135,860	160,379	45,000	25,000
26/10/3	230,015	178,335	0	0
26/10/31	189,116	145,250	11,000	58,220

- 2) 例えば、上図のようなケースで、1日につき「現金売上」「カード売上」「商品券売上」「他店商品券売上」の4種類の仕訳を生成するために「4件」と設定した場合、仕訳読込テンプレートの設計画面に4種類のタブが表示されます。各タブで、仕訳種類ごとに設計を行います。
- なお、このように設計した場合、仕訳データの読込は横方向→縦方向の順となります。

①まず最初に横方向へ読み込む

A	B	C	D	E
年月日	現金売上	カード売上	商品券売上	他店商品券売上
26/10/1	①120,059	②189,778	③0	④13,000
26/10/2	⑤135,860	⑥160,379	⑦45,000	⑧25,000
26/10/3	⑨230,015	⑩178,335	⑪0	⑫0
26/10/31	189,116	145,250	11,000	58,220

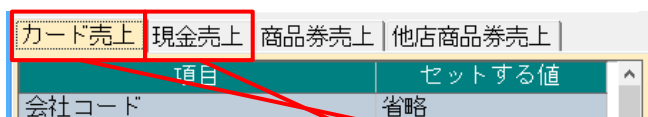
②次に縦方向へ読み込む

- 3) [タブ編集] ボタンをクリックすると、右の画面が表示されます。ここではタブの見出しと表示順を設定できます。

「仕訳の種類」の初期値は「仕訳種類1」「仕訳種類2」「仕訳種類3」・・・となっていますので、「現金売上」「カード売上」等、仕訳の種類を判別しやすい名称へ変更すると便利です。

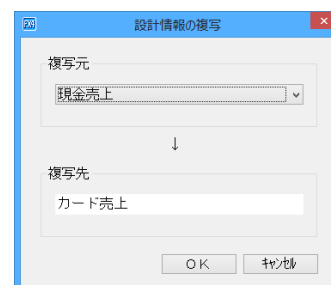
また、仕訳データはタブの左から右へ順に読み込まれますので、読込順を変更したい場合は、[F6 上へ移動] [F7 下へ移動] ボタンをクリックします。

※仮に下図のようにタブ順を設定している場合、C列の「カード売上」のほうがB列の「現金売上」よりも先に読み込まれてしまいます。



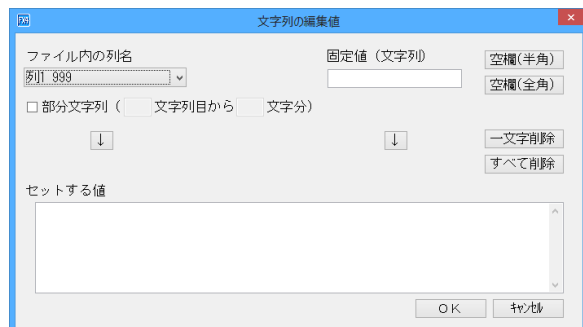
A	B	C	D	E
年月日	現金売上	カード売上	商品券売上	他店商品券売上
26/10/1	② 120,059	① 189,778	③ 0	④ 13,000
26/10/2	⑥ 135,860	⑤ 160,379	⑦ 45,000	⑧ 25,000
26/10/3	⑩ 230,015	⑨ 178,335	⑪ 0	⑫ 0
26/10/31	189,116	145,250	11,000	58,220

- 4) また、[タブ間複写] ボタンをクリックすると、他のタブで設計した内容を別のタブへ複写できます。例えば、「現金売上」で設計した内容を「カード売上」へ複写し、科目コード、取引金額等の一部項目のみを変更して完成させるという利用が可能です。



- 5) また、下記⑥の無効行設定も仕訳種類ごとに可能です。無効行設定の詳細は下記⑥をご参照ください。

③ 文字列編集値の設定



1) 文字列編集値の設定機能について

当機能を利用して次のような読込が可能です。

a. 複数文字列を1つに結合して読み込む

例えば、販売管理システムから「単価、数量、商品名」が別々の列に切り出されてくるような場合、これを結合して「元帳摘要」にセットするという読込が可能です。

b. 文字列の一部を取り出して読み込む

逆に「業務システムの列にセットされた取引コード20文字の先頭3文字が部門コードを表す」というように、列の値をそのままセットするのではなく、先頭の3文字分だけをセットすることが可能です。

2) 設定方法

- a. ファイル内の値を設定する場合は、「ファイル内の列名」を選択し、画面左部の[↓] ボタンをクリックします。もし、ファイル内の値のうち、一部分だけを取り出したい場合は「部分文字列」

欄にチェックを付けて、取り出す文字列の開始位置と何文字分を取り出すか指定してください。

例) 列1の値がABCDEFGHJKLMの場合

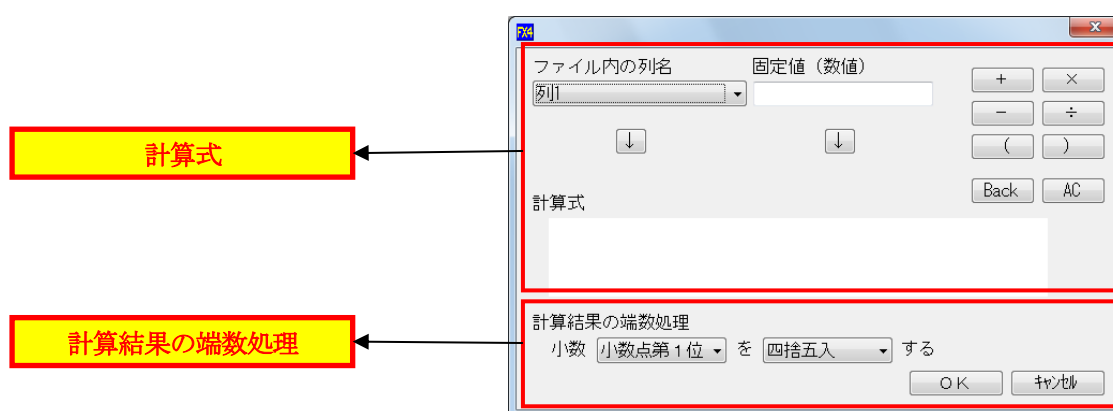
i) 「1文字目から4文字分」と指定した場合は「ABCD」が取り出されます。

ii) 「5文字目から2文字分」と指定した場合は「EF」が取り出されます。

なお、「部分文字列」とした場合、「セットする値」欄には、開始位置(A)と何文字分(B)かという情報が(A:B)の形式で表示されます。

- b. 固定値を設定する場合は、「固定値(文字列)」欄に値を入力し、画面右部の[↓]ボタンをクリックします。
- c. 複数回[↓]ボタンをクリックすると、現在設定済みの値の後ろに当該文字列が追加されます。
- d. [空欄(半角)]、[空欄(全角)]ボタンをクリックすると、現在設定済みの値の後ろに半角スペース、全角スペースが追加されます。

④計算式の設定



1) 計算式機能について

FX4クラウドに仕訳を読み込む際に、業務システム上の金額の演算結果を、「取引金額」または「内、消費税等」などにセットすることができます。

(例)

ファイル内の金額(税込金額)のうち、消費税等に該当する金額を「内、消費税等」にセット

$$\text{「内、消費税等」} = ([\text{税込金額}] \times 8) \div 108$$

2) 当機能の制限事項

- i) 計算式内で利用できる固定値(8、108など)には、小数点以下の桁数を1桁までしか登録できません。そのため、「0.08」や「1.08」を乗算する場合には、「8」や「108」を乗算した後に、「100」を除算する必要があります。

(例) 元の金額に1.08を乗算する場合

$$\text{「うち、消費税等」} = ([\text{税抜金額}] \times 8) \div 100 \rightarrow \bigcirc$$

$$\text{「うち、消費税等」} = [\text{税抜金額}] \times 0.08 \rightarrow \times$$

- ii) 1つの計算式内で、除算及び乗算の両方を用いる場合には、優先順位に基づいて()及び()をセットする必要があります。

(例) 元の金額に8を乗じた金額を108で除算する場合

$$\text{「うち、消費税等」} = ([\text{税込金額}] \times 8) \div 108 \rightarrow \bigcirc$$

$$\text{「うち、消費税等」} = [\text{税込金額}] \times 8 \div 108 \rightarrow \times$$

この場合、8を108で除した金額(0.074...)を[税込金額]に乗算することになり、端数処理等により誤差が生じます。

3) 設定方法

i) 計算式の設定

- a. ファイル内の値を計算式に設定する場合は、「ファイル内の列名」を選択し、画面左部の「↓」ボタンをクリックします。
- b. 固定値を計算式に設定する場合は、「固定値(数値)」欄に当該値を入力し、画面中央の「↓」ボタンをクリックします。
- c. 「ファイル内の値」、「固定値」の間には、「+」「-」「×」「÷」のいずれかを指定します。
- d. また、 または を指定する場合には、「ファイル内の値」または「固定値」の前後に指定します。また、 と の個数が一致するようにします。

ii) 計算結果の端数処理

- a. 端数処理を行う位を「小数第1位」～「小数第5位」の中から選択します。
- b. 端数処理の方法を「四捨五入」「切り捨て」「切り上げ」の中から選択します。

⑤条件の設定

● 条件に応じた値

第1条件 | 条件に該当しない場合 |

条件式

[条件式1]
「列8」が「値1以上」
値1: 20140401

[条件式2]
「列10」が「値1と等しい」
値1: 1

[条件式の関係] すべての条件式に合致 (AND)

読み込む値 : 800

タブ順変更 条件追加 条件削除 編集

1) 条件の設定について

- i) 「条件」と「読み込む値」を定義し、「条件式」を設定します。
- ii) どの条件にも該当しない場合に「読み込む値」として、「条件に該当しない場合」は必ず設定する必要があります。
- iii) 初期値としては、「第1条件」と「条件に該当しない場合」が設けられています。この場合、「第1条件」内の「条件」に該当する場合には「第1条件」内の「読み込む値」が読み込まれ、「第1条件」内の「条件」に該当しない場合には、「条件に該当しない場合」の「読み込む値」が読み込まれます。
- iv) 設定できる「条件」の数に制限はありません。
- v) また、1つの「条件」内には複数の「条件式」を設定することが可能です。「条件式」を組み合わせ、例えば「列1の値がAで、かつ列2の値がBなら値Cを読み込む」という設定もできます。なお、設定できる「条件式」の数に制限はありません。
- vi) このとき、「条件に該当しない場合」の設定も忘れずに行ってください。

2) [タブ順変更] ボタン

「条件」は番号の小さいもの（一番左のタブ）から優先して処理されます。設定済みのタブ順を変更したい場合は当ボタンをクリックします。

ファイルレイアウト設定

現在の順番
第1条件

↓

変更後の順番
第 1 条件

◆ 番号の小さい条件から順に処理されます。

OK キャンセル

3) [条件追加] ボタン

「条件」を追加します。

4) [条件削除] ボタン

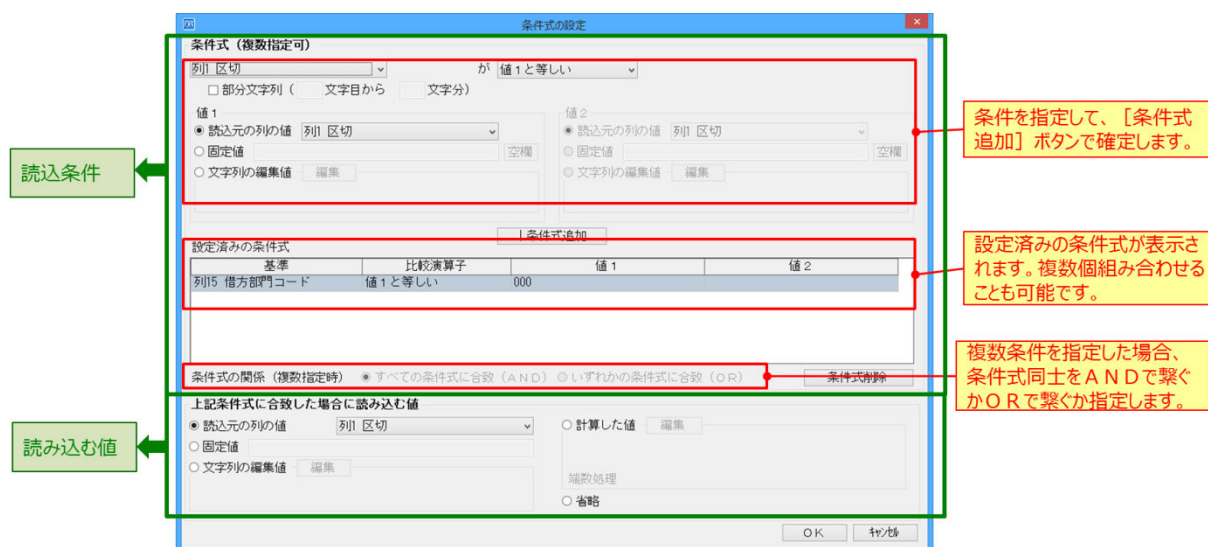
選択している「条件」（タブ）を削除します。なお、「第1条件」タブ及び「条件に該当しない場合」タブは削除できません。

5) [編集] ボタン

選択中の「条件」の編集を行います。

6) 「条件」の設定

「条件」の設定は、読込条件（「何が」「何と比べて」「どういう場合に」）と読み込む値（「何を」）を定義します。



i) 読込条件

a. 基準

「何が」に該当するものを定義します。「ひな型ファイルまたはテスト用データ」の列の中から、基準となる列を選択します。なお、列の値をそのまま用いず、文字列の一部を基準とすることも可能です。例えば、20桁のコードのうち、先頭3桁が「部門」を示すという場合、先頭3桁だけを取り出して条件式に利用できます。

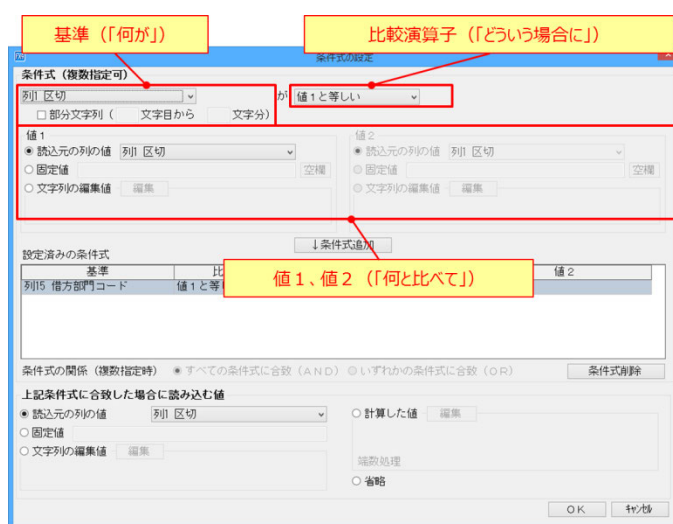
b. 比較演算子

「どういう場合に」に該当するものを定義します。上記 a. の「基準」から見た下記 c. の「値1、値2」に対する大小関係を指定します。次のいずれかから選択可能です。

- ・値1と等しい
- ・値1と等しくない
- ・値1以上（値1は数値であることが前提となります。）
- ・値1以下（値1は数値であることが前提となります。）
- ・値1より大きい（値1は数値であることが前提となります。）
- ・値1より小さい（値1は数値であることが前提となります。）
- ・値1以上かつ値2以下（値1、値2とも数値であることが前提となります。）

c. 値1、値2

「何と比べて」に該当するものを定義します。「読込元の列の値」、「固定値」、または「文字列の編集値」が選択できます。また、[空欄] ボタンにより、空欄であることを条件として指定できます。なお、「値2」は、上記 ii) の「比較演算子」で「値1以上かつ値2以下」を指定した場合のみ設定できます。



d. [↓条件式追加]

[↓条件式追加] ボタンをクリックすると、「設定済みの条件式」欄に条件式が転記されます。これにより設定した条件式が確定します。

e. 複数条件の指定

上記 a. ～d. を繰り返すことにより、1 条件の中に複数の条件式を設定することが可能です。

なお、複数の条件式を設定した場合、条件式同士の関係を設定する必要があります。

「すべての条件に合致 (AND)」、「いずれかの条件に合致 (OR)」のいずれかを選択します。例えば「列 4 が 0 と等しくない」、「列 10 が 000 と等しい」という 2 つの条件式を設定した場合、「すべての条件に合致 (AND)」を選択すると、「列 4 が 0 と等しく、かつ列 10 が 000 と等しい場合」となります。「いずれかの条件に合致 (OR)」を選択すると「列 4 が 0 と等しい、または列 10 が 000 と等しい場合」となります。

また、1 つの条件の中に AND と OR を混在させることはできません。3 つ以上の条件式を設定する場合、すべての条件を満たすか、いずれかの条件を満たすかという指定のみが可能です。

ii) 読み込む値

「何を」に該当するものを定義します。「ファイル内の列名」、「固定値」、「文字列の編集値」、「計算した値」、または「省略」が選択できます。読込条件に合致した場合に「読み込む値」を設定します。なお、「文字列の編集値」または「計算した値」を選択した場合の設定方法の詳細はそれぞれ上記③④を参照してください。

7) 「条件に該当しない場合」の設定

すべての「条件」に該当しない場合に、読み込む値を設定します。

⑥無効行の設定

[無効行設定] ボタンをクリックすると、右の画面が表示されます。他社財務会計システムから出力されるデータの中に小計行等の読込不要な行が存在する場合、当画面で条件を指定することにより、当該条件に合致した行を読み飛ばすことが可能となります。

なお、[空欄] ボタンをクリックすることにより、「空欄」を条件として指定することも可能です。「空欄」の指定を取り消す場合は、[解除] ボタンをクリックします。

なお、画面の操作方法については「条件」の設定画面と同様です。上記⑤の 6) をご参照ください。

また、上記「4. 2. 3 「受入レイアウト」画面」で「データ 1 行から生成する仕訳数」を 2 件以上と設定した場合、それぞれの仕訳種類ごとに無効行を設定できます。

もし、当設定の結果、読込対象の仕訳が 0 行となった場合、仕訳読込時の「ファイルの整合性チェック」の 1 番目でエラーになります。

⑦仕訳読込テスト

設定した仕訳読込テンプレートを利用して実際に読み込まれる仕訳を確認できる機能として仕訳読込テスト機能を搭載しています。「読込テスト」ボタンを押下して表示されるファイルの選択画面で、仕訳ファイルを選択することで、当該仕訳ファイルの読込可否等を確認できます。

⑧作成したテンプレートの共有

[テンプレートファイル切出]ボタンで作成したテンプレートファイルを切り出すことが可能です。また、[テンプレートファイル読込]ボタンで切り出したテンプレートファイルの読込が可能です。これにより、作成したテンプレートを共有することが可能です。複数社ご利用の場合で、同一の業務システムから仕訳読込を行う場合等に有効活用いただけます。

4. 2. 5 「コード変換表」画面

(1) 入力項目

①「勘定科目、補助科目」タブ

項目名	入力桁数	内 容
1) 業務システムコード		
a. 勘定科目コード	50 文字	他社システムで利用している勘定科目コードを入力します。
b. 補助科目コード	50 文字	他社システムで利用している補助科目コードを入力します。
2) 対応する F X 4 のコード		
a. 勘定科目コード	半角数字 4 桁	F X 4 クラウドに登録されている勘定科目コードを入力します。
b. 補助科目コード	3 桁、または 4 桁の数字	F X 4 クラウドに登録されている補助科目コードを入力します。

②「部門」タブ

項目名	入力桁数	内 容
1) 業務システムコード		
部門コード	50 文字	他社システムで利用している部門コードを入力します。
2) 対応する F X 4 のコード		
部門コード	3 桁、または 4 桁の数字	F X 4 クラウドに登録されている部門コードを入力します。

③「取引先」タブ

項目名	入力桁数	内 容
1) 業務システムコード		
取引先コード	50 文字	他社システムで利用している取引先コードを入力します。
2) 対応する F X 4 のコード		
取引先コード	6 桁の数字	1～999999 の数字で、F X 4 クラウドに登録されている取引先コードを入力します。

④「課税区分」タブ

項目名	入力桁数	内 容
1) 業務システムコード		
課税区分	50 文字	他社システムで利用している課税区分を入力します。
2) 対応する F X 4 のコード		
課税区分		F X 4 クラウドに登録されている課税区分を入力します。

(2) 操作方法

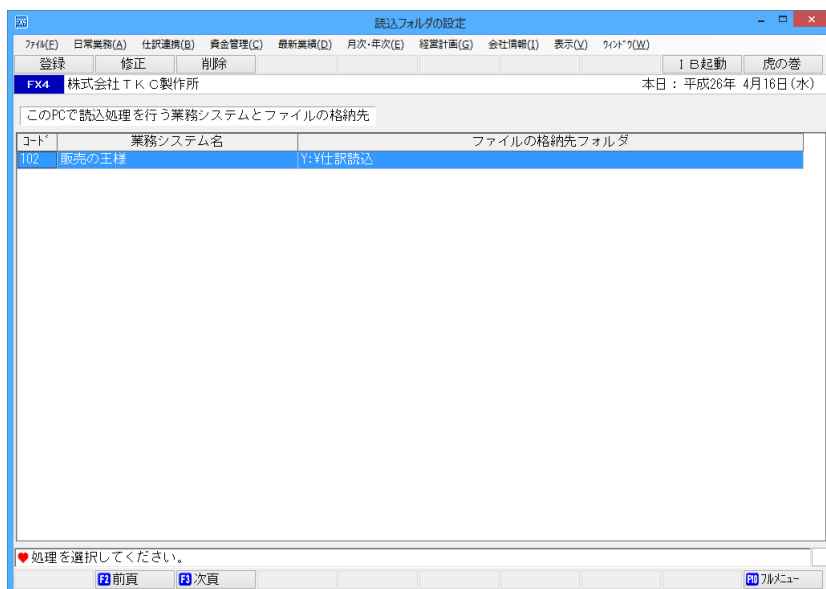
- ①コード変換表には「勘定科目コード、補助科目コード変換表」、「部門コード変換表」、「取引先コード変換表」及び「課税区分変換表」の4種類のコード変換表があります。それぞれのコード変換表が「コード変換表の登録」画面の各タブに割り当てられています。「勘定科目コード、補助科目コード変換表」は「勘定科目、補助科目」タブで、「部門コード変換表」は「部門」タブで、「取引先コード変換表」は「取引先」タブで、「課税区分変換表」は「課税区分」タブでそれぞれ登録・修正・削除等を行うことができます。
- ②新しくコードを登録する場合、[登録]ボタンをクリックします。
- ③修正・削除を行う場合は、修正・削除するコードを選択し、[修正][削除]ボタンをクリックします。
- ⑤[ファイル読込]ボタンで、選択中のタブのコード変換表を読み込むことができます。ファイル読込レイアウトについては「システム解説書」の巻末資料を参照ください。
- ⑥[ファイル切出]ボタンで、選択中のタブのコード変換表をCSVファイルに出力できます。
- ⑦[全削除]ボタンで、選択中のタブのコード変換表をすべて削除することができます。

4. 3 「33 読込フォルダの設定」

4. 3. 1 概要

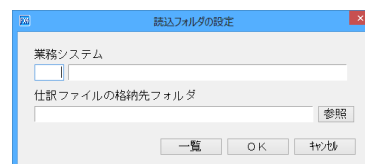
仕訳読込処理を行うPCごとに、読み込むファイルの格納先のフォルダの指定を行います。この設定を行うことによって、はじめて仕訳読込処理を利用できるようになります。

4. 3. 2 「読込フォルダの設定」画面



(1) 操作方法

- ① 「31 業務システムの登録」で登録した業務システムについて、各業務システムの仕訳ファイルの格納先のフォルダを設定します。
- ② 「登録」ボタンのクリックで読込フォルダの設定画面が開きます。当画面で業務システム及び仕訳ファイルが格納されたフォルダを指定します。
メニュー「2 他社システム自動仕訳の読込」で読み込む対象となるファイルは、ここで指定したフォルダ内のファイルのうち、メニュー「32 ファイルレイアウト設定」で指定した拡張子に合致するすべてのファイルとなります。例えば、「ファイル拡張子」を「csv」とした場合、当画面で指定したフォルダ内のファイルのうち、拡張子が「csv」であるすべてのファイルが読込対象となります。
- ③ 格納先フォルダの変更を行う場合は「修正」ボタンを、登録済みの情報を削除する場合は「削除」ボタンをそれぞれクリックします。



4. 4 「34 業務システム情報の印刷」

4. 4. 1 概要

仕訳読込テンプレートを利用して連携している業務システムについて、仕訳読込テンプレートの設計内容を印刷します。

4. 4. 2 「業務システム情報の印刷」画面

(1) 操作方法

①印刷内容の条件指定画面が表示されます。以下の項目について、印刷条件を設定します。

1) 出力対象

出力する業務システムを選択します。

- a. 「すべての業務システム」：すべての業務システムが印刷対象となります。
- b. 「個別業務システム指定」：指定された業務システムが印刷対象となります。

②印刷条件を設定後、[印刷開始] ボタンをクリックします。

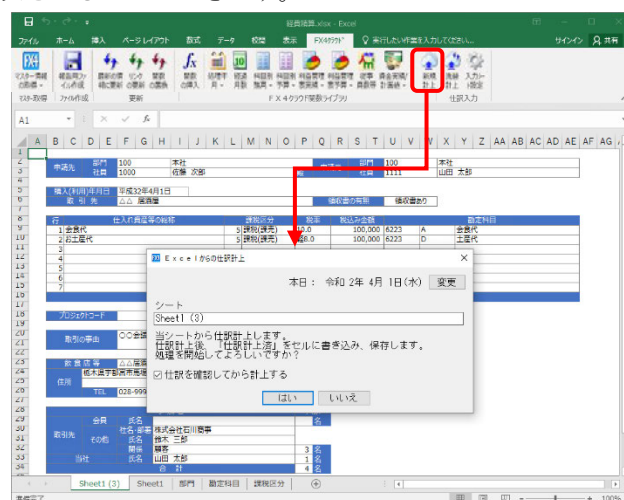
③ [プレビュー] ボタンをクリックすると印刷する内容が画面で確認できます。

7. Excel からの仕訳計上

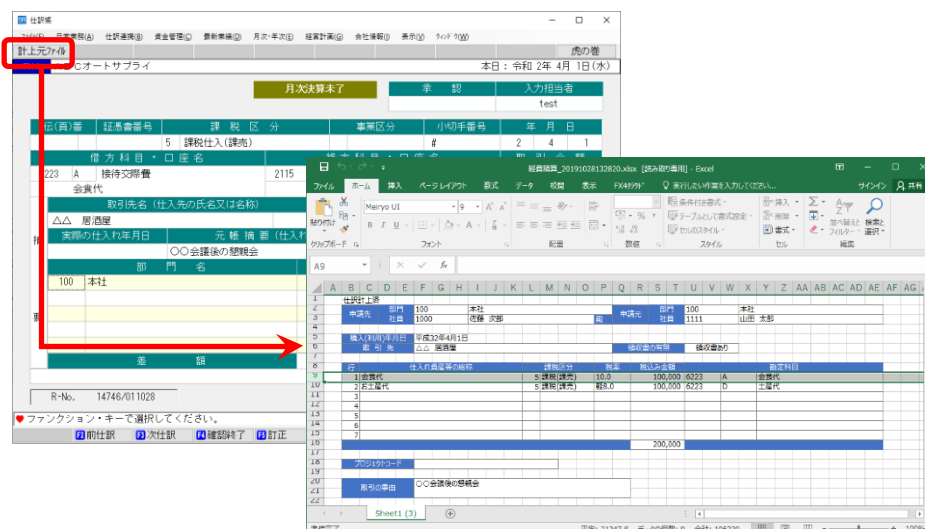
7. 1 機能概要

「Excel からの仕訳入力」機能は、日々の仕訳入力業務を支援する、Excel アドインです。

- (1) Excel から直接FX4クラウドに仕訳計上できます。これにより、Excel から仕訳ファイル(CSV)を作成し、FX4クラウドを起動して読み込むといった作業が不要になります。
- (2) 他社システムとの仕訳連携機能と同様、レイアウト変換機能(仕訳読込テンプレートの設計機能)を活用できます。条件分岐や計算式等を利用できます。
- (3) マネジメントレポート設計ツールとの併用が可能です。このため、Excel 上での仕訳計上後、最新の情報に更新するだけで、計上後の残高をその場で確認できます。
- (4) 利用できる Excel の書式等に制限はありません。自社独自の仕訳入力シートから、FX4クラウドにダイレクトに仕訳を反映させることができます。



- (5) また、Excel から計上した仕訳について、計上元となった仕訳ファイルが、サーバー上に自動保存されます。保存された仕訳ファイルは会計伝票画面から参照可能で、このとき、当該仕訳の計上元となった行が初期選択された状態でExcel が起動します。これにより、仕訳の確認時に、当該仕訳の計上元となったExcel ファイルまでトレースできます。



(6) Excel からの仕訳計上機能は、以下のような仕訳の計上業務に活用できます。

①経費計上仕訳

経費精算業務を Excel で運用している場合、メール等で受領した経費精算シート(Excel)の確認時にそのまま F X 4 クラウドに仕訳計上できます。

②現金入出金仕訳

現金出納帳形式で入出金額を Excel で管理している場合、金額等が確定し次第、入出金額をその場で F X 4 クラウドに反映できます。

③部門別按分仕訳

本社で一括計上した減価償却費等の各部門に対する按分結果を、F X 4 クラウドに仕訳計上できます。このとき、按分計算で必要となる、減価償却費等の額に加え、従事員数等についてもマネジメントレポート設計ツールで Excel に出力できます。

7. 2 事前準備

Excel からの仕訳計上機能の利用にあたり、事前に必要な事項等を記載します。

(1) 仕訳入力用の Excel ファイルの準備

仕訳入力で活用している Excel ファイルを準備します。

なお、仕訳入力可能な Excel ファイルの主な制限として、以下の事項にご注意ください。

① 1 シートで完結すること

シート単位で仕訳計上します。複数のシートにまたがる仕訳の計上はできません。なお、他のシートの参照結果をベースにした仕訳計上は可能です。

②「Excel の 1 行」が「仕訳の 1 行」に対応すること

Excel の行単位で、仕訳の行を作成します。Excel の複数行から 1 行の仕訳を作成することや、1 行の Excel から複数行の仕訳を作成することはできません。

③原則として「仕訳部の行」がシート内で連続していること

仕訳計上対象の行が、シート内でまとまっている必要があります。(仕訳計上対象の行が複数箇所に点在するようなシートには対応できません。)ただし、仕訳読込機能と同様、無効行設定により、計上対象の一部の行を読み飛ばすことは可能です。

④日付はシリアル値(「セルの書式設定」で「日付」を選択した際に正しく表示される値)でセットされていること

他社システムからの仕訳連携機能と異なり、Excel 上での日付の値で読み込みます。

⑤税率や金額は、Excel 上の値で読み込む前提であること

例えば、税率について、表示上は 10%の場合、Excel 上の値は 0.1 となっている可能性があります。10%の税率については、1000 という値を指定する必要があります。

⑥該当 PC 内のファイルまたはネットワーク共有されているファイルであること

例えば、Web ブラウザ経由で OneDrive 上の Excel ファイルを開いた場合は、仕訳計上できません。

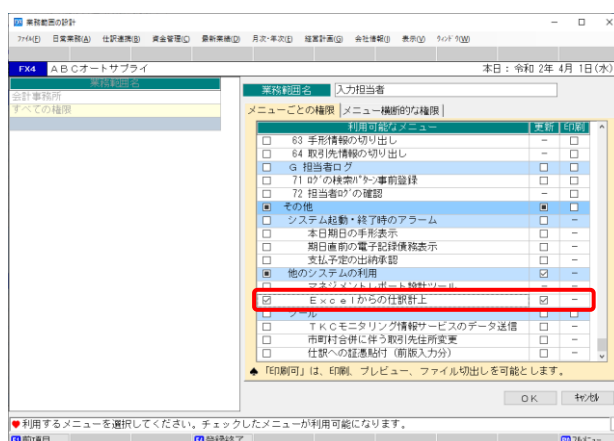
⑦書き込み可能であること

仕訳更新後、ファイルを上書き保存するため、読み取り専用のブックからの仕訳計上はできません。

(2) FX4クラウド上での権限設定

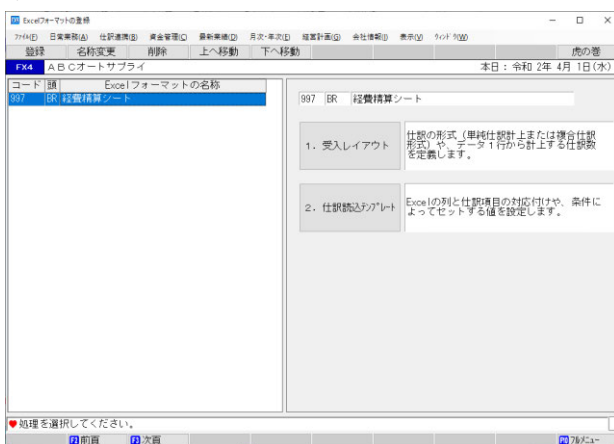
FX4クラウドのタブ「会社情報」のメニュー「11 業務範囲の設計」で、該当の業務範囲名について、以下のメニューを利用・更新できるようにします。

- ①Excel フォーマットの登録（メニュー41）
- ②Excelからの仕訳計上



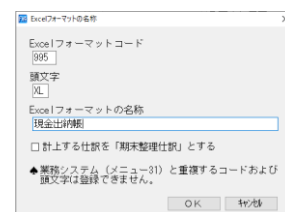
(3) FX4クラウドでのExcelフォーマットの登録

タブ「仕訳連携」のメニュー「41 Excel フォーマットの登録」で、Excel フォーマットを登録します。



- ①新規にExcelフォーマットを登録する際には、[登録]ボタン押下後に表示される「Excelフォーマットの名称」画面で、Excelフォーマットのコードおよび名称等を入力します。なお、Excelフォーマットの名称を変更する場合は、[名称変更]ボタンから変更します。

なお、Excelフォーマットのコードには、登録済のExcelフォーマットのコードだけでなく、業務システム（仕訳読込機能）で使用しているコードも入力できません。



- ②次に[1. 受入レイアウト]ボタン押下後に表示される「受入レイアウト」画面で、受入レイアウトを定義します。

- 1)「ファイル受入レイアウトの選択」欄で、「レイアウト1（単純仕訳形式）」または「レイアウト2（複合仕訳形式）」を選択します。なお、Excelからの仕訳計上機能は、他社システムからの仕訳連携機能と異なり、仕訳計上単位での仕訳の一括削除はできません。一括削除が必要な場合は、「レイアウト2（複合仕訳形式）」を選択し、計上された複合仕訳を削除する運用をご検討ください。



- 2)「レイアウト1（単純仕訳計上）」を選択した場合は、「データ1行から計上する仕訳数」を必要に応じて設定します。
- 3)「データの開始行」として、仕訳ファイル上の仕訳に該当する、スタート位置の行を設定します。

- ③次に[2. 仕訳読込テンプレート]ボタン押下後に表示される「仕訳読込テンプレート」画面で、仕訳読込テンプレートを設計します。

The screenshot shows the 'Design Template' (設計テンプレート) screen for 'FX4 ABCオートサプライ'. The screen is divided into two main sections: 'Item List' (項目リスト) on the left and 'Design Method Selection' (設計方法の選択) on the right. The 'Item List' contains a table with columns for 'Item' (項目) and 'Set Value' (セットする値). The 'Design Method Selection' section has radio buttons for 'List Value' (列の値), 'Cell Value' (セルの値), 'Fixed Value' (固定値), and 'Calculated Value' (計算した値). The 'Cell Value' option is selected. Below this, there are fields for 'Condition' (条件) and 'Value' (値). The 'Condition' field is empty, and the 'Value' field contains '921'. The 'Calculated Value' option is also visible. At the bottom, there are buttons for 'OK' and 'Cancel'.

- 1) 新規にExcel フォーマットを登録し、はじめて「2. 仕訳読込テンプレート」ボタンを押下した場合、「設計方法の選択」画面が表示されます。

新規に仕訳読込テンプレートを設計する場合は、「新規に設計」を選択した後、ひな形ファイル(仕訳計上する Excel ファイル)を選択した後、仕訳計上するシートを選択します。

業務システムからの仕訳読込機能で使用している仕訳読込テンプレートの設定を複写する場合は、事前に複写元の仕訳読込テンプレートファイルを切り出した後、「設計方法の選択」画面で「設計済の読込テンプレートからの複写」を選択し、複写元の仕訳読込テンプレートファイルを読み込みます。

The screenshot shows the 'Design Method Selection' (設計方法の選択) dialog box. It has two main options: 'New Design' (新規に設計) and 'Copy from Existing Template' (設計済の読込テンプレートからの複写). The 'New Design' option is selected. Below it, there is a text box for 'Design Method' (設計方法) and a 'Design Method Selection' (設計方法の選択) button. The 'Copy from Existing Template' option is also visible. At the bottom, there are buttons for 'OK' and 'Cancel'.

- 2) 「仕訳読込テンプレート」画面は、以下の点を除き、業務システムからの仕訳読込機能の仕訳読込テンプレートと同じです。

- Excel からの仕訳計上機能の「仕訳読込テンプレート」では、「セルの値」を選択できます。仕訳の行に関係なく、セルを参照するような仕訳計上を行う場合は、「セルの値」を選択します。なお、「条件に応じた値」や「計算した値」で計上する場合、「セルの値」は使用できません。
- Excel からの仕訳計上機能の「仕訳読込テンプレート」では、列の番号の表記が「A、B、C・・・」と表示されます。これはExcel を前提としているためです。なお、R1C1 形式での表記には対応していません。

(4) Excel へのアドイン登録

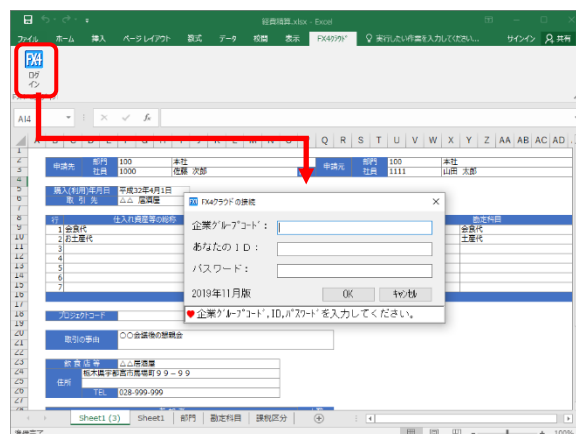
Excel からの仕訳計上機能のアドインをExcel に登録します。なお、[2018 年 10 月版]以降のバージョンで、マネジメントレポート設計ツールをインストールしたPCの場合は、当手順は不要です。

- ①Excel をすべて終了します。
- ②「ツール(T)」－「FX4 マネジメントレポート設計ツール等の設定(A)」を選択すると当画面が開きます。
- ③ [Excel への登録] ボタンをクリックします。

The screenshot shows the 'FX4 Management Report Design Tool Settings' (マネジメントレポート設計ツール等の設定) dialog box. It has a button labeled 'Excelへの登録' (Excelへの登録). Below it, there is a '終了' (終了) button. At the bottom, there is a note: 'Excelファイルを開いた状態で登録処理を実行すると、正しく設定されません。必ずすべてのExcelファイルを閉じてから実行してください。' (Excel files must be closed before registration).

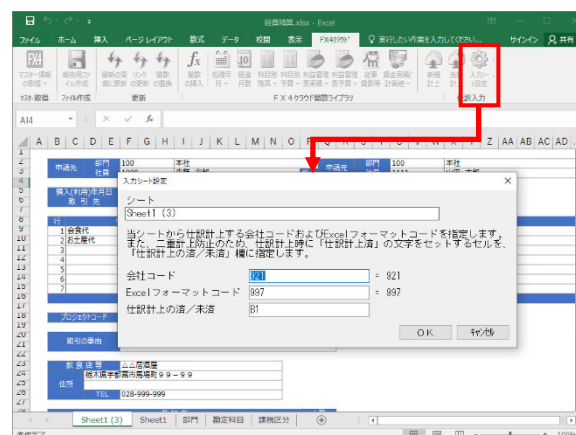
(5) 入力シート設定 (Excel 上での設定)

- ①FX4クラウドのExcelアドインにログインします。Excel上の「FX4クラウド」タブを選択し、ログインボタンからログインします。



- ②「入力シート設定」ボタンを押下し、「入力シート設定」画面で入力シート設定を行います。「入力シート設定」画面で「会社コード」、「Excel フォーマットコード」および「仕訳計上の済／未済」欄に、該当の値またはセルを選択します。

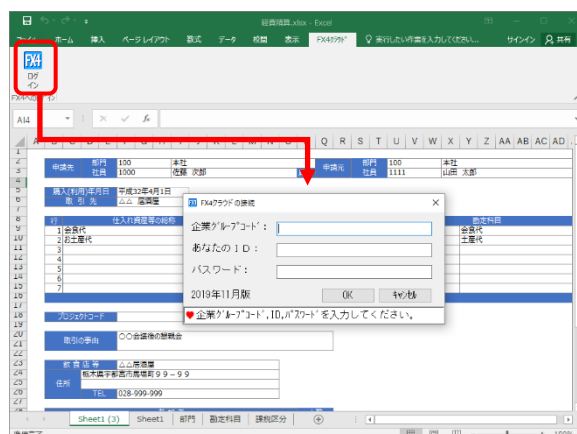
なお、「仕訳計上の済／未済」欄には、仕訳の二重計上防止のため、仕訳計上後に「仕訳計上済」の文字をセットするセルを指定します。当欄に指定したセルに値が存在する場合は、仕訳計上できません。



7. 3 仕訳計上

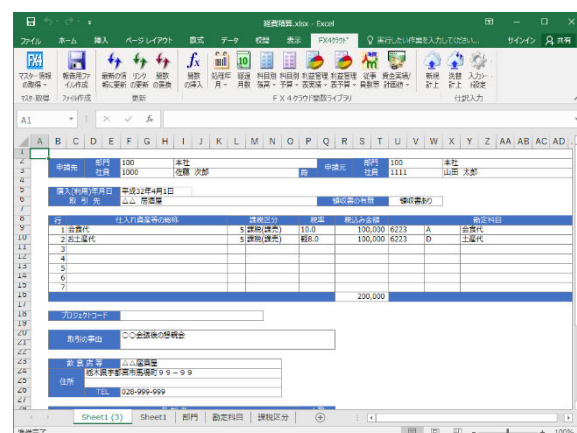
(1) ログイン

FX4クラウドのExcelアドインにログインします。Excel上の「FX4クラウド」タブを選択し、ログインボタンからログインします。



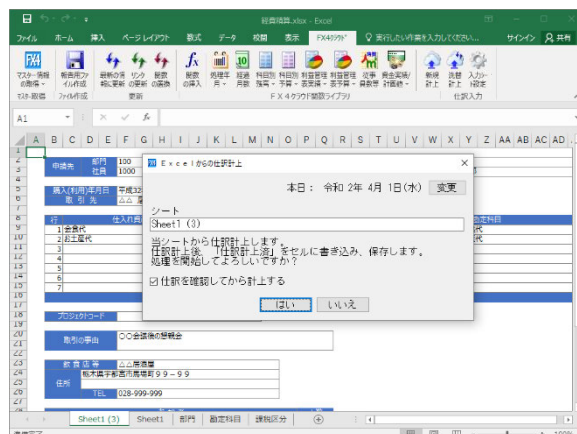
(2) Excelシートへの入力と入力完了処理

Excelシートに値を入力し、[新規計上]ボタンを押下します。

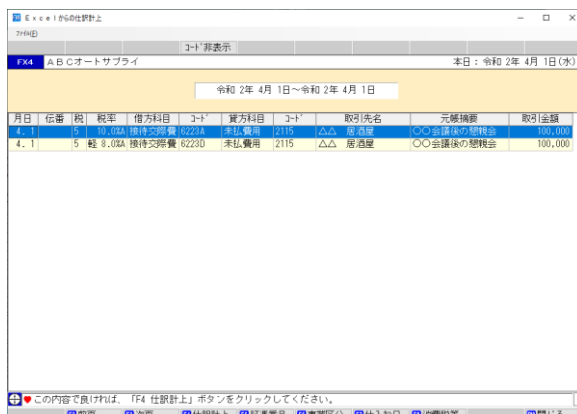


(3) 仕訳計上

①仕訳計上の有無に関するメッセージ画面が表示されますので、計上する場合は、[はい]ボタンを押下します。

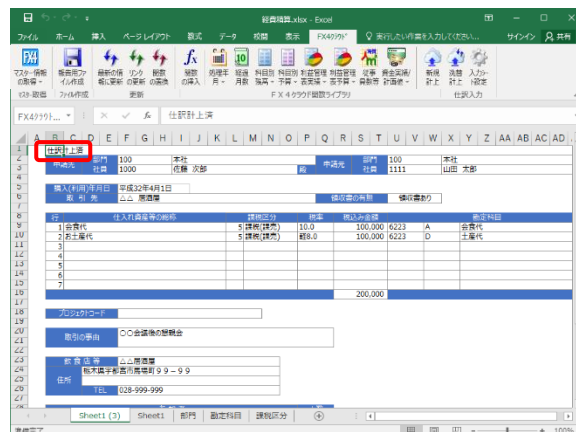


②「仕訳を確認してから計上する」欄にチェックを付けた状態で[はい]ボタンを押下すると、「計上予定の仕訳確認」画面が表示します。当画面で[F4 仕訳計上]ボタンを押下するとFX4クラウドに仕訳が計上されます。なお、「仕訳を確認してから計上する」欄にチェックが付いていない状態で[はい]ボタンを押下した場合、「計上予定の仕訳確認」画面は表示されず、そのままFX4クラウドに仕訳が計上されます。



(4) 仕訳計上完了

- ①仕訳計上処理が完了すると、あらかじめ「入力シート設定」画面の「仕訳計上の済／未済」欄に指定したセルに、「仕訳計上済」の文字が書き込まれます。当セルに何らかの値が存在する場合、当シートから仕訳計上はできません。



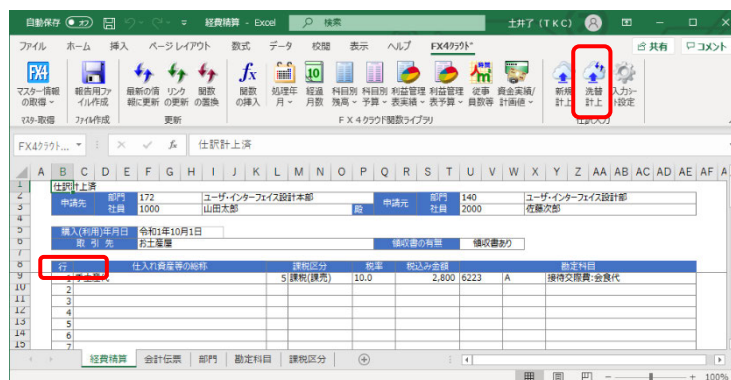
- ②仕訳計上処理が完了すると、計上元となった仕訳ファイルが、TKCインターネットサービスセンター（TISC）に自動的に保存されます。

7. 4 仕訳の洗い替え計上

(1) 条件

以下の条件をすべて満たす場合、「洗替計上」ボタンで計上済みの仕訳の一括削除及び再計上が可能です。

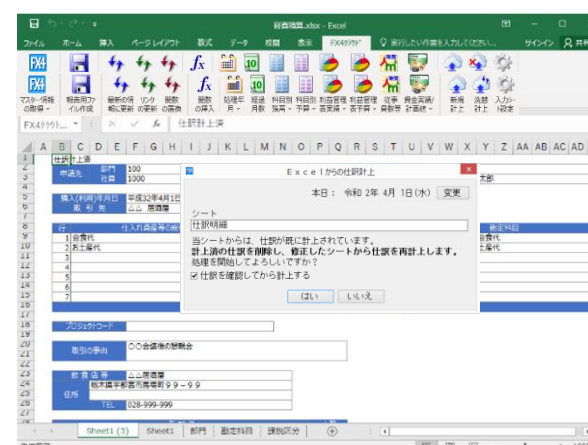
- ①条件1：[2020年07月版]以降で仕訳計上したExcelシートであること
- ②条件2：当該シートから計上された仕訳が存在すること
- ③条件3：「入力シート設定」で「仕訳計上の済／未済」に指定したセルに「仕訳計上済」と書き込まれていること



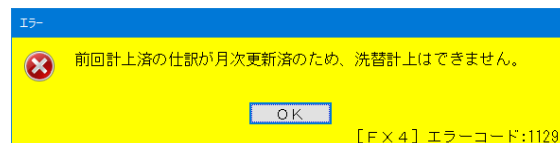
(2) 仕訳計上

- ①仕訳計上の有無に関するメッセージ画面が表示されますので、計上する場合は、[はい]ボタンを押下します。

「仕訳を確認してから計上する」欄にチェック付けた状態で[はい]ボタンを押下すると、新規計上時と同様、計上予定の仕訳を確認できます。

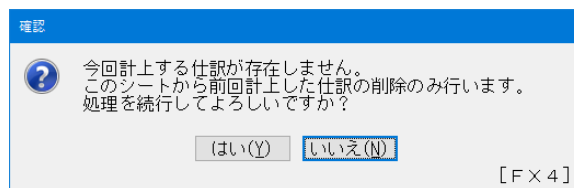


- ②前回計上済の仕訳について、月次更新済の仕訳が存在する場合や、削除できない仕訳が存在する場合、右のエラーメッセージを表示され処理が中断します。



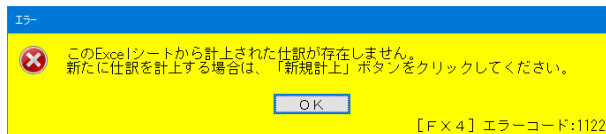
[F×4] エラーコード:1129

- ③今回計上対象の仕訳が存在しない場合は右のメッセージが表示され、[はい]ボタンを押下すると前回計上した仕訳が削除されます。

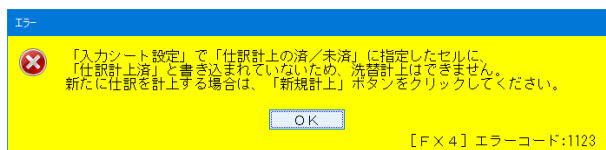


(3) 洗い替え条件のチェック

- ①上記(1)の①の条件に該当しない場合、右のメッセージが表示され、処理が中断します。



- ②上記(1)の②の条件に該当しない場合、右のメッセージが表示され、処理が中断します。



(4) 自動保存された Excel ファイルから洗い替え計上処理を行う場合のご注意

FX4クラウドから参照可能なExcelファイルは、自動保存の際にExcel関数(マネジメントレポート設計ツールの関数を含む)やマクロが除去されています。当該ファイルを利用してExcel関数の結果等から仕訳を計上する場合、関数の挿入等が必要になりますので、その旨、ご注意ください。

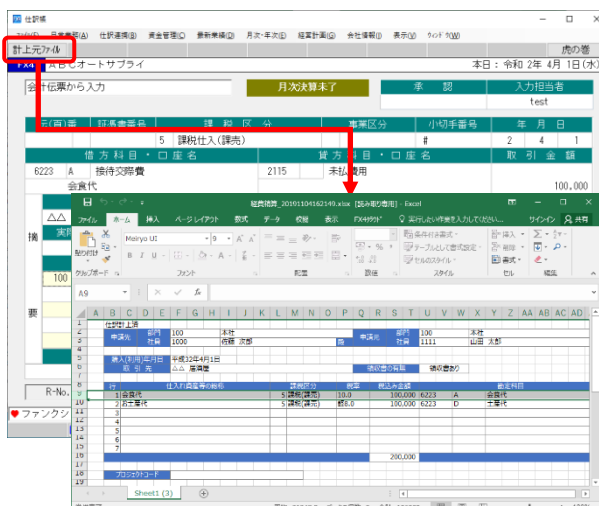
7. 5 計上仕訳の確認

- (1) Excel から計上された仕訳については、伝票画面で、「Ctrl+F1」キーが割り当てられた[計上元ファイル]ボタンが表示されます。

当ボタンをクリックすると、当該仕訳の計上元となった仕訳ファイル(Excel)が、計上元の行が初期選択された状態で表示されます。

このため、仕訳の確認の際、その計上元となった仕訳ファイルまでトレースできるようになります。

- (2) 計上元の仕訳ファイルに誤りがあった場合、そのファイルを Excel 上で修正し、その場で洗い替え計上できます。



7. 6 利用上のご注意

- (1) データ容量の増加

Excel ファイルをTKCインターネットデータセンター (TISC) に保存する関係上、1 仕訳あたりのデータ容量が増加します。増加するデータ容量は、計上元の Excel ファイルに依存します。

- (2) Excel ファイルは一部変更して保存

データ容量の削減等を目的として、Excel ファイルは以下のとおり保存します。

- ①計上元のシートのみが保存されます。(同じ Excel ファイル内の他のシートは保存されません。)
- ②Excel 関数(マネジメントレポート設計ツールの関数を含む)やマクロを除去し、値で保存します。
- ③グラフや画像等は削除して保存します。
- ④固定ウィンドウ枠やフィルタ等の設定も削除して保存します。
- ⑤「*.xls」や「*.xlsm」ファイルは、「*.xlsx」ファイルに変換し保存します。

- (3) 取引年月日等には表示形式が「日付」のセルを指定します。

取引年月日や実際の仕入れ日には、表示形式が「日付」のセルを指定します。表示形式が「日付」であれば、西暦・和暦や区切り記号等に関係なく計上できます。表示形式を「文字列」と定義し、「令和 1 年 9 月 30 日」等の値を入力したセルは、日付として扱われません。

- (4) 仕訳計上シート単位で実行

複数のシートから仕訳を計上する場合、シートごとの仕訳計上処理が必要です。

- (5) 書き込み可能なファイルに限定

仕訳計上後に内部的にファイルを上書き保存するため、読み取り専用のファイルからの仕訳計上はできません。

- (6) 該当PC内のファイルまたはネットワーク共有されているファイルに限定

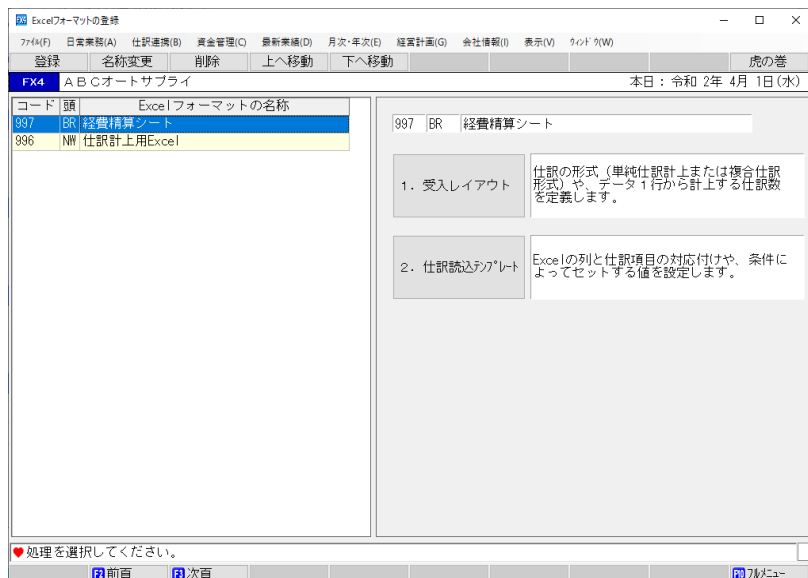
例えば、Web ブラウザ上で OneDrive 上の Excel ファイルを開いた場合は、仕訳計上できません。

5. 事前準備 (Excel からの仕訳計上)

5. 1 「41 Excel フォーマットの登録」

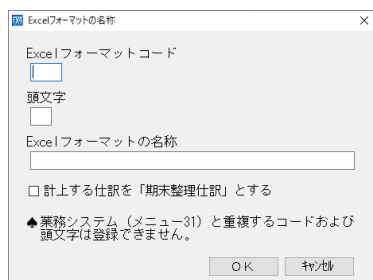
5. 1. 1 概要

Excel からの仕訳計上機能で活用する Excel フォーマットを F X 4 クラウドに登録します。Excel フォーマットごとに、ファイルのレイアウトや仕訳読込テンプレートを設計します。



- (1) 「登録」ボタンまたは「名称変更」ボタンで、「Excel フォーマットの登録」画面を起動できます。
- (2) 「削除」ボタンで、登録した Excel フォーマットを削除できます。
- (3) 「1. 受入レイアウト」ボタンで、「受入レイアウト」画面を起動できます。
- (4) 「2. 仕訳読込テンプレート」ボタンで、「仕訳読込テンプレート」画面を起動できます。

5. 1. 1 Excel フォーマットの登録画面



(1) 入力項目

Excel フォーマットごとに以下の設定を行います。

項目名	入力桁数	内 容
①コード	101～998	Excel フォーマットの「コード」を入力します。当システムに読み込むファイル内の項目「システム番号」には、当欄に入力した「コード」をセットします。なお、業務システム(仕訳読込機能)で使用しているコードや、他の Excel フォーマットで使用しているコードは登録できません。
②頭文字	2 桁の半角英数字のみ有効	Excel フォーマットの「頭文字」を入力します。 なお、業務システム(仕訳読込機能)で使用している頭文字、他の Excel フォーマットで使用している頭文字、および次の頭文字は使用できません。 (使用できない頭文字) ①A1、②CR、③DX、④EX、⑤FM、⑥HT、⑦IB、⑧MT、⑨PM、⑩PP、⑪PX、⑫RZ、⑬SO、⑭S1、⑮SX、⑯TK、⑰TP、⑱TX、⑲TY

③Excel フォーマットの名称	全角 20 文字	Excel フォーマットの名称を入力します。
④計上する仕訳は「期末整理仕訳」とする		当 Excel フォーマットから計上する仕訳を「期末整理仕訳」として計上する場合は当欄にチェックを付けます。

5. 1. 2 受入レイアウト画面

受入レイアウト

997 BR 経費精算シート

ファイル受入レイアウトの選択

☒ レイアウト 1 (単純仕訳形式) ☐ レイアウト 2 (複合仕訳形式)

◆ 1. それぞれのレイアウトの相違点は次の通りです。詳細はシステム解説書の巻末資料で確認できます。
 (1) レイアウト 1
 「伝票 (1 伝票型)」の入力項目を前提としたレイアウトです。課税区分、取引金額、部門等は行単位でセットします。
 (2) レイアウト 2
 「複合仕訳」の入力項目を前提としたレイアウトです。課税区分、取引金額、部門等は貸借それぞれにセットします。
 2. レイアウト 2 を選択した場合、取引ごとの区切りは「取引年月日」と「伝票番号」に関連付いた項目で自動判定します。

データ 1 行から計上する仕訳数 (レイアウト 1 選択時のみ有効)

件

◆ 日計表のようにデータ 1 行から複数の仕訳を計上する場合は、その件数を入力します。
 [仕訳読込テンプレート] 画面で仕訳の種類ごとにテンプレートを設計できるようになります。

データの開始行

行目 (これより上の行はタイトル行)

OK キャンセル

(1) 入力項目

Excel フォーマットごとに以下の設定を行います。

項目名	入力桁数	内 容
①ファイル受入レイアウトの選択		受け入れるファイルのレイアウトを「レイアウト 1 (単純仕訳形式)」とするか「レイアウト 2 (複合仕訳形式)」とするか選択します。この設定は、メニュー「32 ファイルレイアウト設定」の設定と同様です。
②データ 1 行から生成する仕訳数	1～99 の整数	Excel のデータ 1 行から生成される仕訳数を入力します。なお、当欄は「レイアウト 1 (単純仕訳形式)」を選択した場合のみ有効となります。当設定も、メニュー「32 ファイルレイアウト設定」の設定と同様です。
③データの開始行	1～999 の整数	当欄は「仕訳読込テンプレートの利用」欄を「利用する」と設定した場合に限り選択できます。計上対象の Excel ファイルの各行のうち、仕訳部に該当する行の先頭行を入力します。当欄に入力した行よりも上の行については、タイトル行として計上対象外となります。当設定も、メニュー「32 ファイルレイアウト設定」の設定と同様です。

なお、Excel からの仕訳計上機能は、業務システムからの仕訳読込機能と異なり、表示形式を「日付」と定義したセルから計上することを前提としているため、日付形式の設定は不要です。また、Excel からの計上を前提としているため、区切り文字や拡張子等の設定も不要です。

5. 1. 3 仕訳読込テンプレート画面

仕訳読込テンプレートの設計

FX4 ABCオートサブライ

937 BR 経費精算シート

本日：令和 2年 4月 1日(水)

修正 無効行設定 フォント変更 印刷開始 ひな形再読込 虎の巻

テンプレートファイル切出 テンプレートファイル読込

項目 セットする値

項目名 会社コード

○ 列の値 列A (座標を指定 例：A1、AA10など)

○ セルの値

● 固定値 921

○ 文字列の編集値 編集

○ 計算した値 編集

○ 条件に応じた値

第1条件 条件に該当しない場合

条件式

読み込む値 :

タブ順変更 条件追加 条件削除 編集

○ 省略 OK キャンセル

♥ 項目ごとにセットする値を設定してください。

前頁 次頁 確認終了

(1) 入力項目

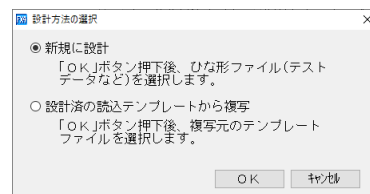
項目名	入力桁数	内 容
①セットする値 (画面右側の ラジオボタ ン群)		「列の値」「セルの値」「固定値」「文字列の編集値」「計算した値」「条件に応じた値」「省略」の中から選択します。 1) 「列の値」とした場合、該当行の指定した列の値をそのまま計上します。 2) 「セルの値」とした場合、行に関係なく、指定したセルの値をそのまま計上します。ヘッダー部の値を読み込む運用を想定した設定です。 2) 「固定値」とした場合、入力した「固定値」を計上します。 3) 「文字列の編集値」とした場合、複数の列の値を結合した文字列や、逆に文字列の1部分のみを抽出した値を計上します。 4) 「計算した値」とした場合、ファイル上の値や「固定値」を元に設定した計算式の結果が計上します。 5) 「条件に応じた値をセット」とした場合は、条件を定義し、条件ごとに計上する値を設定します。 6) 「省略」とした場合、選択中の項目の計上を省略します。
1) 列		当入力欄は、「列の値」の場合のみ設定できます。 「ひな型ファイルまたはテスト用データ」における各列の中から、選択中の項目に該当する列を選択します。
2) セル		当入力欄は、「セルの値」の場合のみ設定できます。 セルの座標(例：A1、AA10 など)を入力します。なお、R1C1 形式での座標指定はできません。
3) 固定値	半角 40 文字	当入力欄は、「固定値」の場合のみ設定できます。 選択中の項目に読み込む値を入力します。
4) 文字列の編集値		「文字列の編集値」の場合に読み込む文字列を設定します。詳細は、「4. 2. 5 仕訳読込テンプレートの設計」画面の「(2)③文字列編集値の設定」の説明を参照ください。
5) 計算式		「計算した値」の場合に「計算式」を設定します。詳細は、「4. 2. 5 仕訳読込テンプレートの設計」画面の「(2)3④計算式の設定」を参照ください。
6) 条件		「条件に応じた値」の場合に「条件」を設定します。設定できる

		「条件」の数に制限はありません。詳細は、「4. 2. 5 仕訳読込テンプレートの設計」画面の「(2)⑤条件の設定」を参照ください。
--	--	---

(2) 操作方法

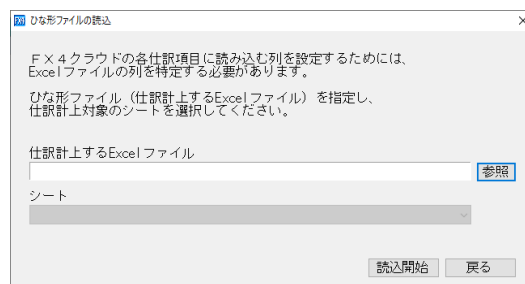
①設計方法の選択

当画面をはじめて表示した場合、「設計方法の選択」画面が表示されます。設計方法として、「新規に設計」または「設計済の読込テンプレートから複写」から選択します。



1) 新規に設計

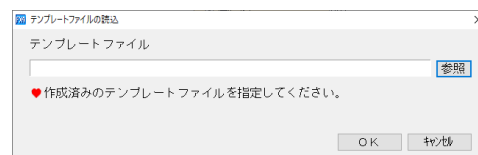
設計済の読込テンプレートの内容を複写せず、新規に読込テンプレートを定義する場合は「新規に設計」を選択します。「新規に設計」を選択し、「OK」ボタンを押下すると、「ひな形ファイル」の読込画面が表示されますので、仕訳計上する Excel ファイルおよび仕訳計上対象のシートを選択します。



2) 設計済の読込テンプレートから複写

他の Excel フォーマットや業務システム(仕訳読込機能)の仕訳読込テンプレートから複写する場合は、「設計済の読込テンプレートから複写」を選択します。この設計方法の場合、仕訳読込テンプレート画面の「テンプレートファイル切出」ボタンから、あらかじめテンプレートファイルを出力しておく必要があります。

「設計済の読込テンプレートから複写」を選択し、「OK」ボタンを押下すると、「テンプレートファイルの読込」画面が表示されますので、複写元のテンプレートファイルを指定します。



5. 2 Excel からの仕訳洗い替え計上機能

5. 2. 1 概要

Excel での操作により前回計上した仕訳を自動削除し、新たに仕訳を計上します。

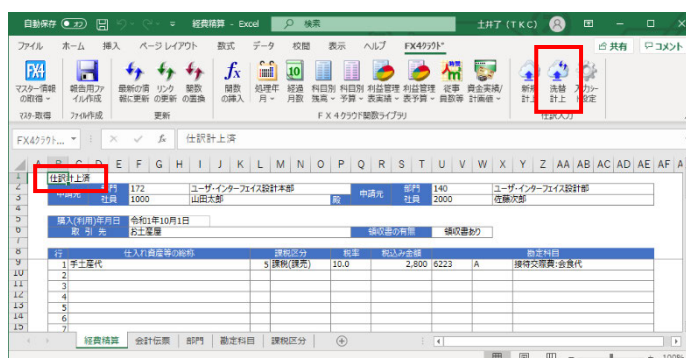
(1) 操作方法

① FX4クラウドの Excel アドインにある「洗替計上」ボタンから、当該 Excel シートから前回計上した仕訳を自動削除し、Excel シートの内容から新たに仕訳計上します。

② 仕訳の洗い替え計上は、以下の3つの条件をすべて満たす Excel シートの場合に利用可能です。

<条件>

- 1) [2020年07月版]以降で仕訳計上した Excel シートであること
- 2) 当該シートから前回計上された仕訳が存在すること
- 3) 「仕訳計上済」の文字をセットするよう定義したセルに文字が書き込まれていること



5. 証憑保存機能

5. 1 機能概要

- (1) 電子帳簿保存法の要件に基づき、電子取引データ、スキャン文書をTISC（TKCインターネットサービス センター）で保存します。
- (2) 保存時にTKCタイムスタンプを付与します。
- (3) 電子取引データ、スキャン文書に対し、検索のために必要となる記録項目（取引年月日、取引先名、取引金額等）を自動読み取りあるいは手入力します。有償オプションである「領収書等AI読み取りオプション」をご利用いただくと、自動読み取りの精度が向上します。
- (4) 保存した電子取引データ、スキャン文書の記録項目を利用することで、仕訳の計上を省力化できます。
- (5) 証憑保存機能を利用し、仕訳の計上及び証憑との紐づけについて、以下の3通りの方法が可能です。
 - ①仕訳への証憑貼付（都度貼付）
仕訳入力の都度、証憑保存(スキャン及び電子取引データ保存)を行い、当該仕訳に紐づけます。
 - ②仕訳への証憑貼付（一括貼付）
仕訳入力と証憑保存をそれぞれ行った後、入力済の各仕訳に各証憑を紐づけます。
 - ③証憑からの仕訳計上
事前に証憑保存を行い、保存された証憑から仕訳を入力します。
- (6) 上記(5)のいずれの方式でも、証憑保存時に「証憑番号」が自動付番されるとともに、当該番号が、仕訳データの「証憑番号」欄にセットされます。（証憑に証憑番号を手書き記載する必要がなくなります）
- (7) 仕訳帳、元帳等の各問合せ画面で、仕訳に貼り付いた証憑データを表示できます。
- (8) 証憑スキャン機能で動作保証しているスキャナの機種は以下の通りです。
 - ①ScanSnap SV600 ②ScanSnap iX500 ③ScanSnap iX100 ④ScanSnap S1300i ⑤ScanSnap S1100

5. 2 利用の流れ

A 事前準備

1. 事前準備

(1) 証憑保存領域の作成

この処理は、会計事務所専用IDでのみ実施できます。

フルメニューの「会計事務所専用」タブ、またはOMS（会計事務所用の税理士オフィスマネジメントシステム）内の「証憑保存設定」ボタンを選択することで、証憑を保存するための領域がTISCに作成され、利用を開始できます。

(2) 運用ルール決定

「仕訳への証憑貼付」や「証憑からの仕訳計上」など、証憑保存と仕訳計上ルールを決定します。

(3) 証憑保存機能での「書類の種類」の作成単位の決定

自社にとっての運用のしやすさも考慮し、「書類の種類」を作成する単位を決定します。

(4) FX4クラウドで各ユーザが参照できる書類の範囲、および証憑保存機能で付与するユーザ権限の検討

FX4クラウド本体で受信や参照できる書類の範囲は、証憑保存機能で設定した書類の参照権限に従います。このため、FX4クラウドの各ユーザにどの範囲までの「書類の種類」の参照を許可するか、そのために証憑保存機能でどのような権限を登録するか決定します。

(5) 証憑保存機能での事前準備

①「書類の分類」と「書類の種類」の登録

書類を束ねる大分類である「書類の分類」とその内訳となる「書類の種類」を登録します。

②「書類の種類」の閲覧権限（業務分類）の設定

証憑保存機能では「書類の種類」ごとに閲覧権限を設定できます。FX4クラウドでは閲覧権限のある「書類の種類」のみ参照可能となるため、忘れずに設定します。

③証憑番号の連番の範囲の登録

証憑保存機能で証憑番号を自動付番する際の連番の開始番号、終了番号を設定します。

④ユーザ登録

FX4クラウドから証憑保存機能を起動する際に、証憑保存機能のユーザIDとパスワードの登録が必要です。

FX4クラウド本体と証憑保存機能とで、ユーザIDとパスワードを一致させておくと、証憑保存機能の起動の際は自動認証されます。

2. 関与先での利用設定

(1) 当機能を利用する設定にします。併せて業務範囲の設定を行います。

(2) 証憑からの仕訳計上機能を利用する場合は、FX4クラウドとの連携設定を行います。

(3) 「仕訳への証憑貼付（都度貼付）」の利用設定を行います。

B 証憑保存機能

B-1. 証憑からの仕訳計上

3. 最新のデータの受信

(1) 「証憑からの仕訳計上」メニューを起動すると、自動的に最新のデータを受信します。

4. 仕訳入力済データの選別

(1) 受信したデータに対して科目や課税区分などの自動表示を行います。

過去に同じ種類の取引を受信し、仕訳計上した場合、前回補正した勘定科目や課税区分などを自動表示（初期表示）します。

(2) FX4クラウドに入力済の仕訳がある場合は、計上対象から除外します。

5. 仕訳の補正

伝票形式の画面で、勘定科目や課税区分などを補正します。勘定科目や課税区分などが自動表示（初期表示）されている場合でも、自動表示の妥当性をチェックします。

6. 仕訳の計上

補正完了後に、仕訳計上します。

B-2. 仕訳への証憑貼付（都度貼付）

7. 仕訳入力直後の証憑貼付

仕訳入力直後に証憑保存（スキャン又は電子取引保存）を行います。保存した証憑は自動的に仕訳に貼付されます。

		B－3. 仕訳への証憑貼付（一括貼付）			
8. 証憑の一括貼付 入力した仕訳の順番に沿って証憑を保存し、仕訳に貼付します。					
		B－4. 証憑からの仕訳計上（証憑からの選択）			
9. 証憑の選択 保存された証憑の一覧から仕訳に貼付するものを選択します。					
C 証憑問合せ機能					
10. 仕訳帳、元帳画面等からの証憑問合せ 仕訳に貼付された証憑を表示します。					

5. 2. 1 事前準備

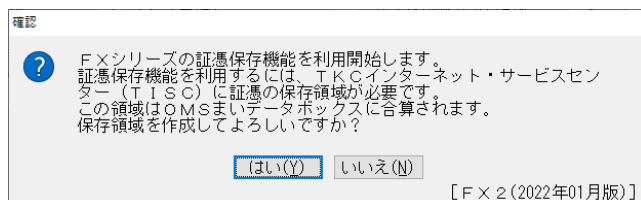
(1) 概要

証憑保存機能の利用を開始するまでに準備しておくべき事項をご説明します。

(2) 証憑保存領域の作成（会計事務所）

「会計事務所専用」タブのメニュー「証憑保存設定」を選択すると、OMS まいデータボックスの利用有無に応じて、確認メッセージが表示されます。

＜OMS まいデータボックスご利用の場合の確認メッセージ＞



当メッセージで[はい]ボタンを選択すると、証憑保存機能の領域が作成されます。

証憑保存機能の領域作成後、証憑保存機能へのログイン画面が表示され、ログイン後に表示される管理画面で引き続き設定を行います。これらの作業については、ProFIT に掲載されている利用開始手順書を参考にしてください。

(3) 運用ルール決定

「仕訳への証憑貼付」や「証憑からの仕訳計上」など、証憑保存と仕訳計上ルールを決定します。

証憑の種類に応じて、証憑保存、仕訳計上、仕訳と証憑の紐づけをどう行うかを検討します。なお、下記②-1)の都度貼付については、FX4クラウドを利用するユーザごとに利用有無を設定できます。

①証憑からの仕訳計上

予め証憑を保存し、TKCデータセンターにアップロードします。保存した証憑をFX4クラウドで受信して仕訳計上します。その仕訳には自動的に証憑データが貼り付きます。

なお、仕訳計上時に補正した内容は学習され、次回以降同様の取引を受信した際には前回の補正内容が初期表示されます。

②仕訳への証憑貼付

証憑保存前に仕訳を入力します。その後、次のいずれかの方法により証憑を保存し、仕訳に貼り付けます。

1) 都度貼付

a. 仕訳入力都度、証憑保存確認のメッセージが表示されます。メッセージに従い証憑を保存すると、自動的に仕訳に証憑が貼り付きます。

b. なお、当機能は、FX4クラウドのユーザごとに利用の有無を設定します。仕訳入力都度、証憑を保存せず、後に一括で保存して仕訳に貼付する場合は、当機能を利用せず、2)の一括貼付機能を利用することも可能です。

2) 一括貼付

複数仕訳入力後、専用のメニューを選択すると入力済の仕訳が一覧表示されます。仕訳の順番に沿って証憑を保存することにより、仕訳に証憑を貼り付けます。

3) 証憑データからの選択

証憑保存機能で保存した証憑の一覧から、入力済仕訳に貼付する証憑を選択します。当機能は主に次のようなケースで利用します。

a. 仕訳とは直結しない契約書等を金額の大きい取引に貼付する場合

b. 1証憑を複数の仕訳に貼付したい場合

(5) 証憑保存機能での「書類の種類」の作成単位の決定

証憑保存機能では保存した証憑ごとに「書類の種類」を指定します。「書類の種類」はファイリングの単位とお考え下さい。証憑の問合せ時に「書類の種類」を指定することにより、該当する証憑が一覧で表示されます。

また、証憑からの仕訳計上機能を利用する場合、データ受信の単位と補正内容を学習する単位は証憑保存機能の「書類の種類」となります。「書類の種類」をどの粒度で作成するか検討します。

①証憑保存機能では、「書類の種類」を束ねる概念として「書類の分類」を用意しています。経理担当者としては、業務で画像を検索する際、「書類」単位で検索する必要があるため、「書類の分類」を設けることで、経理担当者の画像検索時の書類選択の利便性を高めています。例えば以下のような登録を想定しています。なお、書類を以下のように分類する必要がなければ、「書類の分類」と「書類の種類」で同じ書類名を登録してください。

<登録例1>

書類の分類	書類の種類(証憑保存の際に選択)
売上	注文書
仕入	見積書
	納品書
	請求書(仕入)
経費	領収書(立替払い(社長用))
	レシート(立替払い(社長用))
	領収書(立替払い)
	レシート(立替払い)
	領収書(現金払い)
	レシート(現金払い)
	請求書(経費)

<登録例2>

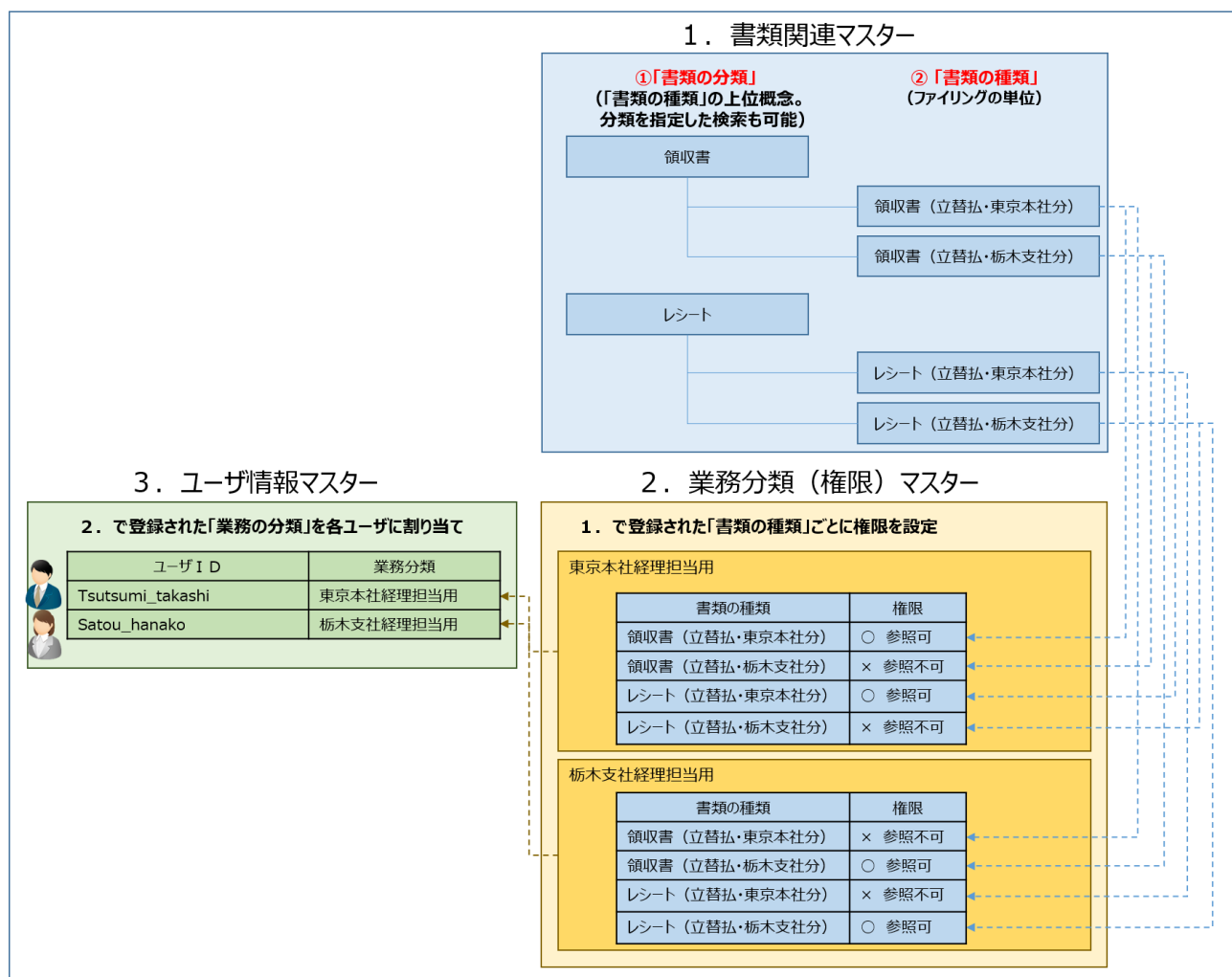
書類の分類	書類の種類(証憑保存の際に選択)
領収書	支払依頼書(立替払い・東京本社分)
	支払依頼書(立替払い・宇都宮支店分)
請求書	支払依頼書(請求書・東京本社分)
	支払依頼書(請求書・宇都宮支店分)

- ②証憑保存時に「書類の種類」を選択します。証憑からの仕訳計上機能を利用する場合、「書類の種類」単位で受信有無を設定でき、また補正内容の学習も「書類の種類」単位で行われます。「書類の種類」をどの単位で設定するかが当機能を利用する上でのポイントとなります。設定粒度の違いによるメリット・デメリットはそれぞれ次の通りです。自社にとって運用しやすい設定を検討します。

「書類の種類」の粒度	メリット	デメリット
細かく設定	仕訳計上対象とする書類とそうでない書類を細かく設定しておくことにより、「証憑からの仕訳計上機能」をご利用の場合、FX4クラウドでの受信時に、手作業で読み飛ばす処理が不要となる。	証憑保存の際に、書類の種類の選択が煩雑となる。
粗く設定	証憑保存の際に、書類の種類の選択が容易となる。	「証憑からの仕訳計上」をご利用の場合、FX4クラウドでの受信時に、仕訳計上要否を利用者自身で判断しないとならなくなる。

- (6) FX4クラウドで各ユーザが参照できる書類の範囲、および証憑保存機能で付与するユーザ権限の検討

- ①FX4クラウドから証憑の受信や仕訳に貼付された証憑の参照を行う場合は、その都度証憑保存機能へログインする必要があります(原則としてその日の最初のログイン時のみID、パスワードを入力します。その後はシステム終了時まで自動でログインします)。証憑保存機能へのログインは、証憑保存機能に登録されたユーザのID、パスワードを入力することで行います。
- ②証憑保存機能では、「書類の種類」ごとに各ユーザの参照可否を登録します。FX4クラウドで受信や参照できる書類の範囲は、証憑保存機能にログインしたユーザが参照権限を持つ「書類の種類」に限定されます。
- ③さらに、証憑保存機能では、同一の「書類の種類」であっても、自身がスキャンした証憑のみを参照可能とするような設定も可能です。この場合、例えば「領収書(立替払・東京本社分)」をFX4クラウドで受信しても、他のユーザが保存した証憑は表示されないこととなります。
- ④次に、証憑保存機能での権限設定方法について検討します。証憑保存機能では、ユーザごとに書類の参照可否を設定するのではなく、最初に「業務分類」という権限マスターを登録します。これを各ユーザに割り当てることにより参照できる「書類の種類」を設定できるようになっています(具体的には、各「業務分類」ごとに、「書類の種類」ごとの参照権限を設定します)。図示すると以下の通りです。



⑤以上を踏まえ、まずは、FX4クラウドの各ユーザにどの範囲までの「書類の種類」の参照を許可するか、そのために証憑保存機能にどのような「業務分類」を登録する必要があるか検討します。

1) FX4クラウドですべての「書類の種類」を参照可能とする場合

証憑保存機能ですべての「書類の種類」を参照できるように設定する必要があります。例えば「全書類参照可」という「業務分類」を登録し、すべての「書類の種類」を参照可能とする方法を検討します。

2) FX4クラウドで「書類の種類」を限定して参照させる場合

参照を許可する「書類の種類」のみを参照可能とするように証憑保存機能で設定する必要があります。例えば「栃木支社経理担当用」等の「業務分類」を設ける方法を検討します。

(7) 証憑保存機能での事前準備

①証憑保存機能 (システム設定・運用管理) の起動

1) メニュー「証憑保存」または以下の操作で、「証憑保存機能」を起動します。

a. OSがWindows 7 の場合

「スタート」－「すべてのプログラム」－「TKCシステム」－「証憑保存」

b. OSがWindows 8.1 の場合

「スタート」－画面左下の下矢印 (↓) アイコンをクリック－「アプリ」－「TKCシステム」－「証憑保存」

c. OSがWindows 10 の場合

「スタート」－「すべてのアプリ」－「TKCシステム」－「証憑保存」

2) 証憑保存機能のログイン画面が表示されます。ユーザIDとパスワードを入力し、「ログイン」をクリックします。

【証憑保存機能の初期ユーザIDとパスワード】

ユーザID : TDSUSER

パスワード : TDSKEY

※初期ユーザIDのパスワードは、速やかに変更してください。

②「書類の分類」と「書類の種類」の登録

上記(5)で検討した結果に基づき、証憑保存機能の「書類の分類」メニューと「書類の種類」メニューでそれぞれ「書類の分類」と「書類の種類」を登録します。

③「書類の種類」の閲覧権限（業務分類）の登録

上記(6)で検討した結果に基づき、業務分類を登録します。

- 1) 証憑保存機能の「業務分類」メニューを選択し、業務分類を登録します。各業務分類について、「書類の種類」ごとに権限、証憑の閲覧権限、差替え権限、削除権限などを設定します。各「書類の種類」で設定できる権限およびFX4クラウドでの留意事項は、以下のとおりです。

権限の種類	当該権限で可能な処理	FX4クラウドでの留意事項
証憑保存+閲覧	①証憑保存 ②自ら証憑保存した画像の閲覧	自ら保存した証憑のみ参照可能。 他のユーザが保存した証憑は参照不可。
証憑保存+閲覧+訂正	①証憑保存 ②自ら保存した証憑の閲覧・訂正	同上
証憑保存+閲覧+削除	①証憑保存 ②自ら保存した証憑の閲覧・削除	同上
証憑保存+閲覧+訂正+削除	①証憑保存 ②自ら保存した証憑の閲覧・訂正・削除	同上
証憑保存+閲覧（全証憑）	①証憑保存 ②すべてのユーザIDで保存した証憑の閲覧	他のユーザが保存した証憑も含め、該当書類の全証憑の参照可能
証憑保存+閲覧（全証憑）+訂正（全証憑）	①証憑保存 ②すべてのユーザIDで保存した証憑の閲覧・訂正	同上
証憑保存+閲覧（全証憑）+削除（全証憑）	①証憑保存 ②すべてのユーザIDで保存した証憑の閲覧・削除	同上
証憑保存+閲覧（全証憑）+訂正（全証憑）+削除（全証憑）	①証憑保存 ②すべてのユーザIDで保存した証憑の閲覧・訂正・削除	同上
閲覧のみ（全証憑）	①該当書類のすべての証憑の閲覧	①仕訳への証憑貼付機能を利用した証憑保存が不可 ②他のユーザが保存した証憑も含め、該当書類の全証憑の参照可能

④証憑番号の連番の範囲の登録

- 電子帳簿保存法では、証憑保存している国税関係書類とこれに関連する国税関係帳簿の記録事項との間で、相互に関連性を確認できるようにすることが規定されています（電子帳簿保存法施行規則第3条第5号第5項）。
- FX4クラウドでは、この要件を満たすため「証憑番号」を利用します。具体的には、証憑保存で証憑画像を保存した際に自動的に証憑番号を付番し、これをFX4クラウドの仕訳の証憑番号に自動的にセットします。
- 証憑保存機能では証憑を保存する都度、証憑番号を連番で付番します。付番する証憑番号は、書類の種類やユーザIDに関係なくカウントアップします。
- 通常は1から9999までカウントアップし、9999まで到達した場合は再度1に戻って自動付番されますが、証憑保存機能では、自動付番する際の証憑番号の開始番号、終了番号を予め指定できます。一定範囲の番号を特定の書類に割り当てており、それを除いた範囲で自動付番したい場合にご利用ください。
- 連番の範囲の登録は、証憑保存機能の「記録項目」メニューで行います。

⑤ユーザID登録

FX4クラウドから証憑保存機能にアクセスする際に、証憑保存機能のユーザIDとパスワードの登録が必要となります。この

ため、「ユーザ」メニューでユーザIDとパスワードを登録します。

- 「ユーザ」メニューで、FX4クラウドから証憑保存機能にアクセスする際に使用するユーザIDと仮パスワードを登録します。この際に、先ほど登録した「業務分類」を割り当てます。

⑥登録したユーザの初期パスワード変更

新規に登録したユーザIDで証憑保存機能に一度ログインし、本パスワードに変更します。

■ワンポイント■ 証憑保存機能に登録するユーザIDとパスワードについて

- (1) FX4クラウドを起動後、証憑保存機能に初めてアクセスする際（※1）に、証憑保存機能に登録されたユーザIDとパスワードを入力する必要があります。入力すると、FX4クラウドを終了するまでの間は再入力不要です。
- (2) なお、FX4クラウドにログイン中のユーザIDとパスワードを証憑保存機能にも登録しておくと、FX4クラウドを起動する都度入力する必要がなくなるため便利です（※2）。

（※1）具体的には次のいずれかのタイミングです。

- ①「証憑からの仕訳計上」メニュー選択時
- ②「仕訳への証憑貼付」メニュー選択時
- ③伝票（1伝票型）、複合仕訳入力画面、仕訳帳、元帳等の問合せ画面等での[F9 証憑表示]ボタン押下時
- ④「入力制御情報」で「仕訳入力時の証憑保存」を「実施する」としているユーザの場合、伝票（1伝票型）等のメニュー選択時
- ⑤月次更新時に、仕訳と証憑の証憑番号が一致しているかチェックする際に表示される確認メッセージでの「はい」ボタンクリック時

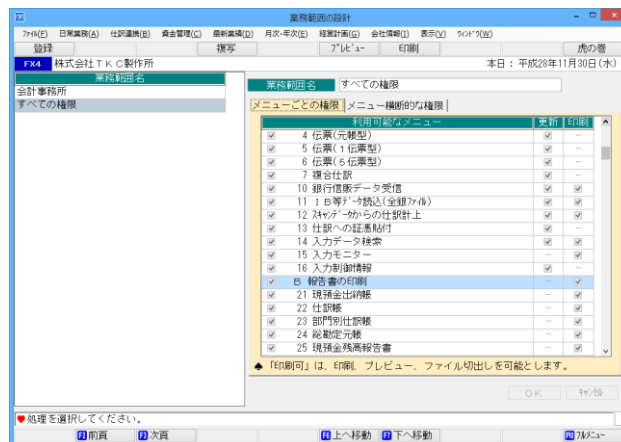
（※2）証憑保存機能では、ユーザIDが最大40文字（全半角混在可）、パスワードが最大20桁まで登録可能ですが、FX4クラウドで登録可能な文字数は異なります（ID：最大半角20文字（全角10文字）、パスワード：最大20桁）。自動ログイン機能の利用を検討の場合は証憑保存機能に登録するID、パスワードの文字数にご注意ください。

5. 2. 2 関与先での利用設定

(1) 業務範囲の設計

FX4クラウドを長年ご利用の場合、「すべての権限」以外の業務範囲について「証憑保存」、「証憑からの仕訳計上」、「仕訳への証憑貼付」メニューの利用権限が設定されていない場合があります。そのような場合は権限を設定します。

- ①「会社情報」タブのメニュー「11 業務範囲の設計」を選択します。
- ②機能の利用を可能とする「業務範囲」を選択し、画面上部の「修正」ボタンをクリックします。
- ③「メニューごとの権限」タブの「A 取引の入力」内にある「証憑保存」「証憑からの仕訳計上」、「仕訳への証憑貼付」のチェックが外れている場合はチェックを付けます。
- ④また、各問合せ画面で、仕訳に貼付された証憑を剥がせるようにする場合は、「メニュー横断的な権限」タブで「問合せ画面での[貼付解除]を可能とする」にチェックを付けます。



(2) 証憑からの仕訳計上機能を利用する場合の事前準備

証憑からの仕訳計上機能を利用する場合、証憑保存機能に登録した「書類の種類」のうち、仕訳計上対象とする(受信対象とする)「書類の種類」を最初を選択します。

- ①「会社情報」タブの「証憑からの仕訳計上準備」メニューを選択します。



- ③「受信対象書類の選択」画面が表示されます。当画面には証憑保存機能に登録した「書類の種類」が一覧表示されます。表示された「書類の種類」のうち、FX4クラウドでデータを受信するものを青反転し、[修正]ボタンをクリックします。次の設定を行った後、[OK]ボタンをクリックします。

1) 仕訳計上

「計上対象とする」と設定します。

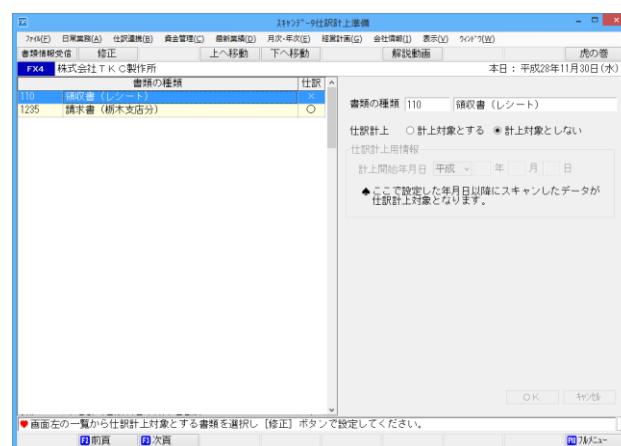
2) 計上開始年月日

FX4クラウドでデータの受信を開始する年月日を入力します。設定した年月日以降にスキャンされたデータの受信が可能となります。「当月」(直近の月次決算完了月の翌月)以降の日付のみ入力可能です。また、

当項目は一度設定すると変更不可となりますのでご注意ください。

(4) 「仕訳への証憑貼付(都度貼付)」の利用設定

FX4クラウドに登録したユーザごとに以下の設定を行います。



- ①「日常業務」タブの「入力制御情報」メニューを選択します。



- ②入力制御情報画面が表示されます。「仕訳への証憑貼付（都度貼付）」機能を利用する場合は「仕訳入力時の証憑保存」のチェックを付けます。



<証憑からの仕訳計上>

5. 2. 3 最新データの受信

(1) 証憑保存機能から最新のデータを受信します。

- ① 「証憑からの仕訳計上」メニューを選択すると、書類の選択画面が起動します。この際に、自動的に最新のデータを証憑保存機能から受信します。受信状況は「最新のデータ受信状況」欄に表示されます。受信中の書類については「受信中」と表示されます。受信に成功した場合「成功」、失敗した場合は「エラー」と表示されます。

書類の種類	最新のデータ受信状況	受信済データ (仕訳未計上)
1235 請求書 (栃木支店分)	成功 3.13 20:36	2件 データ確認
1122 領収書 (栃木支店分)	成功 3.13 20:36	1件 データ確認

■ワンポイント■ 受信・表示対象となるデータ

1. 受信対象とするデータ

以下の期間内に保存した証憑データが受信対象となります。

- (1) 自年月日：前回受信したデータの最大の「登録年月日」（保存した日付）。
ただし「当月」（最新の月次決算完了月の翌月）の開始年月日の方が古い場合は「当月」の開始年月日。
- (2) 至年月日：上限はなく、存在するすべてのデータを受信

2. 画面への表示対象

受信したデータのうち、以下の両方を満たすものが表示対象となります。ただし、既に受信済または仕訳に貼付済のものについては除きます。

- (1) 証憑の取引年月日が「本日の日付」以前のもの、または今回受信したデータのうち、証憑の取引年月日が未入力のもの（「本日の日付」よりも未来のデータを受信した場合、その取引年月日に「本日の日付」が到達したタイミングで表示されるようになります）。
- (2) 証憑保存機能へのログインユーザが参照権限を持つ証憑のデータ（証憑保存機能の「業務分類」メニューで自身の保存した証憑のみ参照可能と設定されている場合は、自身の保存した証憑のデータのみが表示）

■ワンポイント■ 「仕訳への証憑貼付（一括貼付）」で仕訳に貼付済みの証憑の取り扱い

当メニューを選択する前に、仕訳への証憑貼付（一括貼付）機能を利用して、入力済の仕訳に証憑を貼付することが可能です。この場合、当メニューでも仕訳を計上してしまうと二重計上となってしまうため、該当する証憑がある場合は受信対象から除外します。

また、当メニューで受信し、仕訳を未計上の状態で「仕訳への証憑貼付（一括貼付）」機能を利用した場合も、当メニューでは表示されなくなります。

■ワンポイント■ 当メニュー選択前に必ず証憑保存機能で「取引内容」を完成させておいてください

1. 証憑保存機能では証憑画像と併せて、証憑を検索するための各種項目（「年月日」「取引金額」「取引先名」等）を「取引内容」として保存しています。そして、「証憑からの仕訳計上」メニューでは、証憑保存機能に登録された「取引内容」を受信して、「仕訳ルール」に該当するか否かの判定や「実際の仕入れ日」、「取引金額」への初期表示を行っています。
2. 通常、証憑保存機能での証憑保存時に、各項目はOCR読取され初期表示されます。誤りがある場合はその場で補正しますが、未完成のまま保存することも可能です。
3. しかしながら、FX4クラウドでは「証憑からの仕訳計上」メニューを選択した際に、証憑データが未完成でも、その時点の「取引内容」を受信してしまいます。また、その後証憑保存機能で「取引内容」を修正しても、二重計上防止のため一度受信したデータは再受信しません。
4. このため、証憑保存機能で証憑を保存した際に、必ず「取引内容」を完成させるようにしてください。

■ワンポイント■ 一部の証憑を受信できない場合に考えられる原因

証憑保存機能に保存されているにもかかわらず、受信されない証憑がある場合、原因としては次のいずれかが考えられます。

1. 証憑の「取引年月日」が「本日の日付」よりも未来の日付である場合
この場合、FX4クラウドの「本日の日付」が「取引年月日」に到達したタイミングで表示されるようになります。
2. 証憑保存機能で自身が保存した画像のみを参照できる権限を付している場合
証憑保存機能の「業務分類」メニューで「書類の種類」の参照権限は付しているものの、自身が保存した画像のみを参照可能と設定している場合、他のユーザが保存した証憑は受信対象外となります。すべての画像の参照を可能にして問題ない場合は、「業務分類」メニューで再設定してください。
3. 対象の証憑が他の画面で既に仕訳に貼付済の場合
仕訳への証憑貼付機能により、対象の証憑が既に仕訳に貼付済の場合は、仕訳の二重計上を防止するために当画面には表示されないようにしています。仕訳帳等のメニューで該当する仕訳がないかご確認ください。

- ②受信したデータが1件以上ある場合、[データ確認]ボタンが有効となります。ボタンをクリックし、データの補正へ進みます。
- ③受信対象書類を増やしたい場合は、FX4クラウドで当該書類の受信設定を行う必要があります。この場合、「会社情報」タブの「証憑からの仕訳計上準備」メニューを受信対象書類の設定画面を起動します。上記5. 2. 2の手順で設定を行います。

5. 2. 4 仕訳入力済データの選別

書類の選択画面から[データ確認]ボタンをクリックすると、受信済データの一覧画面が起動します。当画面では受信したデータのうち、既にFX4クラウドへ入力済のものが選別します。

(1) 受信済データの一覧画面

- ①データを受信した直後に、勘定科目や課税区分などの自動表示を行います。補正した勘定科目や課税区分などの情報は「仕訳ルール」として登録されます。過去に同じ種類の取引を読み込んでいる場合、前回登録した「仕訳ルール」の内容が自動表示（初期表示）されます。

また、「仕訳ルール」に基づき初期表示された仕訳の内容のうち、「課税区分」、「事業区分」、「税率」、「勘定科目コード」、「補助コード」、「取引先コード」、「取引先名」のいずれかを修正すると、既存のルールとは別の「仕訳ルール」として登録されます。このように1つの取引に複数の「仕訳ルール」が登録されている場合は勘定科目や課税区分などは自動表示されません。

なお、「仕訳ルール」の詳細につきましては、273 頁の 5. 2. 5. (4) 及び 285 頁の 5. 3. 2 (3) をご参照ください。

- ②仕訳の重複を防ぐため、受信したデータのうち、すでにFX4クラウドに入力されているものを選別します。
 - 1) [証憑表示]ボタンをクリックすると受信したデータの元となる画像が表示されます。この画像も参考に、すでにFX4クラウドに入力されているデータがある場合は、当該データを選択して[F9 計上対象外]ボタンをクリックします。これにより「仕訳計上」欄が「対象外」となり、当該データは仕訳計上されません。
 - 2) 本来はFX4クラウドに未入力のデータの補正状況が「対象外」となっている場合は、当該データを選択して[F9 計上対象]ボタンをクリックします。これにより、当該データは仕訳計上対象となります。
- ③一覧の表示内容は、次の通りです。

	項目 (列)	表示内容
1	仕訳計上	①要確認

仕訳 元	月日	取引先名	仕訳の金額	月日	証憑	税率	計上する仕訳 前月日	貸方科目	取引先名
要確認	5.17	マルエックス新田	537		68				
要確認	5.27	マルエックス新田	410		63				
要確認	12.31	東京食品	595		64				
要確認	12.31	その他取引先	1,100,000		67				

		補正が完了していないか確認が必要なデータです。行を選択して補正を行うことにより仕訳計上できるようになります。 ②可 補正済のデータです。 ③対象外 既にFX4クラウドに手入力されているため、仕訳として読み込まないように選別したデータです。
2	月日（証憑）	受信したデータの「年月日」です。仕訳の「実際の仕入れ年月日」となります。
3	取引先名	受信したデータの「取引先名」が表示されます。
4	税率	受信したデータの「税率」が表示されます。
5	取引金額	受信したデータの「取引金額」が表示されます。
6	月日（仕訳）	受信したデータの補正結果のうち、年月日を表示します。
7	証番	受信したデータの補正結果のうち、証憑書番号を表示します。
8	税	受信したデータの補正結果のうち、課税区分を表示します。
9	税率	受信したデータの補正結果のうち、税率を表示します。
10	借方科目	受信したデータの補正結果のうち、借方科目を表示します。
11	貸方科目	受信したデータの補正結果のうち、貸方科目を表示します。
12	元帳摘要	受信したデータの補正結果のうち、元帳摘要を表示します（F7 キーで取引先名と切替）。
13	取引先名	受信したデータの補正結果のうち、元帳摘要を表示します。

- ④データの選別が完了後、データの補正処理を開始します。「要確認」と表示された行をダブルクリックまたはエンター・キーで選択します。

5. 2. 5 仕訳の補正

伝票形式の画面で、勘定科目や課税区分などを補正します。勘定科目や課税区分などが自動表示（初期表示）されている場合でも、自動表示の妥当性をチェックしてください。

(1) 仕訳の補正画面の表示

- ①受信済データの一覧画面でデータを選択すると、仕訳の補正画面が表示されます。1行目には、受信データの情報を自動転記しています。なお、1行目の仕訳は削除できません。

- ②画面上部中央に、表示された仕訳の状態が表示されます。それぞれ次の通りです。

- 1) 「要確認」（背景色：赤色）

補正が完了していない、または確認が必要なデータです。当画面での補正処理または確認処理を経て仕訳計上できるようになります。

- 2) 「確認済」（背景色：青色）

補正済及び確認済のデータです。

- 3) 「計上対象外」（背景色：灰色）

既にFX4クラウドに手入力されているため、仕訳として読み込まないように選別したデータです。

- ③補正した勘定科目や課税区分などの情報は「仕訳ルール」として登録されます。過去に同じ種類の取引を読み込んでいる場合、前回登録された「仕訳ルール」の内容が自動表示（初期表示）されます。取引の種類は、「書類の種類」、「取引先名」で判定します。

- ④また、合致する「仕訳ルール」がない場合も、証憑番号、取引金額、実際の仕入れ年月日については初期表示されます。

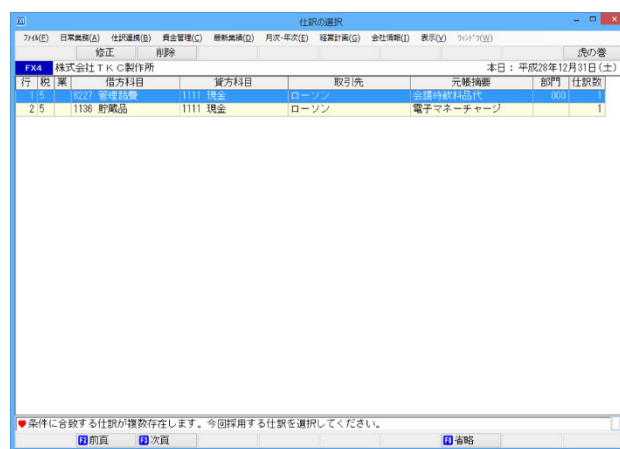
- ⑤以上を踏まえた初期表示の内容は次の通りとなります。なお、仕訳の「年月日」については、仕訳選択の都度、その時点の「本日の日付」が初期表示されます。

行	項目	仕訳ルールに合致する場合 (複数仕訳がある場合はすべて)	合致する仕訳ルールがない場合
1	年月日	本日の日付	同左
2	伝番	1. 自動付番しない設定の場合	同左

		「1」と表示 2. それ以外の場合 「自動付番」と表示。この場合は入力不可となります。	
3	証番	証憑データにセットされた証番。 なお、当項目は入力不可となります。	同左
4	部門	仕訳ルールの内容がセットされます。	空欄
5	課税区分	仕訳ルールの内容がセットされます。	空欄
6	事業区分	仕訳ルールの内容がセットされます。	空欄
7	借方科目	仕訳ルールの内容がセットされます。	空欄
8	借方口座	仕訳ルールの内容がセットされます。	空欄
9	貸方科目	仕訳ルールの内容がセットされます。	空欄
10	貸方口座名	仕訳ルールの内容がセットされます。	空欄
11	取引金額	1. 初期表示の対象取引が1仕訳で構成される場合 前回補正した内容は自動表示されません。代わりに、受信したデータの情報が自動転記されます。 2. 初期表示の対象取引が複数仕訳で構成される場合 「仕訳ルールの確認・変更」画面（285 頁の 5. 3. 2 (3) ご参照）での設定内容に基づき表示されます。 (1) 「受信金額」 受信したデータの「取引金額」がそのままセットされます。 (2) 「固定金額」 受信したデータの「取引金額」に関係なく、固定金額がセットされます。 (3) 「記憶しない」 金額は記憶されません。他の仕訳に「受信金額」や「固定金額」が存在する場合は、受信したデータの「取引金額」とそれらとの差額をセットします。	データにセットされた取引金額
12	(内、消費税等)	1. 課税区分が 1, 11, 12, 5, 51, 6, 61, 7, 71 の場合 (1) 行 11 が「受信金額」と登録されている場合 データにセットされた消費税等 (2) 行 11 が「固定金額」と登録されている場合 取引金額と税率から算出した税額 (3) 「記憶しない」と登録されている場合 取引金額と税率から算出した税額 2. 課税区分が 55, 65, 75 の場合, 「0」と表示 3. 課税区分が上記 1. 2. 以外の場合 空欄	空欄
13	税抜き金額	行 11～行 12	同左
14	税率	データに税率がセットされていた場合は当該税率となり、セットされなかった場合は以下のとおり、前回補正した税率に応じて以下の税率がセットされます。 ①前回補正した税率が、税率テーブルの「標準税率」 データの年月日時点で有効な税率テーブルの「標準税率」 ②前回補正した税率が、税率テーブルの「軽減税率」 データの年月日時点で有効な税率テーブルの「軽減税率」 ③前回補正した税率が、税率テーブルの「経過措置等の税率」 データの年月日時点で有効な税率テーブルの「経過措置等の税率」	データにセットされた税率
15	小切手番号	空欄	空欄
16	実際の仕入れ年月日	仕訳ルールの「実際の仕入れ日」により異なります。 1. 「年月日」 データの年月日がセットされます。	同左

		2. 「年月日～年月日」 自至ともデータの年月日がセットされます。 3. 「年月分」 データの年月日の年月部分がセットされます。 4. 「年月日～年月日」 自至ともデータの年月日の年月部分がセットされます。	
17	収支区分	仕訳ルールの内容がセットされます。	空欄
18	取引先コード	仕訳ルールの内容がセットされます。	空欄
19	取引先名	仕訳ルールの内容がセットされます。	空欄
20	元帳摘要	仕訳ルールの内容がセットされます。	空欄
21	部門	1. 前回の補正内容が単一部門の場合 前回補正した内容が自動表示されます。 2. 前回の補正内容が複数部門の場合 自動表示されません。	空欄

- 1) なお、該当する「仕訳ルール」が複数存在する場合は仕訳が自動表示されず、当画面を開いたタイミングで登録済みの「仕訳ルール」の一覧画面が表示されます。今回適用する「読みルール」を選択してください。[F8 省略] ボタンをクリックすると、既存の「仕訳ルール」を適用せずに新規に仕訳補正を開始します。



- 2) 仕訳の補正画面上部の[ルール再選択]ボタンを実行することで、「仕訳ルール」を選び直すことができます。誤って意図しないルールを選択した場合などにご利用ください。

(2) 仕訳の補正処理

- 画面上部の[行訂正]ボタンをクリックすると画面が入力モードになります。画面下部の仕訳情報などを参考に、勘定科目や課税区分などを補正します。
- なお、登録済みの「仕訳ルール」に基づき仕訳が初期表示された場合で、かつ仕訳の形式要件を満たしている場合は、[F4 確認済] ボタンをクリックすることにより、補正済の扱いにすることが可能です。表示された内容に誤りがないことを確認の上、ご利用ください。
- 入力モード時は、「伝票（5伝票型）」の入力画面と同様の機能です。[F2 仕訳辞書] ボタンで仕訳辞書、[F7 仕訳DB] ボタンで仕訳DBからの複写できます。



「伝票（5伝票型）」との相違点は以下の通りです。

- 取引金額0円の仕訳は入力できません。
- 伝票番号を自動付番する設定の場合、仕訳読込時に自動付番するため、「伝票番号」は入力できません。
- 当画面では、次の処理を省略します。これらの処理は、受信済データの一覧画面で[F4 可仕訳計上] ボタンをクリックして仕訳を計上するタイミングで処理します。
 - 手形の選択

- b. 手形の登録
- c. 電子記録債権の選択
- d. 電子記録債権の登録
- e. 回収予定日、支払予定日の登録

■ワンポイント■ 「仕訳の補正」時の便利機能！

過去の仕訳（仕訳DB）からの複写機能を利用すれば簡単に仕訳の補正処理が行えます。また、これまで仕訳辞書を活用していた会社であれば、仕訳辞書からの複写機能を利用することで、仕訳補正の手間が軽減されます。

- ④補正が完了すると、画面中央上部の表示が「確認済」に変わります。[F3 次仕訳] ボタンをクリックして、次の仕訳の補正を行います。

- (3) 1 件のデータで複数の仕訳を補正入力する場合の処理方法

仕訳の補正画面では、2 行目以降に受信したデータに関連する仕訳を追加入力することができます。追加入力した仕訳についても、補正した勘定科目や課税区分などを学習します。

この場合、2 行目以降に入力した仕訳の「取引金額」は学習の対象外です。次回以降、同じ種類の取引を読み込んだ場合、2 行目以降には今回補正した仕訳が自動表示されますが、「取引金額」は 0 円となります。その結果、「仕訳計上」欄は「要確認」となります（当パターンの取引を補正することなく、そのまま仕訳として読み込むことはできません）。

ただし、当パターンの仕訳であっても、後から仕訳ルールの確認・変更画面（285 頁の 5. 3. 2 (3) ご参照）で設定することにより、「取引金額」を学習させることが可能です。例えば、毎月受領する請求書の送料が一定金額という場合、送料分を固定金額として設定すると、自動的に請求額には合計金額との差額がセットされます。

- (4) 「仕訳ルール」の登録

①当画面で補正した内容は「仕訳ルール」として自動的に登録され、次回以降同じ種類の取引を受信した際に、前回登録された「仕訳ルール」の内容が自動表示（初期表示）されるようになります。

②なお、「仕訳ルール」は「条件部」（受信したデータが同じ種類の取引であると判定するための条件）と「仕訳部」（条件に合致した場合に初期表示する仕訳）から構成されます。さらに「条件部」は、データの「書類の種類」及び「取引先名」から構成されます。つまり、「書類の種類」と「取引先名」が一致するか否かで同じ種類の取引か否かが判定されます。

【「仕訳ルール」のイメージ】

条件 (取得したデータがこの条件に合致したら)	書類の種類		取引先名		
	領収書(栃木支店分)		(株)P J サプライ 鹿沼店		
					
仕訳 (この仕訳を初期表示する)	税区	借方科目	貸方科目	取引先	元帳摘要
	[5]	備品消耗品費	現金	(株)P J サプライ	掃除用具代

③ただし、例えば「取引先名」が「(株)P J サプライ 鹿沼店」という場合に、これをそのままルール化してしまうと、「(株)P J サプライ 鶴田店」のデータ受信時にはルールに合致しないこととなってしまいます。

仕訳ルールの「条件」	書類の種類	取引先名
	領収書(栃木支店分)	(株)P J サプライ 鹿沼店
		
翌月受信したデータ	書類の種類	取引先名
	領収書(栃木支店分)	(株)P J サプライ 鶴田店

④このような場合、「取引先名」が『「(株)P J サプライ 鹿沼店」と完全に一致する場合』ではなく、下図のように、例えば『「(株)P J サプライ」で始まる場合』と変更できれば、後ほど受信する「(株)P J サプライ 鶴田店」というデータにもこの「仕訳ルール」を適用することができます。

仕訳ルールの「条件」

書類の種類	取引先名	
領収書(栃木支店分)	(株) P J サプライ	鹿沼店
と完全に一致		

変更

書類の種類	取引先名	
領収書(栃木支店分)	(株) P J サプライ	で始まる

⇕
●
ルールに合致

翌月受信したデータ

書類の種類	取引先名
領収書(栃木支店分)	(株) P J サプライ 鶴田店

⑤そこで、「取引先名」については、ルール化する際に文字列を編集可能にするとともに、受信したデータにセットされた「取引先名」が、その文字列と比較して「どういう状態にある場合に」ルールに合致したかどうかという設計が可能です。具体的には、次の4通りの設計が可能です。

1) 「と完全に一致」

登録された文字列と**完全に一致**する場合に、ルールに合致したものとします。毎回必ず同じ「取引先名」がセットされてくる場合は、最も確実な方法です。

2) 「で始まる」

受信してきたデータの「取引先名」が、登録された文字列**で始まる**場合、ルールに合致したものとします。上記③の「(株)P J サプライ 鹿沼店」のように、複数の店舗を有する小売店で購入するような場合で、かつ先頭部分の変更がない場合に有効利用できます。この場合、ルール化する文字列を「(株)P J サプライ」に編集した上で、この文字列「で始まる」と設定することにより、別店舗のデータに対しても仕訳ルールを適用できるようになります。

「(株)P J サプライ 鹿沼店」「と完全に一致」 → 「(株)P J サプライ」「で始まる」

3) 「で終わる」

受信してきたデータの「取引先名」が、登録された文字列**で終わる**場合、ルールに合致したものとします。例えば、証憑保存機能でOCR読取した結果、取引先名が「掃除のお店 P J サプライ」だったとします。この時、証憑保存機能の利用者によっては、「掃除のお店」を削除し、「P J サプライ」のみを「取引先名」として残す可能性があります。この場合、「掃除のお店 P J サプライ」と「完全に一致」というルールでは一致しませんが、ルール化する文字列を「P J サプライ」に編集した上で、この文字列「で終わる」と設定することにより、仕訳ルールを適用できるようになります。

「掃除のお店 P J サプライ」「と完全に一致」 → 「P J サプライ」「で終わる」

4) 「を含む」

受信してきたデータの「取引先名」の中に、登録された文字列**を含む**場合、ルールに合致したとします。先ほどの「(株)P J サプライ 鹿沼店」の場合で、利用者により「株式会社」や「(株)」など会社組織の表記に揺れが生じるような場合に有効利用できます。この場合、ルール化する文字列を「P J サプライ」に編集した上で、この文字列「を含む」と設定することにより、以降のデータに対しても仕訳ルールを適用できるようになります。

「(株)P J サプライ 鹿沼店」「と完全に一致」 → 「P J サプライ」「を含む」

⑥当画面で新規取引の補正処理を行うと、初期値では
” 「取引先名」「と完全に一致」 ” という条件で
「仕訳ルール」が登録されます。

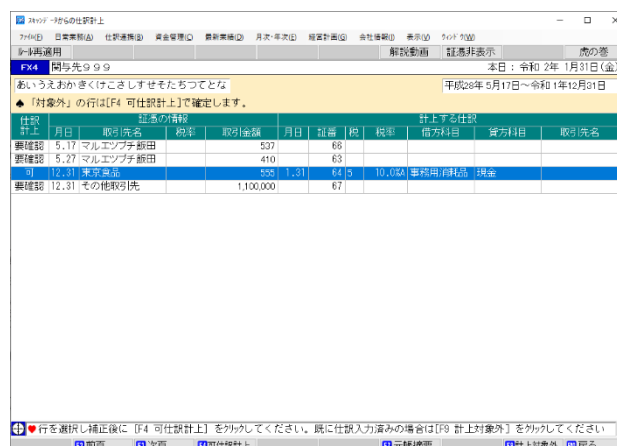
変更が必要な場合は、当画面下部の「条件変更」ボタンをクリックし、条件を変更してください。
なお、当欄は新規取引の仕訳計上時（合致する仕訳ルールがなかった場合）のみ表示されます。もし仕訳計上後に変更が必要となった場合は、仕訳ルールの確認・変更画面で修正してください。

⑥なお、前回登録された「仕訳ルール」の内容が自動表示（初期表示）された後、仕訳の補正時に次のいずれかの項目を変更した場合は、別の「仕訳ルール」として登録されます。

行	項目	特記事項等
1	課税区分	
2	事業区分	
3	税率	税率が受信されなかった場合に限り、以下のとおり登録されます。 ①登録済の「仕訳ルール」の税率が「日付判定（標準税率）」の場合は、標準税率以外の税率へ変更した場合のみ、変更後の税率で「仕訳ルール」が新規登録されます。 ②同様に、登録済の「仕訳ルール」の税率が「日付判定（軽減税率）」の場合は、軽減税率以外の税率へ変更した場合のみ、変更後の税率で「仕訳ルール」が新規登録されます。 ③登録済の「仕訳ルール」の税率が日付判定以外(例 8.0%)の場合は次の通りです。 1) 標準税率に変更した場合は、税率を「日付判定（標準税率）」として「仕訳ルール」が新規登録されます。 2) 軽減税率に変更した場合は、税率を「日付判定（軽減税率）」として「仕訳ルール」が新規登録されます。 3) 税率テーブルの「標準税率」または「軽減税率」以外へ変更した場合は、変更後の税率で「仕訳ルール」が新規登録されます。
4	借方科目	
5	借方口座	
6	貸方科目	
7	貸方口座	
8	取引先コード	
9	取引先名	今回補正時に「随時入力」をした場合のみ、当項目はチェックされます。「仕訳ルール」に登録済の取引先名称と異なる場合は、変更したものと扱われます。

5. 2. 6 仕訳の計上

- (1) 補正対象のデータの補正完了後、仕訳を計上します。
補正処理完了後、受信済みデータ一覧画面に戻ります。補正が完了したデータについては、「仕訳計上」欄に「可」と表示されます。
- [F4 可仕訳計上] ボタンをクリックすると、補正済のデータについて仕訳計上します。また、仕訳計上対象外としたデータについては、選択を確定します。

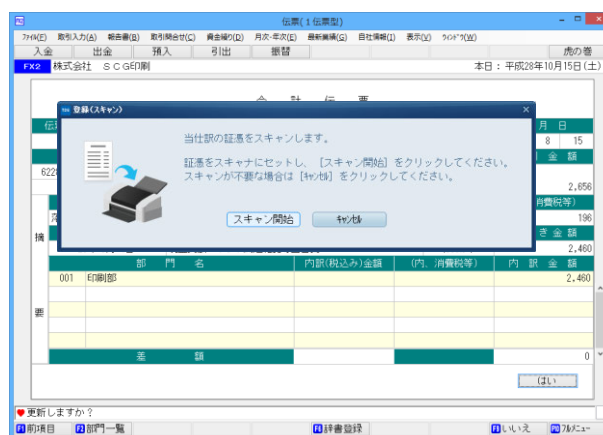


<仕訳への証憑貼付>

5. 2. 7 仕訳入力直後の証憑貼付

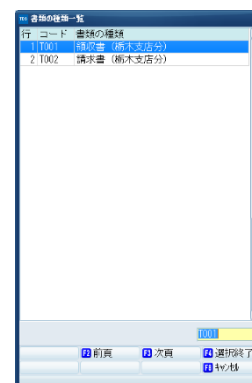
仕訳入力直後に証憑を保存します。保存した証憑は自動的に仕訳に貼付されます。

- (1) 1 伝票、5 伝票、複合仕訳画面等
- ①入力制御情報メニューで「仕訳入力後の証憑保存」を「実施する」と設定したユーザが仕訳を入力すると、入力終了時にメッセージが表示されます。
 - ②メッセージに従い証憑保存を行います 1。



- (2) 「書類の種類」の選択

- ①書類の種類一覧画面が表示されます。スキャンする証憑が該当する「書類の種類」を選
択し、[F4 選択終了] ボタンをクリックします。
- ②ボタンクリック後に保存されます。



■ワンポイント■ 書類の種類一覧画面に目的の「書類の種類」が表示されない場合

当画面には、証憑保存機能の「業務分類」メニューの権限を設定した「書類の種類」のみが表示されます。権限未設定または「閲覧のみ (全画像)」の権限を設定した「書類の種類」は表示されません。

(3) スキャン後の画像確認

- ①スキャン処理が完了後、読み取った画像と「取引内容」が表示されます。画像が正常にスキャンできていることを確認します。画像が正常にスキャンできず再度スキャンする場合は「再スキャン」ボタンをクリックします。

また、「取引内容」の各項目には仕訳で入力した次の内容が初期表示されます。必要に応じて修正します。

- 1) 取引年月日・・・実際の仕入れ年月日
- 2) 取引先名・・・取引先名
- 3) 税率・・・税率(※)
- 4) 取引金額・・・取引金額



(※) 税率は、令和3年10月1日以降処理する場合に初期表示されます。

- ②確認終了後、「保存」ボタンをクリックします。

すると画像がTKCデータセンターに保存されます。また、仕訳の証憑番号が未入力の場合は、証憑データに自動付番された証憑番号が仕訳の証憑番号に更新された上で、仕訳も更新されます。次の伝票入力に進みます。

■ワンポイント■ 仕訳入力時には証憑番号を入力しないでください

電子帳簿保存法では、スキャナ保存している国税関係書類とこれに関連する国税関係帳簿の記録事項との間で、相互に関連性を確認できるようにすることが規定されています（電子帳簿保存法施行規則第3条第5号第5項）。

証憑保存機能とFX4クラウドでは、この要件を満たすため「証憑番号」を利用します。なお、入力の手間を省くため、証憑保存機能で証憑スキャン時に自動的に証憑番号を付番し、これをFX4クラウドの仕訳の証憑番号に自動的にセットします。証憑に証番を手書き記載する必要はありません。

ただし、仕訳入力時に証憑番号を入力済の場合は、手入力した番号を優先し上書きはしないため、「仕訳への証憑貼付機能」をご利用の場合は、仕訳入力時に証憑番号を入力しないでください。

■ワンポイント■ 1 証憑を複数の仕訳に貼付する方法

複合仕訳入力機能または仕訳への証憑貼付機能を利用することにより貼付が可能です。それぞれ以下の通りです。

1. 複合仕訳入力機能を利用する場合

複合仕訳全体の入力終了するタイミングで都度保存用の確認メッセージが表示されます。ここで証憑を保存することにより、すべての行（単純仕訳）に対して同じ証憑が貼付されます。

2. 仕訳への証憑貼付機能を利用する場合

- (1) 最初の仕訳入力後に表示される証憑保存確認メッセージに従い都度保存します。
- (2) 次の仕訳入力時に表示される証憑保存確認メッセージでは証憑保存処理をキャンセルします。
- (3) 「仕訳への証憑貼付」メニューを開き、2枚目の仕訳を青反転した状態で「証憑の選択(F2)」ボタンをクリックします。
- (4) 画像の一覧画面が表示されますので、1枚目の仕訳に貼付した証憑を選択して貼付します。

<仕訳への証憑貼付（一括貼付）>

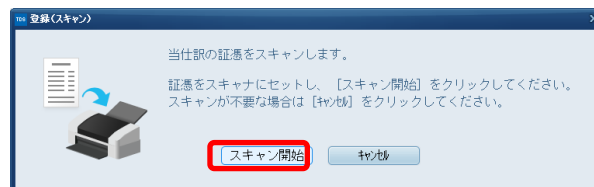
5. 2. 8 証憑の一括貼付

連続して証憑を保存し、仕訳に貼付します。

(1) 仕訳への証憑貼付画面

- ① 「仕訳への証憑貼付」メニューを選択すると当画面が開きます。次のすべての条件に合致する仕訳が初期表示されます。変更する場合は画面上部の「条件検索」ボタンをクリックします。
 - 1) 仕訳の取引年月日が本日の日付のもの
 - 2) 当メニューを起動したユーザの入力したもの
 - 3) 証憑が未貼付のもの
- ② 証憑を貼付する仕訳行を青反転した上で、「証憑の追加(F4)」ボタンをクリックします。

- ③すると当画面が表示されます。スキャナに証憑をセットした上で、「スキャン開始」ボタンをクリックします。



(2) 「書類の種類」の選択

- ①書類の種類一覧画面が表示されます。スキャン対象の証憑が該当する「書類の種類」を選択し、「F4 選択終了」ボタンをクリックします。
- ②ボタンクリック後にスキャン処理が開始されます。

■ワンポイント■ 書類の種類一覧画面に目的の「書類の種類」が表示されない場合

当画面には、証憑保存機能の「業務分類」メニューで権限を設定した「書類の種類」のみが表示されます。権限未設定または「閲覧のみ（全画像）」の権限を設定した「書類の種類」は表示されません。

③スキャン処理が完了後、読み取った画像と「取引内容」が表示されます。画像が正常にスキャンできていることを確認します。また、「取引内容」の各項目には仕訳で入力した次の内容が初期表示されます。必要に応じて修正します。

- 1) 取引年月日・・・実際の仕入れ年月日
- 2) 取引先名・・・取引先名
- 3) 税率・・・税率 (※)
- 4) 取引金額・・・取引金額

(※) 税率は、令和3年10月1日以降処理する場合に初期表示されます。



- ④確認終了後、[保存] ボタンをクリックします。すると画像がTKCデータセンターに保存されます。また、仕訳の証憑番号が未入力の場合は、証憑データに自動付番された証憑番号が仕訳の証憑番号に更新された上で、仕訳も更新されます。次の行に進みます。
- ⑤なお、当画面では、証憑一覧から選択して貼付することも可能です。

■ワンポイント■ 月次決算済の仕訳には証憑の貼付、貼付解除ができません。
 当メニューでは、入力済の仕訳に証憑を貼付できます。ただし、以下の仕訳については貼付できません。

- ・月次決算済の仕訳
- ・月次決算済仕訳の訂正・削除時に自動計上されるマイナス仕訳

<仕訳への証憑貼付（一括証憑）>

5. 2. 9 証憑の選択

証憑保存機能に保存された証憑の一覧から仕訳に貼付するものを選択します。

(1) 仕訳への証憑貼付画面

- ①「仕訳への証憑貼付」メニューを選択すると当画面が開きます。次のすべての条件に合致する仕訳が初期表示されます。変更する場合は画面上部の「条件検索」ボタンをクリックします。

- 1) 仕訳の取引年月日が本日の日付のもの
- 2) 当メニューを起動したユーザの入力したもの
- 3) 証憑が未貼付のもの

- ②証憑を貼付する仕訳行を青反転した上で、「証憑の選択(F2)」ボタンをクリックします。

(2) 証憑の一覧画面

- ①証憑の一覧画面が表示されます。下図の通り、目的の証憑をドラッグし、仕訳への証憑貼付画面の下部の伝票表示領域にドロップすることにより、貼付できます。

- 1) 目的の証憑を探し、画像の上にマウスポインタを乗せます。
- 2) その状態で、マウスの左ボタンをクリックします。

クリックしたまま、仕訳への証憑貼付画面の下部の伝票表示領域までマウスポインタを移動し、マウスの左ボタンから手を放します。

【図：証憑の貼付方法】

- ②証憑の貼付が可能な仕訳は月次決算未了のものに限ります。

- ③その他、一覧画面の操作方法は次の通りです。

1) [登録] ボタン

その場で新規に証憑を保存します。保存完了後、証憑は一覧画面に反映します。

2) [差替え] ボタン

スキャンした画像が法で要求される解像度を満たしていない、また日付を追記した等の理由により、同一証憑を再度保存する必要がある場合は、当ボタンをクリックします。

なお、電子帳簿保存法の要件を満たすため、請求額に誤りがある等の理由により、当初スキャンした証憑と別の証憑を新たに受領した場合は、[登録] ボタンをクリックしてください。

3) [削除] ボタン

証憑を削除します。なお、電子帳簿保存法の規定により、証憑データは物理的に削除されず、「削除済」という情報が付加された状態で残ります。

4) [詳細表示] ボタン

選択された証憑を拡大表示します。

5) [検索] ボタン

検索条件指定画面が表示されます。取引年月日、取引先名等の項目で絞り込み表示できます。

6) 表示

証憑の表示方法を変更します。左のボタンをクリックすると証憑横並びで、右ボタンをクリックするとリスト形式で表示されます。

7) 件数

1画面に表示する最大の画像数を指定します。20 件、30 件、40 件から選択できます。

■ワンポイント■ 月次決算済の仕訳には証憑の貼付、貼付解除ができません。

当メニューでは、入力済の仕訳に証憑を貼付できます。ただし、以下の仕訳については貼付できません。

- ・月次決算済の仕訳
- ・月次決算済仕訳の訂正・削除時に自動計上されるマイナス仕訳

5. 2. 10 仕訳帳、元帳画面等からの証憑問合せ

仕訳に貼付された証憑を問い合わせます。

(1) 仕訳帳等の問い合わせ画面

- ①仕訳帳等の画面を開くと、証憑の貼付された仕訳については「証」欄にクリップのアイコンが表示されます。

月日	伝票	税	税率	借方科目	貸方科目	取引先名	元帳摘要	取引金額	証
10. 1	1	5	8.0%	通信交通費	未払金	国際自動車	国際自動車会費	1,630	📎
10. 1	1	5	8.0%	通信交通費	現金	澤谷書店	業務用書籍購入費	2,656	📎
10. 1	1	5	8.0%	通信交通費	現金	澤谷書店	業務用書籍購入費	1,000	📎
10. 1	1	5	8.0%	通信交通費	現金	くまざわ書店	業務用書籍購入	849	📎
10.31	1	5	8.0%	備品・消耗品費	現金	農家の店 みのり	掃除用具	1,050	📎
10.31	1	5	8.0%	備品・消耗品費	現金			21,755	

- ②「証憑表示」ボタンをクリックすると、仕訳に貼付された証憑が表示されます。

1)画像下にある[← →]ボタンをクリックすると、画像と仕訳とを切り離して表示できます。ディスプレイが2台あるような場合はそれぞれのディスプレイに仕訳と証憑とを表示できます。

月日	伝票	税	税率	借方科目	貸方科目	取引先名	元帳摘要	取引金額
10. 1	1	5	8.0%	通信交通費	未払金	国際自動車	国際自動車会費	1,630
10. 1	1	5	8.0%	通信交通費	現金	澤谷書店	業務用書籍購入費	2,656
10. 1	1	5	8.0%	通信交通費	現金	澤谷書店	業務用書籍購入費	1,000
10. 1	1	5	8.0%	通信交通費	現金	くまざわ書店	業務用書籍購入	849
10.31	1	5	8.0%	備品・消耗品費	現金	農家の店 みのり	掃除用具	1,050
10.31	1	5	8.0%	備品・消耗品費	現金			21,755

2) [貼付解除] ボタンについて

- 証憑画面右下の[貼付解除]ボタンを実行すると、選択中の仕訳から表示されている証憑を剥がすことができます。
- また、証憑番号をシステムで自動付番している(仕訳と証憑の証憑番号が一致する)場合、以下の処理も併せて行います。
 - 1枚の証憑が貼付されている状態で貼付解除した場合、証憑番号をクリアします。
 - 複数枚の証憑が貼付されている状態で、仕訳の証憑番号の証憑を貼付解除した場合、代わりの証憑の証憑番号をセットします。
- なお、月次決算済の仕訳および月次決算済仕訳の訂正・削除時に自動計上されるマイナス仕訳に貼付されている証憑を貼付解除することはできません。

■ワンポイント■ 「指定された書類が見つかりません」と表示される場合
証憑保存機能の「業務分類」メニュー当該書類を閲覧する権限が設定されていないことが原因です。「権限が設定されていない」には次の2種類があります。

1. 「書類の種類」の閲覧権限がない場合

当該書類が属する「書類の種類」の閲覧権限が設定されていないと、FX4クラウドでは表示されません。

2. 自身がスキャンした画像のみを閲覧できる権限を付している場合

「書類の種類」の閲覧権限は付しているものの、自身がスキャンした画像のみを閲覧可能と設定している場合、他のユーザがスキャンした証憑は閲覧できません。

仕訳帳

FX4 株式会社 T K O 製作所

平成 28 年 9 月 1 日 ~ 平成 28 年 10 月 30 日

本日：平成28年10月30日(日)

指定された書類が見つかりません。

月日	伝番	税	税率	借方科目	貸方科目	取引先名	元帳摘要	取引金額	証
10. 1	1	5	8.0%	通信交通費	現金	くまざわ書店	ネット関連書籍購入	600,000	〇
10.30	2	5	8.0%	新聞図書費	現金	くまざわ書店	ネット関連書籍購入	918	〇
10.30	3	5	8.0%	新聞図書費	現金	くまざわ書店	ネット関連書籍購入	918	〇
10.30	4	5	8.0%	備品消耗品費	現金	株式会社 P J サプライ	清掃用モップ	2,180	〇
10.30	6	5	8.0%	備品消耗品費	現金	株式会社 P J サプライ	清掃用モップ	2,180	〇
10.30	7	5	8.0%	新聞図書費	現金	木下書店	電子帳簿保存法テキスト	2,058	〇
10.30	8	5	8.0%	通信交通費	現金	富田タクシー	先生送迎	1,900	〇
10.30	9	5	8.0%	新聞図書費	現金	まざわ書店	ネット関連書籍購入	849	〇
10.30	10	5	8.0%	新聞図書費	現金	株式会社 P J サプライ	清掃用モップ	2,180	〇

内容を確認する行をダブルクリックまたはエンター・キーで選択してください。

入力順 前頁 次頁 証憑番号 事業区分 仕入れ日 消費税等 7/6/20

(2) 検索条件指定画面

- ①画面上部の「条件検索」ボタンをクリックすると、当画面が表示されます。「証憑貼付」欄で、証憑の貼付された仕訳、貼付されていない仕訳の検索が可能です。

1) すべて

証憑の貼付、未貼付を問わずすべての仕訳を表示します。

2) 貼付済

証憑の貼付された仕訳のみを表示します。

3) 未貼付

証憑の貼付されていない仕訳のみを表示します。

検索条件指定

検索対象仕訳

● 全仕訳

○ 前月追加仕訳 (未月次決算分)

○ 自動仕訳

システム名

自動仕訳番号

入力担当者

すべての入力担当者

承認

● すべて ○ 承認済 ○ 未承認

検索条件の指定

入力画面

年月日

伝(真)番

システム名

自動仕訳番号

入力担当者

承認

仕入れ日

取引金額

取引先名

元帳摘要

7/6/2外

収支区分

部門名

入力日

入力番号

証憑貼付

すべて

貼付済

未貼付

条件取消

5. 3 その他の機能

5. 3. 1 受信対象書類の追加

証憑からの仕訳計上時に、仕訳計上対象とする「書類の種類」を追加する手順は次の通りです。

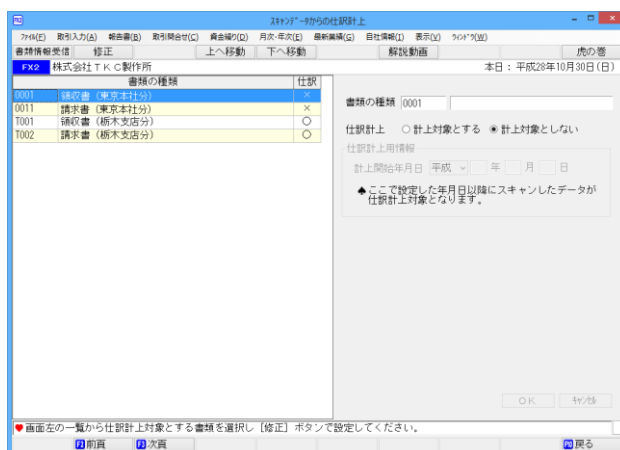
(1) FX4クラウドでの設定

- ①「会社情報」タブの「証憑からの仕訳計上準備」メニューを選択します。



- ②受信対象書類の選択画面が開きます。

左側の一覧で、受信対象とする書類の種類の行を青反転し、「仕訳計上」欄を「計上対象とする」に変更し、「計上開始年月日」を設定します。



■ワンポイント■ 「計上開始年月日」として設定する年月日

「計上開始年月日」の日付以降に保存した書類が受信対象となります（書類の「取引年月日」は無関係ですのでご注意ください）。

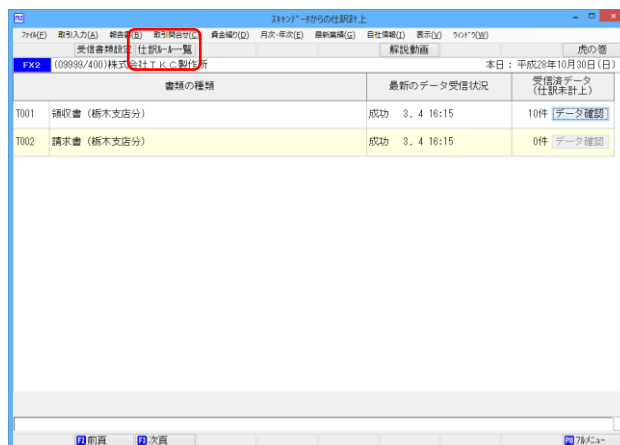
なお、「計上開始年月日」として設定可能な日付は、「当月」（直近の月次決算完了月の翌月）の開始日以降となります。

5. 3. 2 仕訳ルールの確認・変更

証憑からの仕訳計上機能をご利用の際に、仕訳計上時に自動的に登録された「仕訳ルール」を確認します。また、「仕訳ルール」の修正や削除を行います（なお、「仕訳ルール」の詳細については273頁の5.2.5(4)をご参照ください）。

(1) 画面の起動

- ①「証憑からの仕訳計上」メニューを選択し、書類の選択画面を表示します。画面上部の「仕訳ルール一覧」ボタンをクリックします。

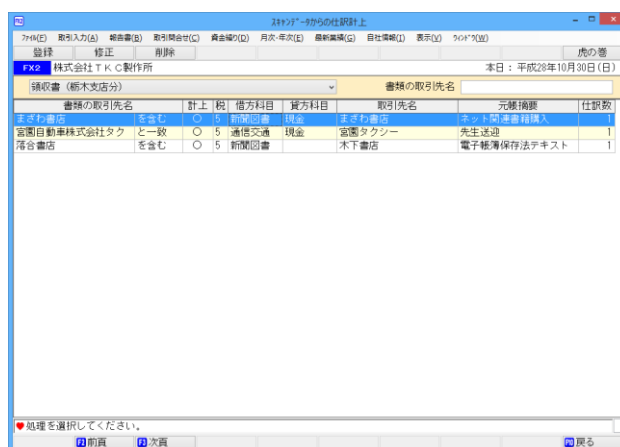


(2) 仕訳ルールの一覧画面

- ①登録済みの「仕訳ルール」が一覧表示されます。画面左上で書類の種類を選択すると、当該書類の種類で作成済みの仕訳ルールが一覧表示されます。

「計上」欄が「○」のものは条件に合致した場合に仕訳を計上するもの、「×」のものは計上対象外とするものを示します。

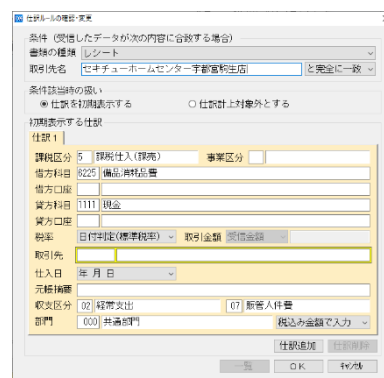
条件に合致した場合に、複数の仕訳を計上する仕訳ルールについては、最初の仕訳の情報のみが表示されます。その場合、「仕訳数」欄に総仕訳件数が表示されます。



- ②当画面で新規に「仕訳ルール」を登録する場合は[登録]ボタンを、修正する場合は[修正]ボタンを、削除する場合は[削除]ボタンをそれぞれクリックします。

(3) 仕訳ルールの確認・変更画面

- ①仕訳ルールの一覧画面で[登録]または[修正]ボタンをクリックすると当画面が表示されます。「条件」と当条件に合致した場合の処理、および初期表示する仕訳を登録します。
- ②なお、複数の科目にまたがる購入を行う場合や、毎月受領する請求額の中に送料が含まれるような場合等を考慮し、複数の仕訳を登録することが可能です。必要場合は[仕訳追加]ボタンをクリックします。登録した仕訳が不要な場合は[仕訳削除]ボタンをクリックします。ただし、「仕訳1」タブは削除できません。
- ③また、「仕訳追加」ボタンによって複数の仕訳を登録した場合に限り、「取引金額」欄が選択可能となります。各選択肢とそれぞれの内容は次の通りです。



1) 「受信金額」

受信したデータの「取引金額」をそのままセットします。なお、「受信金額」は「仕訳1」タブでの

み選択可能です。

2) 「固定金額」

受信したデータの「取引金額」に関係なく、固定金額をセットします。例えば次のような場合にご利用いただけます。

- ・毎月受領する請求書の送料が一定金額という場合、送料分を固定金額として設定すると、自動的に請求額には合計金額との差額がセットされます。

3) 「記憶しない」

金額は記憶しません。他の仕訳に「受信金額」や「固定金額」が存在する場合は、受信したデータの「取引金額」とそれらとの差額をセットします。

5. 3. 3 月次更新時の証憑番号チェック

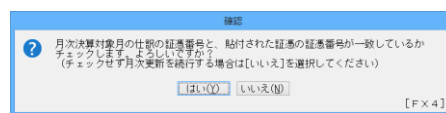
電子帳簿保存法では、スキャナ保存している国税関係書類とこれに関連する国税関係帳簿の記録事項との間で、相互に関連性を確認できるようにすることが規定されています（電子帳簿保存法施行規則第3条第5号第5項）。

証憑保存機能とFX4クラウドでは、この要件を満たすため「証憑番号」を利用しています。証憑保存機能で証憑保存時に自動的に証憑番号を付番し、これをFX4クラウドの仕訳の証憑番号に自動的にセットします。ただし、仕訳への証憑貼付機能をご利用の場合で、仕訳入力時に証憑番号を入力済の場合は、手入力した番号を優先して上書きはしません。

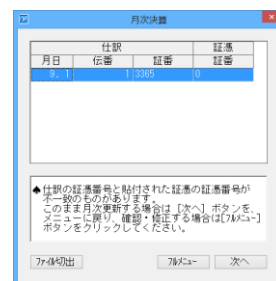
証憑番号が不一致のデータが存在する場合は、月次更新時にチェックし、メッセージを表示します。

(1) 月次更新画面

- ①証憑保存機能をご利用の場合、月次更新時に当メッセージが表示されます。[はい] ボタンをクリックするとチェックを開始します。



- ②チェックの結果、証憑と証憑番号の一致していない仕訳があった場合は、右の画面が表示されます。メニューに戻り、確認・修正を行う場合は、[メニュー] ボタンをクリックします。なお、[ファイル切出] ボタンで画面の内容をファイルに切り出すことも可能です。



■ワンポイント■ チェックのためには証憑保存機能に監査担当者のユーザIDの登録が必要です。当チェックでは、証憑保存機能に登録された証憑データを参照するため、証憑保存機能にログインします。

ログインに際しては証憑保存機能に登録されたユーザID、パスワードの入力が必要となるため、チェックを実施する場合は、監査担当者のユーザID、パスワードを予め証憑保存機能に登録しておいてください。

■ワンポイント■ 効果的なチェックには全書類の参照権限が必要です。

証憑保存機能で参照権限のある証憑データのみをチェックすることができます。効果的なチェックを行うためには、すべての証憑の参照権限が必要です。なお、証憑の参照権限がない場合、当画面の「証憑」欄には「－(参照不可)」と表示されます。

5. 3. 4 1 仕訳への複数証憑貼付

証憑からの仕訳計上機能または仕訳への証憑貼付機能で1仕訳に1証憑を貼付後、追加で見積書、契約書等を貼付することも可能です。手順は以下の通りです。

- (1) 「仕訳への証憑貼付」メニューを選択します。
- (2) 画面上部の「条件検索」ボタンをクリックします。
- (3) 「証憑貼付」欄を「すべて」に変更し、
「OK」ボタンをクリックします。

- (4) すると、証憑貼付済の仕訳も表示されます。
証憑を追加で貼付したい仕訳を青反転させた状態で、
「証憑の選択」ボタンをクリックします。

- (5) 証憑の一覧画面が表示されます。追加で貼付する証憑を
ドロップし、伝票画面にドロップすることにより貼付します。

T K C 経理業務 効率化セミナーテキスト		(2023春)
令和5年 1月17日	第1版発行 ©T K C	
令和5年 3月 1日	第2版発行 ©T K C	
	著 者 株式会社T K C	
	発行者 飯塚 真規	
	〒162-8585	東京都新宿区揚場町2-1 軽子坂MNビル5F
不許複製		

※当テキストは、T K Cが経理業務 効率化セミナーでの使用目的で作成した資料です。

※Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

※Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。

※Excelは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

※Excelの正式名称は、Microsoft Excelです。

